

2018年度 L2-Tech水準表 Ver.1.00

2018年度 L2-Tech水準表 Ver.1.00 (2018年12月)

- 本水準表の作成にあたっては、カタログ等、企業が広く公表している資料及びWebページを中心に情報を収集し、当該技術に専門的知見を有する有識者からもご意見をいただきながら、科学技術的・客観的観点から情報を整理しています。
- 本水準表は、2018年12月までに収集した情報をもとに作成したものであり、今後も情報収集を継続するとともに、ご意見をいただき更新・充実させていく予定です。

項目		主な記載内容
L2-TechリストNo.		設備・機器等ごとにIDを付番。
区分		以下のように、エネルギー源を示した「部門」軸と、エネルギー技術を原理・しくみの違いで整理した「技術」軸に区分。 部門1 ：当該設備・機器等の導入可能性の高い部門 部門2 ：当該設備・機器等の利用可能性の高い用途、業種、プロセス、輸送手段、エネルギー種別 技術分類 ：設備・機器等のカテゴリ（基本的な原理・しくみの種別） ※参照：環境省「日本の約束草案要綱（案）」、国立環境研究所「日本国温室効果ガスインベントリ報告書」、エネルギー戦略協議会「エネルギー技術体系」、日本エネルギー経済研究所「エネルギー・経済統計要覧」
設備・機器等		設備・機器等（システム、設備・機器、部材等）の名称を記載。2050年までに80%の温室効果ガス削減という目標に向けて、環境省がCO2削減に重要と考える設備・機器等（カテゴリ）を、「CO2削減効果」及び「導入可能性」の観点で選定。
原理・しくみ		設備・機器等の原理・しくみ、またはCO2削減に資する原理・しくみの説明を記載。
クラス		認証の単位となるクラスを記載。購買の選択条件に応じて、条件（仕様、付加機能等）、及び能力（加熱能力、発電出力等）で分類。
認証対象		2017年度冬のL2-Tech認証制度において、募集対象となる設備・機器等を「○（または●*1）」、募集対象外の設備・機器等を「-（ハイフン）」として記載。 *1 簡易申請の対象となり得るクラス（条件・能力）に付与（詳細は、実施要領に記載）
L2-Tech水準表情報No.		クラスごとにIDを付番。
L2-Tech水準		L2-Tech水準を記載。本水準は、指定された試験条件に基づき測定された結果を、指定の計算方法によって算出した値である。本水準は、2018年1月時点における値であり、かつ収集できた情報のうち最高性能の値を採用している。なお、「*（アスタリスク）」が付与されているクラスは、根拠資料として試験結果報告書の提出を受付可能であることを示す。（詳細は、実施要領に記載）
指標	測定単位	L2-Tech水準の単位、及びその名称を記載。
	評価方法のタイプ	以下のいずれかから、効率性能の評価方法のタイプを記載。 標準規格による評価 ：JIS等の国際・日本標準の規格、または省エネ法等の法律に準拠した試験条件及び計算方法によって評価する方法 標準条件による評価 ：規格化されていないが一部で標準条件として用いられている、または標準として業界と合意した試験条件及び計算方法によって評価する方法 シミュレーションによる評価 ：標準条件に基づき、実試験ではなくコンピュータ上で模擬試験を行うことによって評価する方法 具備機能による評価 ：一定レベル以上の機能を具備しているものを評価する方法
	計算方法	性能の計算方法について、準拠すべき規格または具体的な方法を記載。
試験条件		性能を評価するための試験条件について、準拠すべき規格または具体的な条件を記載。
備考		特記事項を記載。

記号の使用法

本水準表の中の「-」、「・」及び「/」は、下記を示す。

「-」：対象項目に該当する情報が存在しない、非対象、調査中、または調整中。

「・」：AND条件。例）空調機（ヒートポンプ・個別方式） → （ヒートポンプかつ個別方式の）空調機

「/」：OR条件。例）空調/産業用プロセス → 空調または産業用プロセス

区分	L2-Tech リスト№	設備・機器等	(掲載数)	
空調機 (ヒートポンプ・個別方式)	L-000897	ガスヒートポンプ	(5)	
	L-000898	パッケージエアコン(店舗・オフィス用)		
	L-000899	パッケージエアコン(設備用)		
	L-000900	パッケージエアコン(ビル用マルチ)		
熱源・空調機 (ヒートポンプ・中央方式)	L-000901	氷蓄熱式パッケージエアコン		
	L-000902	フロン類等冷媒ターボ冷凍機	(4)	
	L-000903	自然冷媒ターボ冷凍機		
	L-000904	水冷ヒートポンプチラー		
熱源・空調機 (ヒートポンプ・中央方式)・熱源補機	L-000905	空冷ヒートポンプチラー		
	L-000907	氷蓄熱ユニット	(1)	
	L-000909	間接気化式冷却器	(1)	
	L-000910	吸収冷水機 (二重効用)	(4)	
熱源・空調機 (気化式・中央方式)	L-000911	吸収冷水機 (三重効用) / 廃熱投入型吸収冷水機 (三重効用)		
	L-000912	一重二重併用形吸収冷水機		
	L-000913	木質ペレット直焚き吸収冷水機 (二重効用)		
	L-000917	パッシブ地中熱利用システム	(1)	
熱源・空調機 (吸着式・中央方式)	L-000918	吸着式冷凍機	(1)	
	L-000919	高温水ヒートポンプ(空気熱源・循環式)	(10)	
	L-000920	高温水ヒートポンプ(空気熱源・一過式)		
	L-000921	高温水ヒートポンプ(水熱源・循環式)		
熱源 (ヒートポンプ)	L-000922	高温水ヒートポンプ(水熱源・一過式)		
	L-000923	高温水ヒートポンプ(水空気熱源・循環式)		
	L-000924	高温水ヒートポンプ(水空気熱源・一過式)		
	L-000290	熱風ヒートポンプ(空気熱源・一過式)		
	L-000895	熱風ヒートポンプ(水熱源・一過/循環式)		
	L-000896	蒸気発生ヒートポンプ(水熱源・一過式)		
	L-000668	蒸気再圧縮装置		
	L-000629	密閉式ペレットストーブ	(1)	
	L-000670	ヒートポンプ給湯機(空気熱源)	(1)	
	L-000672	潜熱回収型給湯器	(1)	
	ボイラ	L-000611	温水機	(6)
		L-000600	蒸気ボイラ(貫流ボイラ)	
		L-000675	蒸気ボイラ(伊箱煙管ボイラ)	
		L-000676	蒸気ボイラ(水管ボイラ)	
L-000621		水素ボイラ (貫流ボイラ)		
L-000689		熱媒ボイラ		
L-000690		ガスエンジンコージェネレーション	(3)	
L-000691		ガスタービンコージェネレーション		
L-000692		燃料電池コージェネレーション		
冷凍冷蔵機器		L-000695	業務用冷凍冷蔵庫	(4)
	L-000696	空気冷媒方式冷凍機		
	L-000697	冷凍冷蔵庫用自然冷媒冷凍機 (アンモニア/CO2二次冷媒システム)		
	L-000624	自然冷媒冷凍冷蔵コンデンシングユニット		
照明器具	L-000698	LED照明器具	(1)	
	L-000699	プリンタ	(2)	
プリンタ/複写機	L-000700	複合機		
	L-000701	誘導モータ	(2)	
モータ	L-000702	永久磁石同期モータ		
	L-000719	油圧変圧器	(2)	
変圧器	L-000720	モールド変圧器		
	L-000716	蒸気駆動圧縮機	(2)	
モータ利用機器 (圧縮機)	L-000717	熱回収式ねじ容積形圧縮機		
	L-000737	Low-E複層ガラス	(7)	
窓	L-000738	三層Low-E複層ガラス		
	L-000739	真空Low-E複層ガラス		
	L-000740	アタッチメント付きLow-E複層ガラス		
	L-000771	真空ガラス		
	L-000772	現場施工型後付けLow-E複層ガラス		
	L-000743	薄型Low-E複層ガラス		
	L-000774	断熱材(押出法ポリスチレンフォーム)	(3)	
断熱材	L-000775	断熱材(グラスウール)		
	L-000625	真空断熱材		
洗濯機	L-000776	業務用ヒートポンプ式衣類洗濯乾燥機	(1)	
	L-000660	BEMS(制御サービス・空調・熱源・中央方式)	(1)	
エネルギー管理システム	L-000616	蒸気サイクリング型連続乾燥装置	(1)	
	L-000666	サーバ用電子計算機	(1)	
乾燥設備	L-000704	油圧ショベル (内燃機関型)	(3)	
	L-000705	ブルドーザ (内燃機関型)		
その他	L-000706	ホイールローダ (内燃機関型)		

区分	L2-Tech リスト№	設備・機器等	(掲載数)
B 産業 (業種固有)	L-000708	油圧ショベル (ハイブリッド型)	(1)
	L-000711	油圧ショベル (電動型)	(2)
	L-000712	ブルドーザ(電動型)	
	L-000890	遠心脱水型コンテナ (容器) 洗浄乾燥機	(1)
	L-000891	内部熱交換最適化蒸留システム	(1)
	L-000892	熱回収式工業用織機物乾燥機	(1)
	L-000893	熱回収式工業用織機物熱処理機	(1)
	L-000894	ガソリン・ディーゼル車 (乗用車)	(2)
	L-000630	ディーゼル・天然ガス車 (商用車・重量車)	
	L-000632	ハイブリッド自動車 (乗用車)	(2)
C 運輸	L-000633	ハイブリッド自動車 (商用車・重量車)	
	L-000635	電気自動車 (乗用車)	(1)
	L-000848	ルームエアコン	(5)
	L-000849	ヒートポンプ冷暖水システム	
	L-000850	ヒートポンプ式温水床暖房	
	L-000851	ルームエアコン付温水床暖房	
	L-000852	マルチタイプ温水床暖房	
	L-000853	地中熱ルームエアコン	(2)
	L-000854	地中熱ヒートポンプ冷暖水システム (ハイブリッド式)	
	L-000534	密閉式ペレットストーブ (家庭用)	(1)
D 家庭	L-000643	家庭用エネルギー	(2)
	L-000644	多機能ヒートポンプ給湯機	
	L-000656	太陽熱集熱器対応エネルギー	(1)
	L-000645	ガス温水機器 (エコジョーズ)	(1)
	L-000857	ハイブリッド給湯機 (家庭用)	(1)
	L-000858	石油温水機器 (エコフィール)	(1)
	L-000860	真空管形集熱器 (強制循環型太陽熱給湯器用) (家庭用)	(3)
	L-000861	平板形集熱器 (強制循環型太陽熱給湯器用) (家庭用)	
	L-000862	蓄熱槽 (強制循環型太陽熱給湯器用) (家庭用)	
	L-000646	家庭用燃料電池 (エネファーム・PEFC)	(2)
L-000647	家庭用燃料電池 (エネファーム・SOFC)		
E エネルギー転換	L-000648	電気冷蔵庫	(1)
	L-000649	LED照明器具 (家庭用)	(1)
	L-000963	液晶テレビ	(1)
	L-000842	洗濯乾燥機	(1)
	L-000864	電気便座	(1)
	L-000650	Low-E複層ガラス (家庭用)	(14)
	L-000651	三層Low-E複層ガラス (家庭用)	
	L-000652	真空Low-E複層ガラス (家庭用)	
	L-000653	アタッチメント付きLow-E複層ガラス (家庭用)	
	L-000654	真空ガラス (家庭用)	
F 廃棄物・リサイクル	L-000655	現場施工型後付けLow-E複層ガラス (家庭用)	
	L-000656	薄型Low-E複層ガラス (家庭用)	
	L-000657	Low-E複層ガラス・樹脂サッシ	
	L-000658	Low-E複層ガラス・アルミ樹脂複合サッシ	
	L-000659	三層Low-E複層ガラス・樹脂サッシ	
	L-000835	三層Low-E複層ガラス・アルミ樹脂複合サッシ	
	L-000836	五層Low-E複層ガラス・樹脂サッシ	
	L-000837	真空ガラス・樹脂サッシ	
	L-000838	真空ガラス・アルミ樹脂複合サッシ	
	L-000609	金属製玄関ドア	(1)
断熱材	L-000839	断熱材(家庭用・押出法ポリスチレンフォーム)	(3)
	L-000840	断熱材(家庭用・グラスウール)	
	L-000520	真空断熱材(家庭用)	
	L-000846	HEMS(情報提供サービス・家電全般)	(1)
	L-000780	固体酸化物形燃料電池(SOFC) 設備	(1)
	L-000786	太陽電池(シリコン系・単結晶)	(6)
	L-000787	太陽電池(シリコン系・多結晶)	
	L-000788	太陽電池(化合物系)	
	L-000789	太陽電池(薄膜シリコン)	
	L-000790	トランスレス方式パワーコンディショナ(太陽光発電用)	
水力発電	L-000791	高周波変圧器絶縁方式パワーコンディショナ(太陽光発電用)	
	L-000798	プロペラ水車(小水力発電用)	(2)
地熱発電	L-000799	フランス水車(小水力発電用)	
	L-000803	温水熱源小型バイナリー発電設備	(2)
バイオマス発電	L-000804	蒸気熱源小型バイナリー発電設備	
	L-000807	ガスエンジン発電設備(メタン発酵発電用)	(1)
熱輸送	L-000808	潜熱蓄熱輸送設備	(1)
	L-000829	リン回収設備MAP法(し尿・浄化槽汚泥用)	(3)
リン回収設備	L-000830	リン回収設備MAP法(し尿・浄化槽汚泥用)	
	L-000831	リン回収設備MAP法(下水汚泥用)	
選別機	L-000833	近赤外線樹脂選別機	(1)

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標														
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件										
														単位	名称	標準する規格	規格の名称	計算式	標準する規格	規格の名称	説明					
L-000897	産業・業 務(業種 共通)	空調	空調機 (ヒート ポンプ・ 個別方 式)	ガスヒートポン プ	室外機内のコンプレッサの駆動をガスエンジンで行うヒートポン プ方式の空調和機。	相当馬力数	7.5HP以下	• S-003275	1.19	-	COPp	標準規格 による評 価	-	-	COPp=(Ccr+Chr)/2 Ccr=Φ cr/(Gcr+Pcr(3600/9760)), Chr=Φ cr/(Ghr+Phr(3600/9760)) Ccr: 冷房成績係数 Chr: 暖房成績係数 Φcr: 定格冷房標準能力(kW) Φhr: 定格暖房標準能力(kW) Gcr: 定格冷房標 準ガス消費量(kW) Ghr: 定格暖房標準ガス消費 量(kW) Pcr: 定格冷房標準消費電力(kW) Phr: 定格暖房標準消費電力(kW) ※COPpは、小数点3 桁目を切捨て、小数点2桁目までを表示する。	JRA4067:201 5または JISB8627:20 06	いずれもガ スヒートポン プ冷暖房機	JRA4067:2015またはJISB8627:2 006に準拠。ただし、電源の周波数は、50Hzとす る。								
							7.5HP超10HP以下	• S-003276	1.22																	
							10HP超16HP以下	• S-003277	1.33																	
							16HP超25HP以下	• S-003278	1.34																	
							25HP超	• S-003279	1.3																	
							7.5HP以下	• S-003300	-										期間成績係 数 (APFp)	標準規格 による評 価	JISB8627:20 15	ガスヒート ポンプ冷暖 房機	JISB8627:2015に準拠	JISB8627:20 15	ガスヒート ポンプ冷暖 房機	JISB8627:2015に準拠
							7.5HP超10HP以下	• S-003280	1.39																	
							10HP超16HP以下	• S-003281	1.86																	
							16HP超25HP以下	• S-003282	1.98																	
							25HP超	• S-003283	1.91																	

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件					
														単位	名称	標準する規程	規程の名称	計算式	標準する規程	規程の名称	説明
					寒冷地仕様	相当馬力数	7.5HP以下	• S-003284	1.19	-	COPp	標準規格 による評 価	-	-	COP _p =(Ccr+Chr)/2 Ccr=Φ cr/(Gcr+Pcr(3600/9760)), Chr=Φ hr/(Ghr+Phr(3600/9760)) Ccr: 冷房成績係数 Chr: 暖房成績係数 Φcr: 定格冷房標準能力(kW) Φhr: 定格暖房標準能力(kW) Gcr: 定格冷房標 準ガス消費量(kW) Ghr: 定格暖房標準ガス消費 量(kW) Pcr: 定格冷房標準消費電力(kW) Phr: 定格暖房標準消費電力(kW) ※COPpは、小数点3 桁目を切捨て、小数点2桁目までを表示する。	JRA4067:2015または JISB8627:2006	いずれもガ スヒートボ ンプ冷暖房 機	JRA4067:2015またはJISB8627:2006に準拠。ただ し、電源の周波数は、50Hzとする。			
							7.5HP超10HP以下	• S-003285	1.22												
							10HP超16HP以下	• S-003286	1.34												
							16HP超25HP以下	• S-003287	1.34												
							25HP超	• S-003288	1.27												
							7.5HP以下	- S-003302	-	-	期間成績係 数 (APFp)	標準規格 による評 価	JISB8627:2015	ガスヒート ポンプ冷暖 房機	JISB8627:2015に準拠	JISB8627:2015	ガスヒート ポンプ冷暖 房機	JISB8627:2015に準拠			
							7.5HP超10HP以下	• S-003289	1.39												
							10HP超16HP以下	○ S-003290	1.86												
							16HP超25HP以下	• S-003291	1.93												
							25HP超	• S-003292	1.85												

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	標準する規格	規格の名称	計算方法		試験条件	説明		
																単位	名称			計算式	標準する規格
				発電機付	相当馬力数	7.5HP以下	-	S-003304	-	-	-	COPp	標準規格 による評 価	-	-	$COPp = (Ccr + Chr) / 2$ $Ccr = \Phi cr / (Gcr + Pcr(3600/9760))$ $Chr = \Phi hr / (Ghr + Phr(3600/9760))$ Ccr: 冷房成績係数 Chr: 暖房成績係数 Φcr: 定格冷房標準能力(kW) Φhr: 定格暖房標準能力(kW) Gcr: 定格冷房標準ガス消費量(kW) Ghr: 定格暖房標準ガス消費量(kW) Pcr: 定格冷房標準消費電力(kW) Phr: 定格暖房標準消費電力(kW) ※COPpは、小数点3桁目を切捨て、小数点2桁目までを表示する。	JRA4067:2015またはJISB8627:2006	いずれもガスヒートポンプ冷暖房機	JRA4067:2015またはJISB8627:2006に準拠。ただし、電源の周波数は、50Hzとする。		
						7.5HP超10HP以下	-	S-003307	-												
						10HP超16HP以下	•	S-003293	1.34												
						16HP超25HP以下	•	S-003294	1.34												
						25HP超	•	S-003296	1.27												
						7.5HP以下	-	S-003308	-	-	-	期間成績係数 (APFp)	標準規格 による評 価	JISB8627:2015	ガスヒートポンプ冷暖房機	JISB8627:2015に準拠	JISB8627:2015	ガスヒートポンプ冷暖房機	JISB8627:2015に準拠		
						7.5HP超10HP以下	-	S-003309	-												
						10HP超16HP以下	•	S-003295	1.86												
						16HP超25HP以下	•	S-003297	1.97												
						25HP超	•	S-003299	1.91												

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス				認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標							
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)	評価 対象				L2-Tech 水準	測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件	
														単位	名称		標準規格 による評 価	標準規格 による評 価	標準規格 による評 価	標準規格 による評 価
L-000898	産業・業 務(業種 共通)	空調	空調機 (ヒート ポンプ・ 個別方 式)	パッケージエ アコン(店 舗・オ フィス用)	電動圧縮機を用いるヒートポンプ式の空気調和機で、冷房能力が4 ~28kW程度。主に店舗・オフィス向け。	冷房能力	4.0kW以下	○	S-003311	8.1	- 通年エネ ルギー消 費効率 (APF)	標準規格 による評 価	JISB8616:20 15	パッケージ エアコン ディショ ナ	JISB8616:2015に準拠	JISB8616:20 15	パッケージ エアコン ディショ ナ	JISB8616:2015に準拠		
							4.0kW超 5.0kW以下	○	S-003316	7.9										
							5.0kW超 6.3kW以下	○	S-003318	8.1										
							6.3kW超 11.2kW以下	○	S-003389	7.3										
							11.2kW超 16.0kW以下	●	S-003396	6.7										
16.0kW超	○	S-003398	6.3																	
L-000899	産業・業 務(業種 共通)	空調	空調機 (ヒート ポンプ・ 個別方 式)	パッケージエ アコン(設 備用)	電動圧縮機を用いるヒートポンプ式の空気調和機で、冷房能力が9 ~140kW程度。主に工場向け。	冷房能力	28kW以下	●	S-003404	4.8	- 通年エネ ルギー消 費効率 (APF)	標準規格 による評 価	JISB8616:20 15	パッケージ エアコン ディショ ナ	JISB8616:2015に準拠	JISB8616:20 15	パッケージ エアコン ディショ ナ	JISB8616:2015に準拠		
							28kW超 45kW以下	●	S-003410	4.2										
							45kW超 56kW以下	●	S-003414	4										

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算法		試験条件						
												単 位	名 称		準拠する規程	規程の名称	計算法	準拠する規程	規程の名称	説 明			
						56kW超 80kW以下	• S-003417			3.9													
						80kW超 112kW以下	• S-003423			3.5													
						112kW超 140kW以下	• S-003426			3.5													
						140kW超	• S-003431			3.5													
						換熱利用型	冷房能力	9.8kW	○ S-003440	6.1		成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8615-2	エアコン ディショナ ー第2部: ダクト接続 型エアコン ディショナ 及び空気対 空気ヒート ポンプ一定 格性能及び 運転性能試 験方法	JISB8615-2に準拠	JISB8615-2	エアコン ディショナ ー第2部: ダクト接続 型エアコン ディショナ 及び空気対 空気ヒート ポンプ一定 格性能及び 運転性能試 験方法	JISB8615-2に準拠。ただし、ユニット吸込温度に ついては55℃とする。				
L-000900	産業・業 務(業種 共通)	空調	空調機 (ヒート ポンプ・ 個別方 式)	パッケージエ アコン(ビル用マ ルチ)	電動圧縮機を用いるヒートポンプ式の空気調和機で、冷房能力が 14~120kW程度。主にビル向け。室内機ごとの個別制御機能を持 つ。	冷房能力	14.0kW以下	○ S-003444	6.7		通年エネル ギー消費効 率(APF)	標準規格 による評 価	JISB8616:20 15	パッケージ エアコン ディショナ	JISB8616:2015に準拠	JISB8616:20 15	パッケージ エアコン ディショナ	JISB8616:2015に準拠					
						14.0kW超 16.0kW以下	• S-003448			6													
						16.0kW超 22.4kW以下	• S-003453			6.5													
						22.4kW超 28.0kW以下	• S-003458			6.3													

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				L2-Tech 水準	測定単位		評価方法の タイプ	計算法		試験条件					
													単 位	名 称		参照する規程	規程の名称	参照する規程	規程の名称	計 算 式	計 算 式		
						28.0kW超 33.5kW以下		• S-003462	6.4														
						33.5kW超 40.0kW以下		• S-003468	6.2														
						40.0kW超 56.0kW以下		• S-003469	6.5														
						56.0kW超 69.0kW以下		• S-003470	6.4														
						69.0kW超 80.0kW以下		• S-003471	6.5														
						80.0kW超 90.0kW以下		• S-003472	6.4														
						90.0kW超		• S-003473	6.4														
L-000901	産業・業務(業種共通)	空調	空調機(ヒートポンプ・個別方式)	氷蓄熱式パッケージエアコン	パッケージエアコンの室外ユニットと室内ユニットの間に氷蓄熱槽を持っており、夜間の冷房を使っていない時間帯に、氷蓄熱槽の熱交換器で水を作り、昼間の冷房運転時には、室外ユニットを通った冷媒を氷蓄熱槽の熱交換器でさらに冷やしてから室内機に送ることによって利用する。2050年に向けた再生可能エネルギー発電の最大活用に資することが期待される。	蓄熱利用冷房能力	14.0kW以下	• S-003474	3.64	日量蓄熱利用冷房効率	標準規格による評価	JRA4053:2007	氷蓄熱式パッケージエアコン ディシヨナ	JRA4053:2007に準拠	JRA4053:2007	氷蓄熱式パッケージエアコン ディシヨナ	JRA4053:2007に準拠						
							14.0kW超16.0kW以下	• S-003475	-														

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件						
												単 位	名 称		準拠する規程	規程の名称	計算式	準拠する規程	規程の名称	説 明			
						16.0kW超22.4kW以下	-	S-003476	-														
						22.4kW超28.0kW以下	-	S-003477	-														
						28.0kW超45.0kW以下	-	S-003481	-														
						45.0kW超56.0kW以下	-	S-003485	-														
						56.0kW超80.0kW以下	-	S-003486	-														
						80.0kW超112.0kW以下	-	S-003491	-														
						112.0kW超	•	S-003500	2.6														
L-000902	産業・業 務(業種 共通)	空調/産業 用プロセス	熱源・空 調機 (ヒート ポンプ・ 中央方 式)	フロン類等冷媒 ターボ冷凍機	蒸発器、圧縮機、凝集器、弁からなる。蒸発器内の冷媒を蒸発させ蒸発器内のパイプの中の循環水を冷やし、冷水として取り出して使用する機器。蒸発した冷媒は圧縮機で昇圧され、凝集器内の冷却水で凝縮され液体に戻る。HFC冷媒またはHFO冷媒を使用している。	冷却能力		200RT未満	• S-003504	6.7 *	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格 による評 価	JISB8621:20 11	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠		JISB8621:20 11	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠			
								200RT以上300RT未満	• S-003505	8.8 *													
								300RT以上400RT未満	• S-003506	8.4 *													

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件						
												単位	名称		参照する規程	規程の名称	計算式	参照する規程	規程の名称	説明			
						400RT以上500RT未満	• S-003507	8 *															
						500RT以上600RT未満	• S-003509	9.2 *															
						600RT以上700RT未満	• S-003510	8.4 *															
						700RT以上1000RT未満	• S-003511	9.1 *															
						1000RT以上1500RT未満	• S-003512	9.29 *															
						1500RT以上	• S-003513	9.29 *															
						200RT未満	• S-003514	6.04 *				-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8621:2011	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠	JISB8621:2011	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠			
						200RT以上300RT未満	• S-003515	6.32 *															
						300RT以上400RT未満	• S-003516	6.31 *															
						400RT以上500RT未満	• S-003517	6.6 *															

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件					
												単 位	名 称		準拠する規程	規程の名称	計算式	準拠する規程	規程の名称	説 明			
							500RT以上600RT未満	●	S-003518	6.5 *													
							600RT以上700RT未満	●	S-003519	6.29 *													
							700RT以上1000RT未満	●	S-003520	6.4 *													
							1000RT以上1500RT未満	●	S-003521	6.5 *													
							1500RT以上	●	S-003522	6.5 *													
L-000903	産業・業 務（業種 共通）	空調/産業 用プロセス	熱源・空 調機 （ヒート ポンプ・ 中央方 式）	自然冷媒ターボ 冷凍機	蒸発器、圧縮機、凝集器、弁からなる。蒸発器内の冷媒を蒸発させ蒸発器内のパイプの中の循環水を冷やし、冷水として取り出して使用する機器。蒸発した冷媒は圧縮機で昇圧され、凝集器内の冷却水で凝縮され液体に戻る。従来はHFC冷媒が使用されるケースが多いが、本設備・機器等は自然冷媒である水が使用されている。公共スペース、地下街、及び医療機関での使用が期待されている。	-	冷却能力 200RT未満	●	S-003523	7.36 *	-	期間成績係 数（IPLV）	標準規格 による評 価	JISB8621:20 11	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠	JISB8621:20 11	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠				
							300RT以上400RT未満	-	S-003524	-													
L-000904	産業・業 務（業種 共通）	空調/産業 用プロセス	熱源・空 調機 （ヒート ポンプ・ 中央方 式）	水冷ヒートポン プチャラー	水を熱源としたヒートポンプ方式の水冷式リングユニット。	-	冷却能力 40.0kW以下	●	S-003525	4.48	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウオータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウオータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠				
							40.0kW超80.0kW以下	●	S-003526	4.21													
							80.0kW超118.0kW以下	●	S-003527	5.41													
							118.0kW超180.0kW以下	●	S-003528	5.28													
							180.0kW超500.0kW以下	○	S-003529	5.57													

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件							
														単位	名称	基準する規程	規程の名称	計算式	基準する規程	規程の名称	説明		
						90.0kW超120.0kW以下	●	S-003303	6														
						120.0kW超160.0kW以下	●	S-003305	5.6														
						160.0kW超	●	S-003306	5.3														
						60.0kW以下	○	S-003310	3.85	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォーターチ リングユニ ット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォーターチ リングユニ ット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠					
						60.0kW超90.0kW以下	●	S-003313	3.99														
						90.0kW超120.0kW以下	○	S-003314	4														
						120.0kW超160.0kW以下	●	S-003315	3.26														
						160.0kW超	●	S-003317	3.16														
					出口温度60℃	加熱能力	60.0kW以下	-	S-003319	-	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォーターチ リングユニ ット	JISB8613:1994または JRA4066:2014	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォーターチ リングユニ ット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただ し、出口温度は60℃とする。				
						60.0kW超90.0kW以下	-	S-003320	-														
						90.0kW超120.0kW以下	●	S-003321	2.51														
						120.0kW超160.0kW以下	●	S-003322	2.58														
						160.0kW超	○	S-003323	2.54														
					ブライン仕様、ブライン入 口温度0℃、ブライン出口 温度-5℃	冷却能力	60.0kW以下	-	S-003324	-	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォーターチ リングユニ ット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォーターチ リングユニ ット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただ し、ブライン入口温度については0℃、ブライン 出口温度については-5℃とする。				
						60.0kW超90.0kW以下	○	S-003325	2.84														
						90.0kW超120.0kW以下	○	S-003326	2.52														
						120.0kW超160.0kW以下	○	S-003327	2.64														
						160.0kW超	○	S-003328	2.79														

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス				認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)	-				S-003329	-	測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件		説明
															単位	名称		準拠する規格	規格の名称	準拠する規格	規格の名称	
					ブライン仕様、ブライン入口温度0℃、ブライン出口温度-5℃、散水式	冷却能力	60.0kW以下	60.0kW以下	-	S-003329	-	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウオータチ リングユ ニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウオータチ リングユ ニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014に準拠。ただ し、ブライン入口温度については0℃、ブライン 出口温度については-5℃とする。		
							60.0kW超90.0kW以下	60.0kW超90.0kW以下	○	S-003330	2.9											
							90.0kW超120.0kW以下	90.0kW超120.0kW以下	○	S-003331	2.75											
							120.0kW超160.0kW以下	120.0kW超160.0kW以下	-	S-003332	-											
							160.0kW超	160.0kW超	-	S-003333	-											
					ブライン仕様、ブライン入口温度-2℃、ブライン出口温度-5℃	冷却能力	60.0kW以下	60.0kW以下	●	S-003334	2.5	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウオータチ リングユ ニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウオータチ リングユ ニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014に準拠。ただ し、ブライン入口温度については-2℃、ブライン 出口温度については-5℃とする。		
							60.0kW超90.0kW以下	60.0kW超90.0kW以下	○	S-003335	2.71											
							90.0kW超120.0kW以下	90.0kW超120.0kW以下	○	S-003336	2.72											
							120.0kW超160.0kW以下	120.0kW超160.0kW以下	○	S-003337	2.63											
							160.0kW超	160.0kW超	○	S-003338	2.72											
					ブライン仕様、ブライン入口温度3℃、ブライン出口温度0℃	冷却能力	60.0kW以下	60.0kW以下	●	S-003339	2.45	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウオータチ リングユ ニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウオータチ リングユ ニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014に準拠。ただ し、ブライン入口温度については3℃、ブライン 出口温度については0℃とする。		
							60.0kW超90.0kW以下	60.0kW超90.0kW以下	-	S-003340	-											
							90.0kW超120.0kW以下	90.0kW超120.0kW以下	-	S-003341	-											
							120.0kW超160.0kW以下	120.0kW超160.0kW以下	-	S-003342	-											
							160.0kW超	160.0kW超	-	S-003343	-											
					ブライン仕様、ブライン入口温度-3℃、ブライン出口温度-7℃	冷却能力	60.0kW以下	60.0kW以下	●	S-003344	2.39	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウオータチ リングユ ニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウオータチ リングユ ニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014に準拠。ただ し、ブライン入口温度については-3℃、ブライン 出口温度については-7℃とする。		
							60.0kW超90.0kW以下	60.0kW超90.0kW以下	●	S-003345	2.24											
							90.0kW超120.0kW以下	90.0kW超120.0kW以下	●	S-003346	2.09											

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標												
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				-	S-	測定単位		評価方法の タイプ	試験する規程		規程の名称		計算方法		試験条件	
														単 位	名 称		準拠する規程	規程の名称	計算式	準拠する規程	規程の名称	試験条件	説 明	
						120.0kW超160.0kW以下	-	S-003347	-	-														
						160.0kW超	-	S-003348	-	-														
					寒冷地仕様	冷却能力	60.0kW以下	-	S-003349	-	-	期間成績係 数(IPLV)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠					
						60.0kW超90.0kW以下	-	S-003350	-	-														
						90.0kW超120.0kW以下	-	S-003351	-	-														
						120.0kW超160.0kW以下	-	S-003352	-	-														
						160.0kW超	-	S-003353	-	-														
						60.0kW以下	-	S-003354	-	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠						
						60.0kW超90.0kW以下	-	S-003355	-	-														
						90.0kW超120.0kW以下	-	S-003356	-	-														
						120.0kW超160.0kW以下	●	S-003358	2.89	-														
						160.0kW超	-	S-003357	-	-														
					出口温度60℃ 寒冷地仕様	加熱能力	60.0kW以下	-	S-003359	-	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただし、出口温度は60℃とする。					
						60.0kW超90.0kW以下	-	S-003360	-	-														
						90.0kW超120.0kW以下	○	S-003361	2.02	-														
						120.0kW超160.0kW以下	○	S-003362	2.04	-														
						160.0kW超	○	S-003363	2	-														
					寒冷地仕様、散水式	冷却能力	60.0kW以下	-	S-003364	-	-	期間成績係 数(IPLV)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠					

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件						
												単 位	名 称		参照する規程	規程の名称	計算式	参照する規程	規程の名称	説 明			
						60.0kW超90.0kW以下	-	S-003365	-														
						90.0kW超120.0kW以下	-	S-003366	-														
						120.0kW超160.0kW以下	-	S-003367	-														
						160.0kW超	-	S-003368	-														
						60.0kW以下	-	S-003373	-														
						60.0kW超90.0kW以下	-	S-003371	-														
						90.0kW超120.0kW以下	-	S-003370	-														
						120.0kW超160.0kW以下	•	S-003374	3.79														
						160.0kW超	-	S-003369	-														
					散水式	冷却能力	60.0kW以下	-	S-003375	-													
						60.0kW超90.0kW以下	•	S-003376	6.6														
						90.0kW超120.0kW以下	•	S-003377	6.4														
						120.0kW超160.0kW以下	•	S-003378	6.1														
						160.0kW超	•	S-003379	6														
						60.0kW以下	○	S-003380	4.86														
						60.0kW超90.0kW以下	•	S-003381	6.2														
						90.0kW超120.0kW以下	•	S-003382	5.46														
						120.0kW超160.0kW以下	○	S-003383	4.86														

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測 定 単 位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件							
														単 位	名 称	準拠する規程	規程の名称	計算式	準拠する規程	規程の名称	説 明		
						160.0kW超	○	S-003384	6														
					熱水式、冷水出入口温度差7℃	冷却能力	60.0kW以下	-	S-003385	-	-	期間成績係数 (IPLV)	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただし、冷水出入口温度差については7℃とする。				
						60.0kW超 90.0kW以下	●	S-003386	7														
						90.0kW超 120.0kW以下	●	S-003387	6.7														
						120.0kW超 160.0kW以下	●	S-003388	6.5														
						160.0kW超	●	S-003391	6.3														
						60.0kW以下	○	S-003392	5.04		-	成績係数 (COP)	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただし、冷水出入口温度差については7℃とする。				
						60.0kW超 90.0kW以下	●	S-003395	6.39														
						90.0kW超 120.0kW以下	●	S-003397	5.65														
						120.0kW超 160.0kW以下	○	S-003393	5.04														
						160.0kW超	○	S-003394	6.3														
					冷水出入口温度差7℃	冷却能力	60.0kW以下	-	S-003399	-	-	期間成績係数 (IPLV)	標準規格による評価	JRA4066:2014	ウォータチリングユニット	JRA4066:2014に準拠	JRA4066:2014	ウォータチリングユニット	JRA4066:2014に準拠。ただし、冷水出入口温度差については7℃とする。				
						60.0kW超 90.0kW以下	●	S-003400	6														
						90.0kW超 120.0kW以下	●	S-003401	5.9														
						120.0kW超 160.0kW以下	●	S-003402	5.7														
						160.0kW超	●	S-003403	5.6														
						60.0kW以下	○	S-003405	4		-	成績係数 (COP)	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JRA4066:2014に準拠。ただし、冷水出入口温度差については7℃とする。				
						60.0kW超 90.0kW以下	●	S-003406	4.13														

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標												
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件						
												単位	名称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説明				
						90.0kW超120.0kW以下	●	S-003407	3.86															
						120.0kW超160.0kW以下	●	S-003408	3.5															
						160.0kW超	○	S-003409	3.22															
					冷房専用	冷却能力	60.0kW以下	-	S-003411	-			期間成績係 数 (IPLV)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JRA4066:2014に準拠 JRA4066:2014に準拠。				
						60.0kW超90.0kW以下	●	S-003412	5.7															
						90.0kW超120.0kW以下	●	S-003413	5.6															
						120.0kW超160.0kW以下	●	S-003415	5.4															
						160.0kW超	●	S-003416	5.3															
						60.0kW以下	●	S-003418	3.67			-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JRA4066:2014に準拠 JRA4066:2014に準拠。				
						60.0kW超90.0kW以下	●	S-003419	4.07															
						90.0kW超120.0kW以下	●	S-003420	3.77															
						120.0kW超160.0kW以下	●	S-003421	3.56															
						160.0kW超	○	S-003422	5.3															
					冷房専用、プライン仕様、 プライン入口温度+2℃、プ ライン出口温度-5℃	冷却能力	60.0kW以下	●	S-003424	2.78			-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただ し、プライン入口温度については-2℃、プライン 出口温度については-5℃とする。			
						60.0kW超90.0kW以下	○	S-003425	2.71															
						90.0kW超120.0kW以下	○	S-003427	2.72															
						120.0kW超160.0kW以下	-	S-003428	-															
						160.0kW超	-	S-003429	-															

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス				L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)	認証 対象			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件			
												単位	名称		標準する規程	規程の名称	標準する規程	規程の名称	試験条件	説明
						冷房専用、散水式	冷却能力	60.0kW以下	-	S-003430	-	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウオータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウオータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。
								60.0kW超90.0kW以下	•	S-003432	6.6									
								90.0kW超120.0kW以下	•	S-003433	6.4									
								120.0kW超160.0kW以下	•	S-003434	6.1									
								160.0kW超	•	S-003435	6									
								60.0kW以下	○	S-003438	4.86		成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウオータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウオータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。
								60.0kW超90.0kW以下	•	S-003439	6.2									
								90.0kW超120.0kW以下	•	S-003441	5.46									
								120.0kW超160.0kW以下	○	S-003437	4.86									
								160.0kW超	○	S-003436	6									
						冷房専用、冷水出入口温度 差7℃	冷却能力	60.0kW以下	-	S-003442	-	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウオータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウオータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただ し、冷水出入口温度差については7℃とする。
								60.0kW超90.0kW以下	•	S-003443	6									
								90.0kW超120.0kW以下	•	S-003445	5.9									
								120.0kW超160.0kW以下	•	S-003446	5.7									
								160.0kW超	•	S-003447	5.6									
								60.0kW以下	○	S-003449	4.01		成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウオータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウオータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただ し、冷水出入口温度差については7℃とする。
								60.0kW超90.0kW以下	•	S-003451	4.09									
								90.0kW超120.0kW以下	○	S-003452	3.86									

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標												
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件								
														単位	名称	準拠する規程	規程の名称	計算式	準拠する規程	規程の名称	説明			
						120.0kW超160.0kW以下	-	S-003454	3.5															
						160.0kW超	-	S-003455	3.22															
					冷房専用、冷水出入口温度差7℃、放水式	冷却能力	60.0kW以下	-	S-003456	-	-	期間成績係数 (IPLV)	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただし、冷水出入口温度差については7℃とする。					
						60.0kW超90.0kW以下	•	S-003457	7															
						90.0kW超120.0kW以下	•	S-003459	6.7															
						120.0kW超160.0kW以下	•	S-003460	6.5															
						160.0kW超	•	S-003461	6.3															
						60.0kW以下	○	S-003463	5.04			-	成績係数 (COP)	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただし、冷水出入口温度差については7℃とする。				
						60.0kW超90.0kW以下	•	S-003464	6.39															
						90.0kW超120.0kW以下	•	S-003465	5.65															
						120.0kW超160.0kW以下	○	S-003466	5.04															
						160.0kW超	○	S-003467	6.3															
L-000907	産業・業務 (業種共通)	空調	熱源・空調機 (ヒートポンプ・中央方式)・熱源補機	水蓄熱ユニット	中央方式の空調機における熱源機とは別に水蓄熱槽を持っており、夜間の冷房を使っていない時間帯に、水蓄熱槽の熱交換器で水を作り、昼間の冷房運転時には、室外ユニットを通った冷媒を水蓄熱槽の熱交換器でさらに冷やしてから室内機に送ることによって利用する。2050年に向けた再生可能エネルギー発電の最大活用に資することが期待される。	定格日量冷却能力	1000kWh以下	-	S-003478	-	-	日量成績係数	標準規格による評価	JRA4044:2005	水蓄熱ユニット	JRA4044:2005に準拠	JRA4044:2005	水蓄熱ユニット	JRA4044:2005に準拠					
							1000kWh超2000kWh以下	-	S-003479	-														
							2000kWh超3000kWh以下	-	S-003480	-														
							3000kWh超4000kWh以下	-	S-003482	-														

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件						
												単位	名称		参照する規程	規程の名称	計算式	参照する規程	規程の名称	説明			
						4000kWh超5000kWh以下	-	S-003483	-														
						5000kWh超	-	S-003484	-														
L-000909	産業・業 務(業種 共通)	空調	熱源・空 調機(気 化式・中 央方式)	間接気化式冷却 器	間接気化式冷却器は、隔壁で仕切られたDRY流路とWET流路を多 数積層した構造からなる。WET側の隔壁面は水を浸した湿潤壁で ある。ここでDRY流路に高温空気をWET流路には低温空気又は常 温空気を流すことで、WET流路で気化熱現象を生じさせ、隔壁の 温度が低下するため隣り合うDRY流路を流れる空気の熱が隔壁に 伝達し絶対湿度の移行がなく冷却される。この冷却に用いるエネ ルギーは搬送動力と気化蒸発に使用する水のためのため、省エネ性 が高く、CO2排出量を削減できる機器である。既に食品工場・生 産工場・ショッピングセンターを中心に導入が進んでおり、今後 データセンター向けに更なる普及が期待される。	冷房能力	14.0kW以下	• S-003487	34.4 *	-	成績係数 (COP)	シミュ レーショ ンによる 評価	JRA4066:201 4	ウォーターチ リングユ ニット	JRA4066:2014に準拠	JRA4066:201 4及び JISB8615-2: 2015	ウォーターチ リングユ ニット及び エアコン ディショナ 第2.ダクト 接続型エア コンディ ショナと空 気対空 ヒートポン プ 定格性能 及び運転性 能試験	JRA4066:2014及びJISB8615-2: 2015に準拠					
						14.0kW超16.0kW以下	•	S-003488	34.5 *														
						16.0kW超22.4kW以下	•	S-003489	34.8 *														
						22.4kW超28.0kW以下	•	S-003490	34.9 *														
						28.0kW超33.5kW以下	•	S-003492	34.9 *														
						33.5kW超40.0kW以下	•	S-003493	35 *														
						40.0kW超60.0kW以下	•	S-003494	35.2 *														
						60.0kW超80.0kW以下	•	S-003495	35 *														
						80.0kW超100.0kW以下	•	S-003496	35.1 *														
						100.0kW超120.0kW以下	•	S-003497	35.2 *														
						120.0kW超140.0kW以下	•	S-003498	35.1 *														
						140.0kW超160.0kW以下	•	S-003499	35.1 *														
						160.0kW超200.0kW以下	•	S-003501	35.1 *														
						200.0kW超240.0kW以下	•	S-003502	35.1 *														
						240.0kW超280.0kW以下	•	S-003503	35.1 *														

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件					
														単位	名称	標準する規格	規格の名称	計算式	標準する規格	規格の名称	説明
						分流量型	冷却能力	14.0kW以下	○	S-004500	11.1 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	JRA4066:201 4およびJIS B 8615-2	ウォータチ リングユニ ットおよび エアコン ディショナ	標準条件による評価	JRA4066:201 4およびJIS B 8615-2	ウォータチ リングユニ ットおよび エアコン ディショナ	日本冷凍空調工業会、又は日本規格協会の指定の 規格によって試験および効率の計算を行う。 ただし、本設備は水循環としながらもヒートポン プがないため、一部仕様での試験条件とし、新た な試験項目は追加する。 【空気条件】 JIS B 8615-2 P8 表2-冷房能力試験条件よ り、気候の温和な地域に対する温度条件 (T1) の 場合とする 【試験条件】 COP算出=冷却能力÷定格消費電力とする 冷却能力=D R Y側空気の質量流出と出入口 比エンタルピー差の積	
								14.0kW超16.0kW以下	○	S-004501	11 *										
								16.0kW超22.4kW以下	○	S-004502	11 *										
								22.4kW超28.0kW以下	○	S-004503	11.1 *										
								28.0kW超33.5kW以下	○	S-004504	11 *										
								33.5kW超40.0kW以下	○	S-004505	11 *										
								40.0kW超60.0kW以下	○	S-004506	11 *										
								60.0kW超80.0kW以下	○	S-004507	11 *										
								80.0kW超100.0kW以下	○	S-004508	11 *										
								100.0kW超120.0kW以下	○	S-004509	11 *										
								120.0kW超140.0kW以下	○	S-004510	11 *										
								140.0kW超160.0kW以下	○	S-004511	11 *										
								160.0kW超200.0kW以下	○	S-004512	11 *										
L-000910	産業・業 務(業種 共通)	空調/産業 用プロセ ス	熱源・空 調機(吸 収式・中 央方式)	吸収冷凍水機 (二重効用)	吸収力の高い液体に冷媒を吸収させることにより生じる低圧を利用 して水を気化させ、気化熱から生じる低温を得る冷凍機であり、 高温、低温再生器を有するもの。	節電型(冷却水量原単位 0.7m3/h、RT以下)、冷水入 口温度15℃、冷水出口温度 7℃	冷房能力	80RT以下	○	S-003536	1.48 *	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	
								80RT超1000RT以下	●	S-003539	1.48 *										
								1000RT超	○	S-003537	1.41 *										

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件				
														単位	名称	準拠する規格	規格の名称	準拠する規格	規格の名称	計算式
						冷水入口温度12℃、冷水出口温度7℃	冷房能力	80RT以下	○	S-003541	1.48	-	成績係数(COP)	標準規格による評価	JISB8622:2009またはJISB8622:2016	吸収式冷凍機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	JISB8622:2009またはJISB8622:2016	吸収式冷凍機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠
								80RT超1000RT以下	●	S-003540	1.48									
								1000RT超	○	S-003542	1.46									
L-000911	産業・業務(業種共通)	空調/産業用プロセス	熱源・空調機(吸収式・中央方式)	吸収冷水機(三重効用)/後熱投入型吸収冷水機(三重効用)	吸収力の高い液体に冷媒を吸収させることにより生じる低圧を利用して水を気化させ、気化熱から生じる低温を得る冷凍機であり、高温、中温、低温再生器を有するもの。	冷水入口温度12℃、冷水出口温度7℃	-	-	●	S-003545	1.74	-	成績係数(COP)	標準規格による評価	JISB8622:2009またはJISB8622:2016	吸収式冷凍機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	JISB8622:2009またはJISB8622:2016	吸収式冷凍機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠
L-000912	産業・業務(業種共通)	空調/産業用プロセス	熱源・空調機(吸収式・中央方式)	一重二重併用形吸収冷水機	吸収力の高い液体に冷媒を吸収させることにより生じる低圧を利用して水を気化させ、気化熱から生じる低温を得る冷凍機であり、排熱を熱源として利用し、燃料削減率が20%以上のもの。	新電型(冷却水量原単位0.7m3/h、RT以下)、冷水入口温度15℃、冷水出口温度7℃	冷房能力	80RT以下	○	S-003546	1.47	-	成績係数(COP)	標準規格による評価	JISB8622:2009またはJISB8622:2016	吸収式冷凍機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	JISB8622:2009またはJISB8622:2016	吸収式冷凍機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠
								80RT超1000RT以下	●	S-003548	1.47									
								1000RT超	-	S-003549	-									
						冷水入口温度12℃、冷水出口温度7℃	冷房能力	80RT以下	○	S-003553	1.47	-	成績係数(COP)	標準規格による評価	JISB8622:2009またはJISB8622:2016	吸収式冷凍機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	JISB8622:2009またはJISB8622:2016	吸収式冷凍機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠
								80RT超1000RT以下	●	S-003551	1.47									
								1000RT超	-	S-003550	-									
L-000913	産業・業務(業種共通)	空調	熱源・空調機(吸収式・中央方式)	木質ペレット直燃式吸収冷水機(二重効用)	吸収力の高い液体に冷媒を吸収させることにより生じる低圧を利用して水を気化させ、気化熱から生じる低温を得る冷凍機であり、高温、低温再生器を有するもの内、加熱源の燃料に木質ペレットを使用するもの。中央方式を採用する業務施設の冷暖房に使用される。	-	冷房能力	80RT以下	○	S-004469	1.04	-	成績係数(COP)	標準規格による評価	JIS B 8622:2009	吸収冷凍機	JIS B 8622:2009に準拠、ただし、成績係数は冷凍能力を加熱源消費熱量で除いたものとし、消費電力は除外することとする。	JIS B 8622:2009	吸収冷凍機	JIS B 8622:2009に準拠
								80RT超1000RT以下	-	S-004470	-									
								1000RT超	-	S-004471	-									
L-000917	産業・業務(業種共通)	空調	熱源・空調機(地中熱利用・中央方式)	パッシブ地中熱利用システム	熱交換パイプ、制御盤、ポンプ、ファンからなる。地下水又は温水をスバイラル状に通水できるパイプを地下2mに埋設し送風をすることで、空気と地中熱・水の熱と熱交換を行い温風、冷風を送風する機器。一般的には通風部のみあるクールチューブやアースチューブなどと呼ばれる空調機が存在する。こういったシステムと比べて、水が持つ熱との熱交換が加わったことで、熱交換量が飛躍的に増え、大空間の空調を行えるようになった。	-	冷房能力	6.4kW	-	S-003560	-	-	成績係数(COP)	シミュレーションによる評価	-	-	COP=0/P、COP:成績係数、φ:定格能力[W]、P:定格消費エネルギー[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、入気温度、吹き出し温度、給水温度、戻り水温度については、以下の通り設定することを条件とする。入気温度35℃、吹き出し温度27℃、給水温度:15℃、戻り水温度:15℃
								8.2kW	-	S-003561	-									
								10.9kW	○	S-003567	15.57	*								
								12.8kW	-	S-003562	-									

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標														
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ		計算方法				試験条件							
													単 位	名 称	準拠する規程	規程の名称	計算式	準拠する規程	規程の名称	試験条件	説 明					
																						標準条件 による評 価	標準条件 による評 価	標準条件 による評 価	標準条件 による評 価	
						21.9kW	-	-	S-003563	-																
						29.2kW	-	-	S-003564	-																
						36.5kW	-	-	S-003565	-																
L-000918	産業・業 務（業種 共通）	空調/産業 用プロセス	熱源・空 調機（吸 着式・中 央方式）	吸着式冷凍機	吸着器内部に充填された吸着剤に冷媒を吸着させ、冷媒の蒸発を 促し、その気化熱から冷凍効果を得る冷凍機。	熱源入口温度：58℃	-	-	S-003568	15.2 *	-	電力COP	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費エネルギー[W] 注：上記のCOPは電力COPである	-	-			成績係数(COP)の算出にあたっては、冷水出口温 度、冷却水入口温度、熱源入口温度をそれぞれ のとおりに設定することを条件とする。冷水出口温 度：15℃、冷却水入口温度：27℃、熱源入口温 度：58℃ 注：上記のCOPは電力COPである					
						熱源入口温度：68℃	冷却能力	2.5kW以上25kW未満	○	S-004513	22 *	-	電力COP	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費エネルギー[W] 注：上記のCOPは電力COPである	-	-			成績係数(COP)の算出にあたっては、冷水出口温 度、冷却水入口温度、熱源入口温度をそれぞれ 以下のとおりに設定することを条件とする。冷水出口 温度：15℃、冷却水入口温度：27℃、熱源入口温 度：68℃ 注：上記のCOPは電力COPである				
								25kW以上50kW未満	○	S-004514	25 *															
						50kW以上	○	S-004515	26 *																	
L-000919	産業・業 務（業種 共通）	給湯/産業 用プロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	高温水ヒートボ ンプ(空気熱源・ 循環式)	空気を熱源とし、循環式の供給方式が可能なヒートポンプ方式 で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含ま ないもの。	温水出口温度65℃以上70℃ 以下、乾球温度16℃、湿球 温度12℃、温水出入口温度 差5℃	-	-	S-003571	3.09 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	-	-			成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、乾球温度、湿球温度、温水出入口温度差を次 のとおりに設定することを条件とする。温水出口温 度：65℃以上70℃以下、乾球温度：16℃、湿球温 度：12℃、温水出入口温度差：5℃					
						温水出口温度65℃以上70℃ 以下、乾球温度25℃、湿球 温度21℃、温水出入口温度 差10℃	-	-	S-003572	3.63 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	-	-			成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、乾球温度、湿球温度、温水出入口温度差を以 下のとおりに設定することを条件とする。温水出 口温度：65℃以上70℃以下、乾球温度：25℃、湿球 温度：21℃、温水出入口温度差：10℃					
						温水出口温度65℃以上70℃ 以下、乾球温度25℃、湿球 温度21℃、温水出入口温度 差5℃	-	-	S-003573	3.29 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	-	-			成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、乾球温度、湿球温度、温水出入口温度差を以 下のとおりに設定することを条件とする。温水出 口温度：65℃以上70℃以下、乾球温度：25℃、湿球 温度：21℃、温水出入口温度差：5℃					
L-000920	産業・業 務（業種 共通）	給湯/産業 用プロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	高温水ヒートボ ンプ(空気熱源・ 一過式)	空気を熱源とし、一過式の供給方式が可能なヒートポンプ方式 で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含ま ないもの。	-	-	S-003574	4.2 *	-	年間標準貯 湯加熱エネ ルギー消費 効率	標準規格 による評 価	JRA4060:201 4	業務用ヒー トポンプ給 湯機	JRA4060:2014に準拠	JRA4060:201 4	業務用ヒー トポンプ給 湯機	JRA4060:2014に準拠								
L-000921	産業・業 務（業種 共通）	産業用プ ロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	高温水ヒートボ ンプ(水熱源・循 環式)	水を熱源とし、遠心式、または回転式圧縮機を使用して、循環式 の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱す る熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	温水出口温度65℃、熱源水 入口温度17℃以上30℃以 下、熱源水出口温度7℃以 上20℃以下、温水出入口温 度差10℃	加熱能力	270kW以下	●	S-003575	3.4 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	-	-			成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおりに設定することを条件とす る。温水出口温度：65℃、熱源水入口温度：17℃ 熱源水出口温度：7℃、温水出入口温度差：10℃				
								270kW超350kW以下	-	S-003577	-															
								350kW超540kW以下	●	S-003576	3.2 *															
								540kW超	-	S-003578	-															
					温水出口温度65℃、熱源水 入口温度17℃以上30℃以 下、熱源水出口温度7℃以 上20℃以下、温水出入口温 度差10℃	加熱能力	270kW以下	●	S-003581	4.3 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	-	-			成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおりに設定することを条件とす る。温水出口温度：65℃、熱源水入口温度：17℃ 以上30℃以下、熱源水出口温度：7℃以上20℃以下 温水出入口温度差：10℃					

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標													
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件								
												単位	名称		参照する規程	規程の名称	計算式	参照する規程	規程の名称	説明					
						270kW以下350kW以下	-	S-003579	-																
						350kW超540kW以下	•	S-003582	4.4 *																
						540kW超	-	S-003580	-																
					温水出口温度65℃、熱源水 入口温度20℃、熱源水出口 温度15℃以上17℃以下、温 水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下	•	S-003583	3.6 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-							成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を次のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：65℃、熱源水入口温度： 20℃、熱源水出口温度：15℃以上17℃以下、温水 出入口温度差：5℃
						270kW超350kW以下	-	S-003585	-																
						350kW超540kW以下	•	S-003584	3.7 *																
						540kW超	-	S-003586	-																
					温水出口温度65℃、熱源水 入口温度30℃、熱源水出口 温度25℃以上30℃以下、温 水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下	•	S-003589	4.2 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-							成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：65℃ 熱源水入口温度：30℃ 熱源水出口温度：25℃以上30℃以下 温水出入口 温度差：5℃
						270kW超350kW以下	-	S-003587	-																
						350kW超540kW以下	-	S-003588	-																
						540kW超	•	S-003590	4.8 *																
					温水出口温度65℃、熱源水 入口温度38℃以上40℃以下、 熱源水出口温度35℃、 温水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下	•	S-003591	5.1 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-							成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：65℃ 熱源水入口温度：38℃ 以上40℃以下 熱源水出口温度：35℃ 温水出入口 温度差：5℃
						270kW超350kW以下	-	S-003592	-																
						350kW超540kW以下	-	S-003594	-																
						540kW超	-	S-003595	-																
					温水出口温度65℃、熱源水 入口温度40℃、熱源水出口 温度30℃、温水出入口温度 差10℃	加熱能力	270kW以下	•	S-003599	4.9 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-							成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：65℃ 熱源水入口温度：40℃ 熱源水出口温度：30℃ 温水出入口温度差：10℃

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件		説明				
												単位	名称		基準する規程	規程の名称	計算式	基準する規程		規程の名称			
						270kW以下	350kW以下	S-003596	-	-	-												
						350kW超540kW以下		S-003597	-	-	-												
						540kW超		S-003600	•	5.8 *	-												
						温水出口温度75℃、熱源水 入口温度20℃、熱源水出口 温度15℃以上17℃以下、温 水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下	•	S-003601	3.1 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-				成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：75℃ 熱源水入口温度：20℃ 熱源水出口温度：15℃以上17℃以下 温水出入口 温度差：5℃
						270kW超350kW以下		S-003603	-	-	-												
						350kW超540kW以下		S-003604	-	-	-												
						540kW超		S-003605	-	-	-												
						温水出口温度75℃、熱源水 入口温度30℃、熱源水出口 温度20℃、温水出入口温度 差10℃	加熱能力	270kW以下	•	S-003612	3.7 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-			成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：75℃ 熱源水入口温度：30℃ 熱源水出口温度：20℃ 温水出入口温度差：10℃	
						270kW超350kW以下		S-003611	-	-	-												
						350kW超540kW以下		S-003610	-	-	-												
						540kW超		S-003608	-	-	-												
						温水出口温度75℃、熱源水 入口温度30℃、熱源水出口 温度25℃以上27℃以下、温 水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下	•	S-003614	3.7 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-			成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：75℃ 熱源水入口温度：30℃ 熱源水出口温度：25℃以上27℃以下 温水出入口 温度差：5℃	
						270kW超350kW以下		S-003615	-	-	-												
						350kW超540kW以下		S-003616	-	-	-												
						540kW超		S-003617	-	-	-												
						温水出口温度75℃、熱源水 入口温度35℃以上40℃以 下、熱源水出口温度30℃、 温水出入口温度差10℃	加熱能力	270kW以下	•	S-003622	3.8 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-			成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：75℃ 熱源水入口温度：35℃ 以上40℃以下 熱源水出口温度：30℃ 温水出入口 温度差：10℃	
						270kW超350kW以下		S-003621	•	4.3 *	-												

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス	認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標												
										測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件							
	単位	名称	準拠する規程							規程の名称	計算式		準拠する規程	規程の名称	説明							
						条件																
						加熱能力		350kW以下	S-003620	-												
								540kW超	S-003619	-												
						温水出口温度75℃、熱源水 入口温度40℃、熱源水出口 温度35℃、温水出入口温度 差5℃	加熱能力	270kW以下	S-003624	4.44 *		成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-		COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-			成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：75℃ 熱源水入口温度：40℃ 熱源水出口温度：35℃ 温水出入口温度差：5℃
								270kW超350kW以下	S-003625	-												
								350kW超540kW以下	S-003626	-												
								540kW超	S-003627	-												
						温水出口温度90℃、熱源水 入口温度17℃、熱源水出口 温度7℃、温水出入口温度 差10℃	加熱能力	270kW以下	S-003628	-		成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-		COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-			成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：90℃ 熱源水入口温度：17℃ 熱源水出口温度：7℃ 温水出入口温度差：10℃
								270kW超350kW以下	S-003632	2.75 *												
								350kW超540kW以下	S-003629	-												
								540kW超	S-003631	-												
						温水出口温度90℃、熱源水 入口温度30℃、熱源水出口 温度25℃、温水出入口温度 差5℃	加熱能力	270kW以下	S-003635	-		成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-		COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-			成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：90℃ 熱源水入口温度：30℃ 熱源水出口温度：25℃ 温水出入口温度差：5℃
								270kW超350kW以下	S-003634	3.1 *												
								350kW超540kW以下	S-003636	-												
								540kW超	S-003637	-												
						温水出口温度90℃、熱源水 入口温度40℃、熱源水出口 温度30℃、温水出入口温度 差10℃	加熱能力	270kW以下	S-003641	3 *		成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-		COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-			成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入 口温度差を以下のとおり設定することを条件とす る。温水出口温度：90℃ 熱源水入口温度：40℃ 熱源水出口温度：30℃ 温水出入口温度差：10℃
								270kW超350kW以下	S-003640	-												

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標													
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	標準する規程		規程の名称		計算方法		標準する規程		規程の名称		試験条件	
														単位	名称	計算式	単位	名称	説明						
						350kW超540kW以下	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
						540kW超	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
						温水出口温度90℃、熱源水 入口温度40℃、熱源水出口 温度35℃、温水出入口温度 差5℃	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
						270kW以下	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
						270kW超350kW以下	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
						350kW超540kW以下	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
						540kW超	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
L-000922	産業・業 務(業種 共通)	産業用プ ロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	高温水ヒートポ ンプ(水熱源・一 過式)	水を熱源とし、一過式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、 水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まない もの。	-	-	年間標準貯 湯加熱エネ ルギー消費 効率	標準規格 による評 価	JRA4060:201 4	業務用ヒー トポンプ給 湯機	JRA4060:2014に準拠	JRA4060:201 4	業務用ヒー トポンプ給 湯機	JRA4060:2014に準拠	-	-	-	-	-	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：90℃熱源水入口温度：40℃熱源水出口温度：35℃温水出入口温度差：5℃		
						水熱源運転、温水出口温度 70℃、熱源水入口温度 50℃、熱源水出口温度 38.6℃、温水出入口温度差 50℃	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：70℃熱源水入口温度：50℃熱源水出口温度：38.6℃温水出入口温度差：50℃		
L-000923	産業・業 務(業種 共通)	産業用プ ロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	高温水ヒートポ ンプ(水空熱源・循環式)	空気、または水を熱源とでき、循環式の供給方式が可能なヒート ポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユ ニットを含まないもの。	-	-	空気熱源運転、温水出口温 度65℃、乾球温度25℃、湿 球温度21℃、温水出入口温 度差5℃	標準条件 による評 価	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、乾球温度、湿球温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：70℃熱源水入口温度：50℃熱源水出口温度：77℃熱源水入口温度：25℃湿球温度：21℃温水出入口温度差：5℃		
						水熱源運転、温水出口温度 65℃、熱源水入口温度20℃ 以下、熱源水出口温度15℃ 以下、温水出入口温度差 5℃	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を次のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：65℃、熱源水入口温度：20℃以下、熱源水出口温度：15℃以下、温水出入口温度差：5℃		
						水熱源運転、温水出口温度 75℃、熱源水入口温度 17℃、熱源水出口温度 7℃、温水出入口温度差 10℃	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：75℃熱源水入口温度：17℃熱源水出口温度：7℃温水出入口温度差：10℃		
L-000924	産業・業 務(業種 共通)	産業用プ ロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	高温水ヒートポ ンプ(水空熱源・一過式)	空気、または水を熱源とでき、一過式の供給方式が可能なヒート ポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユ ニットを含まないもの。	-	-	空気熱源運転	標準規格 による評 価	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：90℃熱源水入口温度：40℃熱源水出口温度：35℃温水出入口温度差：5℃		
						水熱源運転	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：90℃熱源水入口温度：40℃熱源水出口温度：35℃温水出入口温度差：5℃		
L-000628	産業・業 務(業種 共通)	産業用プ ロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	熱風ヒートポン プ(空気熱源・ 一過式)	空気を熱源とし、一過式の供給方式を用いるヒートポンプ方式 で、高温の熱風を発生させる装置	-	-	空気熱源運転	標準条件 による評 価	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、空気入口温度、熱風供給温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、熱風供給温度、外気温度(乾球温度/湿球温度)を次のとおり、設定することを条件とする。空気入口温度：20℃、熱風供給温度：80℃、外気温度(乾球温度/湿球温度)25℃/21℃とする。		
L-000895	産業・業 務(業種 共通)	産業用プ ロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	熱風ヒートポン プ(水熱源・一過 循環式)	水を熱源とし、一過/循環式の供給方式を用いるヒートポンプ方式 で、高温の熱風を発生させる熱源装置。	-	-	空気熱源運転	標準条件 による評 価	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、空気入口温度、熱風供給温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、熱風供給温度、外気温度(乾球温度/湿球温度)を次のとおり、設定することを条件とする。空気入口温度：20℃、熱風供給温度：100℃、熱源水入口温度：30℃、熱源水出口温度：25℃		
						水熱源運転、温水出口温度 70℃、熱源水入口温度 50℃、熱源水出口温度 38.6℃、温水出入口温度差 50℃	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：70℃熱源水入口温度：50℃熱源水出口温度：38.6℃温水出入口温度差：50℃		

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件							
														単位	名称	標準する規程	規程の名称	標準する規程	規程の名称	説明			
L-000896	産業・業務 (業種 共通)	産業用プロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	蒸気発生ヒート ポンプ(水熱源・ 一過式)	水を熱源とし、一過式の供給方式を用いるヒートポンプ方式で、 蒸気を生産させる熱源装置。	蒸気圧力0.1MPaG、熱源水 入口温度65℃、熱源水出口 温度60℃	-	-	○	S-003676	3.53 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、蒸気圧力、 熱源水入口温度、熱源水出口温度を次のとおり設 定することを条件とする。蒸気圧力：0.1MPaG、 熱源水入口温度：65℃、熱源水出口温度：60℃			
						蒸気圧力0.1MPaG、熱源水 入口温度80℃、熱源水出口 温度70℃	-	-	-	S-003678	-	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、蒸気圧力、 熱源水入口温度、熱源水出口温度を以下のとおり 設定することを条件とする。蒸気圧力： 0.1MPaG 熱源水入口温度：80℃ 熱源水出口温 度：70℃			
						蒸気圧力0.6MPaG、熱源水 入口温度70℃、熱源水出口 温度65℃	-	-	○	S-003677	2.46 *	-	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、蒸気圧力、 熱源水入口温度、熱源水出口温度を以下のとおり 設定することを条件とする。蒸気圧力： 0.6MPaG 熱源水入口温度：70℃ 熱源水出口温 度：65℃		
L-000668	産業・業務 (業種 共通)	産業用プロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	蒸気再圧縮装置	産業プロセス等で利用された排熱を回収し、循環式の供給方式を 用いるヒートポンプ。低圧の蒸気を圧縮して再利用することで、 ボイラ等の蒸気を利用する設備・機器等の省エネを実現可能。	吐出圧力0.1MPaG以上 0.2MPaG以下、吐出蒸気量 1.0ton/h以上2.0ton/h以下、 給水温度80℃	-	-	●	S-003680	0.067 *	-	消費電力量	標準条件 による評 価	-	-	消費電力量=システム消費電力[kW]/吐出蒸気量 [kg/h]	-	-	消費電力量の算出にあたっては、吐出圧力、吐出 蒸気量、給水温度を以下のとおり設定すること を条件とする。吐出圧力：0.1MPaG以上0.2MPaG以 下、吐出蒸気量：1.0ton/h以上2.0ton/h以下、給水 温度：80℃			
						吐出圧力0.1MPaG以上 0.3MPaG以下、吐出蒸気量 3.0ton/h以上、給水温度 80℃	-	-	●	S-003681	0.064 *	-	消費電力量	標準条件 による評 価	-	-	消費電力量=システム消費電力[kW]/吐出蒸気量 [kg/h]	-	-	消費電力量の算出にあたっては、吐出圧力、吐出 蒸気量、給水温度を以下のとおり設定すること を条件とする。吐出圧力：0.1MPaG以上0.3MPaG 以下 吐出蒸気量：3.0ton/h以上 給水温度：80℃			
						吐出圧力0.4MPaG以上、吐 出蒸気量1.0ton/h以上 1.5ton/h以下、給水温度 80℃	-	-	●	S-003682	0.085 *	-	消費電力量	標準条件 による評 価	-	-	消費電力量=システム消費電力[kW]/吐出蒸気量 [kg/h]	-	-	消費電力量の算出にあたっては、吐出圧力、吐出 蒸気量、給水温度を以下のとおり設定すること を条件とする。吐出圧力：0.4MPaG以上 吐出蒸気 量：1.0ton/h以上1.5ton/h以下 給水温度：80℃			
L-000629	産業・業務 (業種 共通)	空調	空調機 (ペレ ットストー プ)	密閉式ペレ ットストー プ	木質ペレットを燃料とする燃焼機器。木質ペレットを燃焼させた 熱を熱交換器により室内の空気に伝え、送風ファンにより部屋の 隅々まで温風を行き渡らせる。燃焼させた空気は煙突から排気さ せるため、室内の空気と交わることはなく、清潔な環境を保つこ とができる。木質ペレットは、カーボンニュートラルであるた め、CO2の排出削減が可能。	-	-	●	S-003684	77 *	-	熱効率	標準条件 による評 価	JHIAN- 5601:2004	木質バイオ マス燃焼機 器の試験方 法通則	$\eta = 100 - (qa + qb + qr)$ 、 η ：熱効率[%]、qa：試 験燃料中の発熱量当たり排気ガス中の熱損失 (Qa) の比、熱による熱損失の割合(燃焼基 準) [%]、qb：試験燃料の熱容量当たり排気ガス 中の化学的熱損失 (Qb)、の潜熱による熱損失 の割合(燃焼基準) [%]、qr：試験燃料の熱容量当 たり底部格子を通過し残渣物中に残った可燃性構 成物質による熱損失 (Qr) の残渣物中の可燃性構 成、物質による損失の割合(燃焼基準) [%]※発 熱量は高位発熱量とする	JHIAN- 5601:2004	木質バイオ マス燃焼機 器の試験方 法通則	JHIAN-5601:2004に準拠、試験実施にあたって は、ISO17025に準拠した試験機関による性能評 価を行うこととする。				
L-000670	産業・業務 (業種 共通)	給湯	給湯器 (ヒート ポンプ)	ヒートポンプ給 湯機(空気熱源)	空気を熱源とするヒートポンプ方式の給湯機。貯湯ユニットを含 むもの。	加熱能力	10kW以下	●	S-003686	4.2	-	年間標準貯 湯加熱エネ ルギー消費 効率	標準規格 による評 価	JRA4060:20 14	業務用ヒー トポンプ給 湯機	JRA4060:2014に準拠	JRA4060:20 14	業務用ヒー トポンプ給 湯機	JRA4060:2014に準拠				
							10kW超20kW以下	●	S-003687	4.2													
							20kW超30kW以下	●	S-003689	3.9													
							30kW超40kW以下	●	S-003690	3.8													
							40kW超50kW以下	○	S-003691	3.8													
							50kW超	●	S-003692	3.8													
	寒冷地仕様	加熱能力	10kW以下	●	S-003693	3.5	-	寒冷地年間 標準貯湯加 熱エネルギー 消費効率	標準規格 による評 価	JRA4060:20 14	業務用ヒー トポンプ給 湯機	JRA4060:2014に準拠	JRA4060:20 14	業務用ヒー トポンプ給 湯機	JRA4060:2014に準拠								
			10kW超20kW以下	●	S-003694	3.5																	

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標												
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件								
														単位	名称	標準する規程	規程の名称	標準する規程	規程の名称	説明				
								20kW超30kW以下	●	S-003695	3.5													
								30kW超40kW以下	●	S-003696	3.4													
								40kW超50kW以下	○	S-003697	3.3													
								50kW超	●	S-003699	3.3													
L-000672	産業・業務 (業種 共通)	給湯	給湯器 (ガス 式)	潜熱回収型給湯器	バーナによって加熱した高温の空気により配管内の水を温める機器。潜熱回収型は、従来捨てられていた燃焼排熱を潜熱回収する。	-	-	-	●	S-003720	95	-	熱効率	標準規格 による評 価	JISS2109-20 10R	家庭用ガス 温水機器	JISS2109-2010Rに準拠	JISS2109-20 10R	家庭用ガス 温水機器	JISS2109-2010Rに準拠				
L-000611	産業・業務 (業種 共通)	給湯	ボイラ	温水機	燃焼室、伝熱面、熱交換器からなる。燃焼によって温められた熱媒水と給水管の水とを熱交換させ、その温水を取り出して利用する。熱媒水を真空状態に密閉した状態で沸騰させる真空式と、熱媒水を大気に開放した状態で温める無圧式が存在する。	-	出力	1000kW未満	○	S-003722	96	-	ボイラ効率	標準規格 による評 価	JISB8222- 1993、 JISB8417:20 00、または JISB8418:20 00 (あるい は、HA- 008:2015ま たはHA- 010:2015)	随用ボイ ラー熱動 定方式、真空 式温水発生 機、または 無圧式温水 発生機 (あ るいは、真 空式温水発 生機または 無圧式温水 発生機)	JISB8222-1993、 JISB8417:2000、または JISB8418:2000に準拠 (あるいは、HA-008:2015ま たはHA-010:2015に準拠)	JISB8222- 1993、 JISB8417:20 00、または JISB8418:20 00 (あるい は、HA- 008:2015ま たはHA- 010:2015)	随用ボイ ラー熱動 定方式、真空 式温水発生 機、または 無圧式温水 発生機 (あ るいは、真 空式温水発 生機または 無圧式温水 発生機)	JISB8222-1993、 JISB8417:2000、または JISB8418:2000に準拠 (あるいは、HA-008:2015ま たはHA-010:2015に準拠)				
								1000kW以上2000kW未満	○	S-003728	91													
								2000kW以上	○	S-003731	91													
							潜熱回収型、LPG焚き	出力	1000kW未満	○	S-004517	103	-	ボイラ効率	標準規格 による評 価	JISB8222- 1993、 JISB8417:20 00または JISB8418:20 00 (あるい は、HA- 035:2017ま たはHA- 036:2017)	随用ボイ ラー熱動 定方式、真空 式温水発生 機、または 無圧式温水 発生機 (あ るいは、ガ ス炭素熱回 収型真空式 温水発生機 またはガス 炭素熱回収 型無圧式温 水発生機)	JISB8222-1993、 JISB8417:2000、または JISB8418:2000に準拠 (あるいは、HA-035:2017ま たはHA-036:2017に準拠)	JISB8222- 1993、 JISB8417:20 00または JISB8418:20 00 (あるい は、HA- 035:2017ま たはHA- 036:2017)	随用ボイ ラー熱動 定方式、真空 式温水発生 機、または 無圧式温水 発生機 (あ るいは、ガ ス炭素熱回 収型真空式 温水発生機 またはガス 炭素熱回収 型無圧式温 水発生機)	JISB8222-1993、 JISB8417:2000、または JISB8418:2000に準拠 (あるいは、HA-035:2017ま たはHA-036:2017に準拠)			
								1000kW以上2000kW未満	-	S-004518	-													
								2000kW以上	-	S-004519	-													
							潜熱回収型、都市ガス13A 焚き	出力	1000kW未満	○	S-004532	105	-	ボイラ効率	標準規格 による評 価	JISB8222- 1993、 JISB8417:20 00または JISB8418:20 00 (あるい は、HA- 035:2017ま たはHA- 036:2017)	随用ボイ ラー熱動 定方式、真空 式温水発生 機、または 無圧式温水 発生機 (あ るいは、ガ ス炭素熱回 収型真空式 温水発生機 またはガス 炭素熱回収 型無圧式温 水発生機)	JISB8222-1993、 JISB8417:2000、または JISB8418:2000に準拠 (あるいは、HA-035:2017ま たはHA-036:2017に準拠)	JISB8222- 1993、 JISB8417:20 00または JISB8418:20 00 (あるい は、HA- 035:2017ま たはHA- 036:2017)	随用ボイ ラー熱動 定方式、真空 式温水発生 機、または 無圧式温水 発生機 (あ るいは、ガ ス炭素熱回 収型真空式 温水発生機 またはガス 炭素熱回収 型無圧式温 水発生機)	JISB8222-1993、 JISB8417:2000、または JISB8418:2000に準拠 (あるいは、HA-035:2017ま たはHA-036:2017に準拠)			

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標													
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件							
												単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明					
										S-004533	-														
										S-004534	-														
										S-004520	90	-	ボイラ効率	標準規格 による評 価	HA-034-2: 2015または HA-034-1: 2015	日本暖房機 器工業会規 格HA	JISB8222-1993、HA-034-2: 2015、HA-034-1: 2015に準拠	JISB8222-1993、 JISB8417:2000または JISB8418:2000	随用ボイ ラー熱効 率方式、真 空式温水 発生機、 または 無圧式温 水発生機	JISB8222-1993、JISB8417:2000、または JISB8418:2000に準拠					
										S-004521	90														
										S-004522	90														
										S-004523	90														
										S-004524	90														
										S-004526	90	-	ボイラ効率	標準規格 による評 価	HA-034-2: 2015または HA-034-1: 2015	日本暖房機 器工業会規 格HA	JISB8222-1993、HA-034-2: 2015、HA-034-1: 2015に準拠	JISB8222-1993、 JISB8417:2000または JISB8418:2000	随用ボイ ラー熱効 率方式、真 空式温水 発生機、 または 無圧式温 水発生機	JISB8222-1993、JISB8417:2000、または JISB8418:2000に準拠					
										S-004527	90														
										S-004528	85														
										S-004529	85														
L-000600	産業・業 務(業種 共通)	産業用ブ ロセス	ボイラ	蒸気ボイラ(貫 流ボイラ)	燃料の燃焼を熱源として水を加熱して蒸気を生じさせ、その蒸気 を他に供給する装置。小型・軽量で、空調用、業務用～産業用の幅 広い業種で使用される。	蒸気量	1500kg/h未満	● S-003735	97	-	ボイラ効率	標準規格 による評 価	JISB8222-1993	随用ボイ ラー熱効 率方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222-1993および 公益財団法人日本小型 蒸気ボイ ラー協会が 規定する 「ボイラー 性能表示 基準」	随用ボイ ラー熱効 率方式および 公益財法 人日本小 型蒸気ボ イラー協 会が規定 する「ボ イラー性 能表示基 準値」	JISB8222-1993および公益財団法人日本小型蒸気ボイラー協会が規定する「ボイラー性能表示基準」に準拠							
							1500kg/h以上3000kg/h未満	● S-003737	98																

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件							
														単位	名称	参照する規程	規程の名称	参照する規程	規程の名称	説明			
						3000kg/h以上	● S-003739	99															
						潜熱回収型	蒸発量	3000kg/h未満	● S-003741	102	-	ボイラ効率	標準規格 による評 価	JISB8222- 1993	随用ボイ ラー熱効 率方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222- 1993および 公益財団法 人日本小型 蒸流ボイ ラー協会が 規定する 「ボイラー 性能表示基 準値」	随用ボイ ラー熱効 率方式	JISB8222-1993および公益財団法人日本小型蒸流ボイラー協会が規定する「ボイラー性能表示基準値」に準拠				
						3000kg/h以上	● S-003745	102															
						クローズド回収型(給水温度100℃以上)、エアヒータ(空気予熱器)の搭載	(相当) 蒸発量	3000kg/h未満	○ S-004498	98*	-	ボイラ効率	標準規格 による評 価	JISB8222- 1993	随用ボイ ラー熱効 率方式	JISB8222-1993に準拠	蒸流ボイ ラー性能 表示ガイ ドライン	蒸流ボイ ラー性能 表示ガイ ドライン	給水温度15℃、給気温度35℃、運転圧力は「蒸流ボイラー性能表示ガイドライン」表1.効率表示圧力基準に準拠				
						3000kg/h以上	○ S-004499	98*															
L-000675	産業・業務(業種共通)	産業用プロセス	ボイラ	蒸気ボイラ(炉筒煙管ボイラ)	燃料の燃焼を熱源として水を加熱して蒸気を発生させ、その蒸気を他に供給する装置。中程度の出力で、主に産業用・地域冷暖房用途で使用される。	蒸発量	1500kg/h未満	● S-003748	92	-	ボイラ効率	標準規格 による評 価	JISB8222- 1993	随用ボイ ラー熱効 率方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222- 1993	随用ボイ ラー熱効 率方式	JISB8222-1993に準拠					
						1500kg/h以上3000kg/h未満	● S-003750	92															
						3000kg/h以上7200kg/h未満	● S-003752	96															
						7200kg/h以上19200kg/h未満	● S-003754	96															
						19200kg/h以上	● S-003755	92															
L-000676	産業・業務(業種共通)	産業用プロセス	ボイラ	蒸気ボイラ(水管ボイラ)	燃料の燃焼を熱源として水を加熱して蒸気を発生させ、その蒸気を他に供給する装置。高圧・大容量で、主に化学・製紙業といった産業用や、地域暖房用途で使用される。	蒸発量	1500kg/h未満	○ S-003757	92	-	ボイラ効率	標準規格 による評 価	JISB8222- 1993	随用ボイ ラー熱効 率方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222- 1993	随用ボイ ラー熱効 率方式	JISB8222-1993に準拠					
						1500kg/h以上3000kg/h未満	- S-003759	-															
						3000kg/h以上7200kg/h未満	● S-003761	96															
						7200kg/h以上19200kg/h未満	○ S-003763	94															
						19200kg/h以上	○ S-003765	94															
L-000621	産業・業務(業種共通)	産業用プロセス	ボイラ	水素ボイラ(蒸流ボイラ)	水素の燃焼を熱源として水を加熱して蒸気を発生させ、その蒸気を他に供給する装置。水素は燃焼時に水のみしか生成せず、CO2を排出しないことから、炭化水素系燃料からの代替により、大幅にCO2を削減できる。現在は安価に水素が調達可能な副生水素の工場が対象とはなっているが、将来的には水素価格の低下により広く様々な業界で利用できると考えられる。	蒸発量	1500kg/h未満	- S-003767	-	-	ボイラ効率	標準規格 による評 価	JISB8222- 1993	随用ボイ ラー熱効 率方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222- 1993および 公益財団法 人日本小型 蒸流ボイ ラー協会が 規定する 「ボイラー 性能表示基 準値」	随用ボイ ラー熱効 率方式	JISB8222-1993および公益財団法人日本小型蒸流ボイラー協会が規定する「ボイラー性能表示基準値」に準拠					

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標														
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件									
												単位	名称		基準する規格	規格の名称	計算式	基準する規格	規格の名称	説明						
							1500kg/h以上3000kg/h	● S-003769		95																
							3000kg/h以上	- S-003771		-																
L-000689	産業・業務 (業種 共通)	産業用プロセス	ボイラ	熱媒ボイラ	沸点の高い油を伝熱媒体に使用することによって、常圧で高温が得られる装置。熱媒の種類によって油温度を200℃以上の任意温度にすることが容易にできるため、精度の高い温度制御が必要な化学工業等の加熱、反応用プロセスに多く用いられる。		出力	● S-003773		92	-	ボイラ効率	標準規格 による評価	JISB8222-1993	随用ボイラ熱測定方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222-1993	随用ボイラ熱測定方式	JISB8222-1993に準拠							
							1000kW未満	● S-003775		92																
							1000kW以上2000kW未満	● S-003777		92																
							2000kW以上																			
L-000690	産業・業務 (業種 共通)	空調給湯/産業用プロセス	コージェネレーション	ガスエンジンコージェネレーション	ガスを燃料としエンジン方式により発電し、その際に生じる廃熱を同時回収することにより、燃料を効率的に利用する発電供給システム。廃熱で発生する蒸気や温湯は、製造業のプロセス利用や、施設の空調・給湯などに幅広く使用される。	50Hz	発電出力	● S-003778		85.5	-	総合効率	標準規格 による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠							
							5kW以下	● S-003779		86.5																
							5kW超10kW以下	● S-003780		85.5																
							10kW超25kW以下	● S-003782		88																
							25kW超35kW以下	○ S-003784		90.2																
							35kW超250kW以下	○ S-003786		83.8																
							250kW超500kW以下	○ S-003788		87.8																
							500kW超750kW以下	○ S-003791		87.8																
							750kW超1000kW以下	● S-003792		87																
							3000kW超	○ S-003794		29	-	発電効率	標準規格 による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠							
							5kW以下	○ S-003796		31.5																
							5kW超10kW以下	○ S-003798		33.5																
							10kW超25kW以下	○ S-003800		33.5																
							25kW超35kW以下																			

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標												
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法			試験条件							
														単位	名称	参照する規格	規格の名称	計算式	参照する規格	規格の名称	試験条件 説明			
						35kW超250kW以下	°	S-003802	35.5															
						250kW超500kW以下	°	S-003804	40.3															
						500kW超750kW以下	°	S-003805	41.9															
						750kW超1000kW以下	°	S-003807	42.5															
						3000kW超	•	S-003810	49.5															
					50Hz、高速エンジン (1000rpm以上)	発電出力			1000kW超2000kW以下	°	S-003811	87	-	総合効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠			
						2000kW超3000kW以下	°	S-003813	77.5															
						1000kW超2000kW以下	°	S-003815	43.7	-	発電効率			標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠				
						2000kW超3000kW以下	°	S-003817	43.4															
					50Hz、中速エンジン (1000rpm未満)	発電出力			1000kW超2000kW以下	°	S-003819	74.3	-	総合効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠			
						2000kW超3000kW以下	°	S-003821	77.9															
						1000kW超2000kW以下	•	S-003823	45.5	-	発電効率			標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠				
						2000kW超3000kW以下	°	S-003831	47.8															
					60Hz	発電出力			5kW以下	•	S-003833	85.5	-	総合効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠			
						5kW超10kW以下	•	S-003835	86.5															
						10kW超25kW以下	•	S-003837	85.5															
						25kW超35kW以下	•	S-003839	88															
						35kW超250kW以下	°	S-003841	90.7															

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標												
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件								
														単位	名称	基準する規程	規程の名称	計算式	基準する規程	規程の名称	説明			
						250kW超500kW以下	○	S-003844	82.1															
						500kW超750kW以下	○	S-003846	87.8															
						750kW超1000kW以下	○	S-003847	87.8															
						3000kW超	●	S-003850	87															
						5kW以下	○	S-003851	29		発電効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠						
						5kW超10kW以下	○	S-003860	31.5															
						10kW超25kW以下	○	S-003862	33.5															
						25kW超35kW以下	○	S-003864	33.5															
						35kW超250kW以下	○	S-003867	37															
						250kW超500kW以下	●	S-003869	42															
						500kW超750kW以下	○	S-003872	41.3															
						750kW超1000kW以下	○	S-003874	42.5															
						3000kW超	●	S-003876	49.5															
					60Hz、高速エンジン (1000rpm以上)	発電出力	1000kW超2000kW以下	○	S-003878	86.5		総合効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠					
						2000kW超3000kW以下	-	S-003881	-															
						1000kW超2000kW以下	○	S-003883	43.3		発電効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠						
						2000kW超3000kW以下	-	S-003885	-															
					60Hz、中速エンジン (1000rpm未満)	発電出力	1000kW超2000kW以下	○	S-003888	77		総合効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠					

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標												
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件								
														単位	名称	参照する規程	規程の名称	計算式	参照する規程	規程の名称	説明			
								2000kW超3000kW以下	○	S-003890	77.9													
								1000kW超2000kW以下	●	S-003892	45.5	-	発電効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠				
								2000kW超3000kW以下	○	S-003895	47.8													
L-000691	産業・業 務(業種 共通)	空調/給湯/ 産業用プ ロセス	コージェ ネレーシ ョン	ガスタービン コージェネレ ーション	ガスを燃料とし、タービン方式により発電し、その際に生じる廃熱を同時回収する熱電供給システム。廃熱で発生する蒸気や温水は、製造業のプロセス利用や、施設の空調・給湯などに幅広く使用される。	50Hz	発電出力	1000kW以下	●	S-003593	83	-	総合効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠				
								1000kW超2000kW以下	○	S-003598	84													
								2000kW超3000kW以下	●	S-003602	81.8													
								3000kW超5000kW以下	-	S-003606	-													
								5000kW超7000kW以下	-	S-003607	-													
								7000kW超10000kW以下	●	S-003609	85.2													
								10000kW超40000kW以下	○	S-003613	85.9													
								40000kW超	○	S-003618	84													
								1000kW以下	○	S-003623	18.6	-	発電効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠				
								1000kW超2000kW以下	●	S-003630	27.2													
								2000kW超3000kW以下	○	S-003633	28.4													
								3000kW超5000kW以下	●	S-003638	29.9													
								5000kW超7000kW以下	○	S-003643	39.3													
								7000kW超10000kW以下	○	S-003648	34.3													
								10000kW超40000kW以下	●	S-003650	38.8													

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	測定単位		評価方法の タイプ	参照する規格	規格の名称	計算方法		試験条件	
														単位	名称				計算式	参照する規格	規格の名称	説明
						4000kW超	○	S-003651	40.9													
					60Hz	発電出力																
						1000kW以下	●	S-003653	83	-	総合効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠		JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠			
						1000kW超2000kW以下	○	S-003655	84													
						2000kW超3000kW以下	●	S-003658	81.8													
						3000kW超5000kW以下	-	S-003659	-													
						5000kW超7000kW以下	-	S-003660	-													
						7000kW超10000kW以下	●	S-003661	85.2													
						10000kW超40000kW以下	○	S-003662	86.8													
						40000kW超	○	S-003663	84													
						1000kW以下	-	S-003664	-		発電効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠		JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠			
						1000kW超2000kW以下	●	S-003665	27.2													
						2000kW超3000kW以下	○	S-003666	28.4													
						3000kW超5000kW以下	●	S-003667	29.9													

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標													
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法				試験条件						
												単 位	名 称		参照する規格	規程の名称	計算式	参照する規格	規程の名称	注 明					
										S-003668	39.3														
										S-003670	34.3														
										S-003674	38.8														
										S-003679	40.9														
L-000692	産業・業 務(業種 共通)	空調/給油/ 産業用プ ロセス	コージェ ネレーシ ョン	燃料電池コー ジェネレーシ ョン	ガスを燃料とし、燃料電池方式により発電し、その際に生じる廃熱を同時回収する熱電供給システム。廃熱で発生する蒸気や温水は、製造業のプロセス利用や、施設の空調・給湯などに幅広く使用される。	50Hz 燃料ガスの種類：純水素	発電出力	75kW以下	-	S-003683	-	-	総合効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム選則	JISC8801:2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム選則	JISC8801:2009に準拠					
								75kW超150kW以下	•	S-003685	93														
								150kW超	-	S-003688	-														
								75kW以下	-	S-003698	-	-	発電効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム選則	JISC8801:2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム選則	JISC8801:2009に準拠					
								75kW超150kW以下	•	S-003700	48														
								150kW超	-	S-003701	-														
						50Hz 燃料ガスの種類：都市ガス	発電出力	75kW以下	-	S-003702	-	-	総合効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム選則	JISC8801:2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム選則	JISC8801:2009に準拠					
								75kW超150kW以下	•	S-003703	91														
								150kW超	-	S-003704	-														
								75kW以下	-	S-003705	-	-	発電効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム選則	JISC8801:2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム選則	JISC8801:2009に準拠					
								75kW超150kW以下	•	S-003706	42														
								150kW超	-	S-003707	-														
						50Hz 燃料ガスの種類：バイオガス	発電出力	75kW以下	-	S-003708	-	-	総合効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム選則	JISC8801:2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム選則	JISC8801:2009に準拠					

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標												
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件							
												単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明				
						75kW超150kW以下	• S-003709	-	84															
						150kW超	- S-003710	-	-															
						75kW以下	- S-003711	-	-			発電効率	標準規格 による評 価	JISC8801:20 09	りん酸形燃 料電池発電 システム通 則	JISC8801: 2009に準拠	JISC8801:20 09	りん酸形燃 料電池発電 システム通 則	JISC8801:2009に準拠					
						75kW超150kW以下	• S-003712	•	40															
						150kW超	- S-003713	-	-															
					60Hz 燃料ガスの種類：純 水素	発電出力	75kW以下	- S-003714	-	-			総合効率	標準規格 による評 価	JISC8801:20 09	りん酸形燃 料電池発電 システム通 則	JISC8801: 2009に準拠	JISC8801:20 09	りん酸形燃 料電池発電 システム通 則	JISC8801:2009に準拠				
						75kW超150kW以下	• S-003715	•	93															
						150kW超	- S-003716	-	-															
						75kW以下	- S-003717	-	-			発電効率	標準規格 による評 価	JISC8801:20 09	りん酸形燃 料電池発電 システム通 則	JISC8801: 2009に準拠	JISC8801:20 09	りん酸形燃 料電池発電 システム通 則	JISC8801:2009に準拠					
						75kW超150kW以下	• S-003718	•	48															
						150kW超	- S-003719	-	-															
					60Hz 燃料ガスの種類：都 市ガス	発電出力	75kW以下	- S-003721	-	-			総合効率	標準規格 による評 価	JISC8801:20 09	りん酸形燃 料電池発電 システム通 則	JISC8801: 2009に準拠	JISC8801:20 09	りん酸形燃 料電池発電 システム通 則	JISC8801:2009に準拠				
						75kW超150kW以下	• S-003723	•	91															
						150kW超	- S-003724	-	-															
						75kW以下	- S-004476	-	-			発電効率	標準規格 による評 価	JISC8801:20 09	りん酸形燃 料電池発電 システム通 則	JISC8801: 2009に準拠	JISC8801:20 09	りん酸形燃 料電池発電 システム通 則	JISC8801:2009に準拠					
						75kW超150kW以下	• S-003726	•	42															

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象 L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標													
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			- S-004477	-	測定単位		評価方法の タイプ	準拠する規格	規格の名称	計算方法		試験条件				
													単 位	名 称				計算式	準拠する規格	規格の名称	説明			
						60Hz、燃料ガスの種類：バイオガス	発電出力	75kW以下 75kW超150kW以下 150kW超	- • -	S-003729 S-003730 S-003732	- 84 -	-	総合効率	標準規格 による評 価	JISC8801:20 09	りん酸形密 料電池発電 システム通 則	JISC8801：2009に準拠	JISC8801:20 09	りん酸形密 料電池発電 システム通 則	JISC8801:2009に準拠				
								75kW以下 75kW超150kW以下 150kW超	- • -	S-003733 S-003734 S-003736	- 40 -	-	発電効率	標準規格 による評 価	JISC8801:20 09	りん酸形密 料電池発電 システム通 則	JISC8801：2009に準拠	JISC8801:20 09	りん酸形密 料電池発電 システム通 則	JISC8801:2009に準拠				
L-000695	産業・業 務（業種 共通）	冷凍冷蔵 機器	冷凍冷蔵 機器	業務用冷凍冷蔵 庫	レストランの厨房やスーパーマーケットのバックヤード等に使用 される冷凍冷蔵庫を指す。家庭用と比較し、急速な冷却機能と高 い断熱性能が求められる。	冷蔵庫：横型	容量	250L以下 250L超350L以下 350L超450L以下 450L超	- - - -	S-003738 S-003740 S-003742 S-003743	280 320 400 470	-	年間消費電 力量	標準規格 による評 価	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫－特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫－特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠				
						冷蔵庫：縦型	容積	700L以下 700L超1200L以下 1200L超	- - -	S-003744 S-003746 S-003747	340 420 600	-	年間消費電 力量	標準規格 による評 価	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫－特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫－特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠				
						冷凍庫：横型	容量	250L以下 250L超350L以下	- -	S-003749 S-003751	810 1010	-	年間消費電 力量	標準規格 による評 価	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫－特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫－特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠				

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件						
												単 位	名 称		準拠する規格	規程の名称	計算式	準拠する規格	規程の名称	説 明			
						350L超	-	S-003753	1130														
						冷凍庫：縦型	容量	700L以下	-	S-003756	1030	-	年間消費電 力量	標準規格 による評 価	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠			
						700L超900L以下	-	S-003758	1550														
						900L超1200L以下	-	S-003760	2020														
						1200L超1500L以下	-	S-003762	2440														
						1500L超	-	S-003764	3130														
						冷凍冷蔵庫：縦型(冷凍室1 室)	容量	250L以下	-	S-003766	1070	-	年間消費電 力量	標準規格 による評 価	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠			
						250L超350L以下	-	S-003768	1190														
						350L超	-	S-003770	1270														
						冷凍冷蔵庫：縦型(冷凍室1 室)	容積	1200L以下	-	S-003772	1080	-	年間消費電 力量	標準規格 による評 価	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:20 09に準拠	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠			
						1200L超	-	S-003774	1430									JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠			
						冷凍冷蔵庫：縦型(冷凍室2 室)	容量	900L以下	-	S-003776	1490	-	年間消費電 力量	標準規格 による評 価	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:20 09	業務用の電 気冷蔵庫及 び電気冷凍 庫—特性及 び試験方法	JISB8630:2009に準拠			
						900L超1200L以下	-	S-003781	1660														

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				L2-Tech 水準 情報№	測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件				
													単 位	名 称		計算式	基準する規模	規模の名称	基準する規模	規模の名称	試験条件 説明		
						1200L超	-	S-003783	1810														
L-000696	産業・業 務(業種 共通)	動力他	冷凍冷蔵 機器	空気冷媒方式冷 凍機	空気の断熱膨張における温度低下により、マイナス50～100℃の空 気を冷やす冷凍機。	庫内温度	(有効容積)	1300m3規模	-	S-003785	0.42	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費エネルギー[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、庫内温度を 次のとおり設定することを条件とする。なお、附 属する機器動力も加味した定格消費エネルギーを 用いる。庫内温度：-60℃				
							庫内温度	(有効容積)	2600m3規模	-	S-003787	0.4	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費エネルギー[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、庫内温度を 次のとおり設定することを条件とする。なお、附 属する機器動力も加味した定格消費エネルギーを 用いる。庫内温度：-60℃			
L-000697	産業・業 務(業種 共通)	動力他	冷凍冷蔵 機器	冷凍冷蔵倉庫用 自然冷媒冷凍機 (アンモニア /CO2二次冷媒 システム)	アンモニアを一次冷媒、二酸化炭素を二次冷媒(マイナス5～マイ ナス40℃程度)とし、それを庫内に循環させる冷凍機。	庫内温度	-20℃超10℃以下、 CO2温度：-17℃超-5℃ 以下、冷却水入り口温度： 32℃	冷凍能力	100kW以下	-	S-003789	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費エネルギー[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、凝縮温度、 CO2温度をそれぞれ以下のとおり設定するこ とを条件とする。CO2温度：-17℃超-5℃以下、冷却 水入り口温度：32℃			
									100kW超 200kW以下	-	S-003790	-											
									200kW超	-	S-003793	3.41											
									庫内温度：-20℃超10℃以下、 CO2温度：-17℃超-5℃ 以下、冷却水入り口温度： 30℃	冷凍能力	50kW以下	-	S-003795	2.7	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費エネルギー[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、CO2温度、 冷却水入り口温度をそれぞれ以下のとおり設定す ることを条件とする。CO2温度：-17℃超-5℃以下、 冷却水入り口温度：30℃	
									50kW超	-	S-003797	-											
									庫内温度：-20℃超10℃以下、 CO2温度：-17℃超-5℃ 以下、吸込空気温度：32℃	冷凍能力	50kW以下	-	S-003799	1.8	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費エネルギー[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、CO2温度、 吸込空気温度をそれぞれ以下のとおり設定するこ とを条件とする。CO2温度：-17℃超-5℃以下、 吸込空気温度：32℃	
				50kW超	-	S-003801	-																
				庫内温度-40℃超-20℃以下	冷凍能力	50kW以下	-	S-003803	2.04	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費エネルギー[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、CO2温度、 冷却水入り口温度をそれぞれ次のとおり設定す ることを条件とする。CO2温度：-37℃超-27℃以下、 冷却水入り口温度：32℃						
				50kW超 150kW以下	-	S-003806	2.32																
				150kW超 250kW以下	-	S-003808	2.32																
				250kW超	-	S-003809	2.31																

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件							
														単位	名称	標準する規格	規格の名称	計算式	標準する規格	規格の名称	説明		
L-000624	産業・業 務(業種 共通)	動力他	冷凍冷蔵 機器	自然冷媒冷凍冷 蔵コンデンシン グユニット	フロン冷媒により駆動する、従来のコンデンシングユニットに対して、CO2等の自然冷媒により駆動するコンデンシングユニット	中温用(吸込み圧力飽和温度 -10℃)、吸込ガス過熱度 10K、周囲温度32℃	冷凍能力	16.0kW以下	● S-003812	2.02	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JRA4019: 2014	コンデンシ ングユニッ ト	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	JRA4019: 2014	コンデンシ ングユニッ ト	JRA4019: 2014に準拠				
						16.0kW超24.0kW以下	-	S-003814	-														
						24.0kW超36.0kW以下	○	S-003816	1.84														
						36.0kW超	-	S-003818	-														
					低温用(吸込み圧力飽和温度 -40℃)、吸込ガス過熱 度10K、周囲温度32℃	冷凍能力	8.0kW以下	● S-003820	1.01	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JRA4019: 2014	コンデンシ ングユニッ ト	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	JRA4019: 2014	コンデンシ ングユニッ ト	JRA4019: 2014に準拠					
							8.0kW超12.0kW以下	○	S-003822	0.95													
							12.0kW超18.0kW以下	-	S-003824	-													
							18.0kW超	-	S-003825	-													
					中温用(吸込み圧力飽和温度 -10℃、吸込ガス温度 18℃、空冷式の凝縮器、凝 縮器に流入空気温度32℃、 周囲温度32℃	冷凍能力	8.0kW以下	○ S-004479	2.1	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JRA 4019:2014	コンデンシ ングユニッ ト	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	JRA4019: 2014	コンデンシ ングユニッ ト	JRA4019: 2014に準拠					
							8.0kW超16.0kW以下	○	S-004480	1.77													
							16.0kW超24.0kW以下	○	S-004481	1.68													
							24.0kW超36.0kW以下	○	S-004482	1.77													
					低温用(吸込み圧力飽和温 度-40℃)、吸込ガス温度 18℃、空冷式の凝縮器、凝 縮器に流入空気温度32℃、 周囲温度32℃	冷凍能力	4.0kW以下	○ S-004484	0.94	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JRA 4019:2014	コンデンシ ングユニッ ト	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	JRA4019: 2014	コンデンシ ングユニッ ト	JRA4019: 2014に準拠					
							4.0kW超8.0kW以下	○	S-004485	0.91													
							8.0kW超12.0kW以下	○	S-004486	0.85													
							12.0kW超18.0kW以下	○	S-004487	0.91													
						冷凍能力	18.0kW超	-	S-004488	-													

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	標準		計算方法		試験条件			
														単位	名称	標準する規格	規格の名称	標準する規格	規格の名称	標準する規格	規格の名称
					中温用(吸込み圧力飽和温度-10℃)、吸込ガス温度18℃、水冷式の凝縮器、凝縮器の冷却水温度32℃、開閉温度32℃	冷凍能力	16.0kW以下	-	S-004490	-	-	成績係数(COP)	標準規格による評価	JRA4019:2014	コンデンシングユニット	COP=ΦP、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力[W]	JRA4019:2014	コンデンシングユニット	JRA4019:2014に準拠		
							16.0kW超24.0kW以下	-	S-004491	-	-			JRA4019:2014	コンデンシングユニット	COP=ΦP、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力[W]	JRA4019:2014	コンデンシングユニット	JRA4019:2014に準拠		
							24.0kW超36.0kW以下	○	S-004492	2	-			JRA4019:2014	コンデンシングユニット		JRA4019:2014	コンデンシングユニット	JRA4019:2014に準拠		
							36.0kW超	-	S-004493	-	-										
					低温用(吸込み圧力飽和温度-40℃)、吸込ガス温度18℃、水冷式の凝縮器、凝縮器の冷却水温度32℃、開閉温度32℃	冷凍能力	8.0kW以下	-	S-004494	-	-	成績係数(COP)	標準規格による評価	JRA4019:2014	コンデンシングユニット	COP=ΦP、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力[W]	JRA4019:2014	コンデンシングユニット	JRA4019:2014に準拠		
							8.0kW超12.0kW以下	-	S-004495	-	-										
							12.0kW超18.0kW以下	○	S-004496	0.94	-										
							18.0kW超	-	S-004497	-	-										
L-000698	産業・業務(業種共通)	照明	照明器具	LED照明器具	発光ダイオード(LED)を光源に使用した照明器具。ただし、電気用品安全法の下でのPSEマークが付与されている製品に限る。				S-003826	133.9	-	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠		
									S-003827	134.5	-	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠		
									S-003828	131.9	-	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠		
									S-003829	140.1	-	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠		
									S-003830	162.4	-	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠		

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	準拠する規格	計算方法		試験条件						
															単位	名称	準拠する規格	規格の名称	計算式	規格の名称	説明		
L-000699	産業・業 務(業種 共通)	動力他	プリンタ/ 複写機	プリンタ	プリンタの印字方式の主流は、インクジェット方式と電子写真方式であるが、オフィスで主に利用されているものは印刷速度の違い、電子写真方式である。電子写真方式の印刷工程は、帯電、露光、現像、転写、定着、消磁の6工程であり、複写機と同様である。露光部分にLED(発光ダイオード)を用いたLEDプリンタもある。	カラー印刷機能無	-	-	-	S-003852	-	-	概念的1週間(稼働とスリープ/オフが繰り返される5日間+スリープ/オフ状態の2日間)の消費電力量(TEC消費電力量)	標準規格による評価	-	国際エネルギーギースタープログラム	国際エネルギーギースタープログラムで定める計算式	-	国際エネルギーギースタープログラム	国際エネルギーギースタープログラムで定める試験条件			
						カラー印刷機能有	-	-	-	S-003853	-	-	概念的1週間(稼働とスリープ/オフが繰り返される5日間+スリープ/オフ状態の2日間)の消費電力量(TEC消費電力量)	標準規格による評価	-	国際エネルギーギースタープログラム	国際エネルギーギースタープログラムで定める計算式	-	国際エネルギーギースタープログラム	国際エネルギーギースタープログラムで定める試験条件			
L-000700	産業・業 務(業種 共通)	動力他	プリンタ/ 複写機	複合機	複写機能、プリンタ機能、スキャナ機能、ファクシミリ機能のうち2つ以上の機能を有する機器である。	カラー複写機能無	-	-	-	S-003854	-	-	概念的1週間(稼働とスリープ/オフが繰り返される5日間+スリープ/オフ状態の2日間)の消費電力量(TEC消費電力量)	標準規格による評価	-	国際エネルギーギースタープログラム	国際エネルギーギースタープログラムで定める計算式	-	国際エネルギーギースタープログラム	国際エネルギーギースタープログラムで定める試験条件			
						カラー複写機能有	-	-	-	S-003855	-	-	概念的1週間(稼働とスリープ/オフが繰り返される5日間+スリープ/オフ状態の2日間)の消費電力量(TEC消費電力量)	標準規格による評価	-	国際エネルギーギースタープログラム	国際エネルギーギースタープログラムで定める計算式	-	国際エネルギーギースタープログラム	国際エネルギーギースタープログラムで定める試験条件			
L-000701	産業・業 務(業種 共通)	動力他	モータ	誘導モータ	回転子、固定子ともに金属を使用し、固定子に交流電流を流して回転磁界を生じさせるとともに、回転子にも誘導電流が流れて磁界が生ずることにより、回転力を得るモータ。産業機械・工作機械等に幅広く用いられる。鉄芯、巻線、冷却ファン等の改善により損失を低減し高効率化が図られている。	50Hz、200V、極数2	容量	0.75kW以下	○	S-003856	85	-	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JIS C 4034-2:2011またはJIS C 4213:2014	回転電気機械-新2-1部-単一速度三相かご形誘導電動機の損失及び効率の算定方法は低圧三相かご形誘導電動機-低圧トッピングランナーモータ	JIS C 4034-2:2011またはJIS C 4213:2014に準拠	JIS C 4034-2:2011またはJIS C 4213:2014	回転電気機械-新2-1部-単一速度三相かご形誘導電動機の損失及び効率の算定方法は低圧三相かご形誘導電動機-低圧トッピングランナーモータ	JIS C 4034-2:2011またはJIS C 4213:2014に準拠。ただし、負荷を100%とする。			
						0.75kW超1.1kW以下	○	S-003857	85.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
						1.1kW超1.5kW以下	●	S-003858	89.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
						1.5kW超2.2kW以下	●	S-003859	89.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
						2.2kW超3.0kW以下	-	S-003861	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
						3.0kW超3.7kW以下	●	S-003863	89.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.7kW超4.0kW以下	-	S-003865	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	参照する規程		規程の名称		計算方法		試験条件	
												単位	名称		基準	名称	計算式	基準	名称	説明		
						4.0kW超5.5kW以下	•	S-003866	91.2													
						5.5kW超7.5kW以下	•	S-003868	91.5													
						7.5kW超11.0kW以下	•	S-003870	91.9													
						11.0kW超15.0kW以下	•	S-003871	92.2													
						15.0kW超18.5kW以下	•	S-003873	93.1													
						18.5kW超22.0kW以下	•	S-003875	93.8													
						22.0kW超30.0kW以下	•	S-003877	94													
						30.0kW超37.0kW以下	•	S-003879	94.3													
						37.0kW超	•	S-003880	96.2													
					50Hz、200V、種数4	容量		S-003882	84.8		エネルギー 消費効率	標準規格 による評 価	JIS C 4034- 2-1.2011また はJIS C 4213:2014	回転電気機 械-第2- 1部: 単一 速度三相か ご形誘導電 動機の損失 及び効率の 算定方法ま たは低圧三 相かご形誘 導電動機- 低圧トッ プランナー モータ	JIS C 4034-2-1.2011またはJIS C 4213:2014に準拠	JIS C 4034- 2-1.2011また はJIS C 4213:2014	回転電気機 械-第2- 1部: 単一 速度三相か ご形誘導電 動機の損失 及び効率の 算定方法ま たは低圧三 相かご形誘 導電動機- 低圧トッ プランナー モータ	JIS C 4034-2-1.2011またはJIS C 4213:2014に準拠。ただし、負荷を100%とする。				
						0.75kW以下	•	S-004474	-													
						0.75kW超1.1kW以下	-	S-004474	-													
						1.1kW超1.5kW以下	•	S-003886	86.9													
						1.5kW超2.2kW以下	•	S-003887	88.6													
						2.2kW超3.0kW以下	-	S-003889	-													
						3.0kW超3.7kW以下	•	S-003891	89.4													
						3.7kW超4.0kW以下	-	S-003893	-													

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力 (名称)	クラス 能力 (単位)				測定単位		評価方法の タイプ	参照する規程		規程の名称		計算方法		試験条件	
												単 位	名 称		参照する規程	規程の名称	計算式	参照する規程	規程の名称	試験条件	説 明	
						4.0kW超5.5kW以下	• S-003894		91.9													
						5.5kW超7.5kW以下	• S-003896		91.7													
						7.5kW超11.0kW以下	• S-003898		92.5													
						11.0kW超15.0kW以下	• S-003900		93.1													
						15.0kW超18.5kW以下	• S-003902		94.1													
						18.5kW超22.0kW以下	• S-003904		93.9													
						22.0kW超30.0kW以下	• S-003906		94.5													
						30.0kW超37.0kW以下	• S-003907		95.1													
						37.0kW超	• S-003910		96													
					50Hz、200V、種数6	容量	0.75kW以下	• S-003912	83.8		エネルギー消費効率	標準規格による評価	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014	回転電気機械-第2-1部: 単一速度三相かご形誘導電動機の損失及び効率の算定方法または低圧三相かご形誘導電動機-低圧トップランナーモータ	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014	回転電気機械-第2-1部: 単一速度三相かご形誘導電動機の損失及び効率の算定方法または低圧三相かご形誘導電動機-低圧トップランナーモータ	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠。ただし、負荷を100%とする。				
						0.75kW超1.1kW以下	- S-003914	-														
						1.1kW超1.5kW以下	• S-003915	87.2														
						1.5kW超2.2kW以下	• S-003917	89.3														
						2.2kW超3.0kW以下	- S-003918	-														
						3.0kW超3.7kW以下	• S-003920	89.3														
						3.7kW超4.0kW以下	- S-003922	-														

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標							
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件		
												単位	名称		参照する規程	規程の名称	計算式	参照する規程	規程の名称
						4.0kW超5.5kW以下	•	S-003925	91.1										
						5.5kW超7.5kW以下	•	S-003926	91.1										
						7.5kW超11.0kW以下	•	S-003929	91.7										
						11.0kW超15.0kW以下	•	S-003931	92.5										
						15.0kW超18.5kW以下	•	S-003932	92.7										
						18.5kW超22.0kW以下	•	S-003934	93.2										
						22.0kW超30.0kW以下	•	S-003936	94.2										
						30.0kW超37.0kW以下	•	S-003938	93.9										
						37.0kW超	○	S-003940	94.7										
					60Hz、220V、種数2	容量		S-003942	86.2	-	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014	回転電気機械-第2-1部-単一速度三相かご形誘導電動機の損失及び効率の算定方法または低圧三相かご形誘導電動機-低圧トッبرانナーモータ	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014	回転電気機械-第2-1部-単一速度三相かご形誘導電動機の損失及び効率の算定方法または低圧三相かご形誘導電動機-低圧トッبرانナーモータ	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠。ただし、負荷を100%とする。	
						0.75kW以下	○	S-003943	86.3										
						0.75kW超1.1kW以下	•	S-003945	90.2										
						1.1kW超1.5kW以下	•	S-003946	90.8										
						1.5kW超2.2kW以下	-	S-003948	-										
						2.2kW超3.0kW以下	•	S-003950	90.9										
						3.0kW超3.7kW以下	-	S-003952	-										
						3.7kW超4.0kW以下	-		-										

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	指 標													
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			L2-Tech 水準	測定単位		評価方法の タイプ	試験する規値		規値の名称	計算方法		試験条件				
												単 位	名 称		基準値	規格の名称		計算式	基準値	規格の名称	試 験 条 件	説 明		
											91.5													
											92.4													
											92.4													
											93.1													
											93.7													
											94													
											94.1													
											94													
											94.8													
					60Hz、220V、種数4	容量		0.75kW以下	・ S-003970	87.3	エネルギー 消費効率	標準規格 による評 価	JIS C 4034- 2-1:2011また はJIS C 4213:2014	回転電気機 械—第2— 1部—第一 速度三相か ご形誘導電 動機の損失 及び効率の 算定方法ま たは低圧三 相かご形誘 導電動機— 低圧トップ ランナー モータ	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠	JIS C 4034- 2-1:2011また はJIS C 4213:2014	回転電気機 械—第2— 1部—第一 速度三相か ご形誘導電 動機の損失 及び効率の 算定方法ま たは低圧三 相かご形誘 導電動機— 低圧トップ ランナー モータ	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠。ただし、負荷を100%とする。						
								0.75kW超1.1kW以下	- S-003973	-														
								1.1kW超1.5kW以下	・ S-003975	89.1														
								1.5kW超2.2kW以下	・ S-003977	90.2														
								2.2kW超3.0kW以下	- S-003979	-														
								3.0kW超3.7kW以下	・ S-003980	90.7														
								3.7kW超4.0kW以下	- S-003982	-														

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標							
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力 (名称)	クラス 能力 (単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件		
												単 位	名 称		準拠する規程	規程の名称	計算式	準拠する規程	規程の名称
						4.0kW超5.5kW以下	•	S-003984	92.8										
						5.5kW超7.5kW以下	•	S-003985	92.9										
						7.5kW超11.0kW以下	•	S-003986	93.3										
						11.0kW超15.0kW以下	•	S-003987	93.6										
						15.0kW超18.5kW以下	•	S-003989	94.7										
						18.5kW超22.0kW以下	•	S-003990	94.7										
						22.0kW超30.0kW以下	•	S-003993	94.9										
						30.0kW超37.0kW以下	•	S-003994	95.7										
						37.0kW超	•	S-003996	96.3							JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠	回転電気機械-第2-1部：単一速度三相かご形誘導電動機の損失及び効率の算定方法または低圧三相かご形誘導電動機-低圧トッランナーモータ	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠。ただし、負荷を100%とする。	
					60Hz、220V、極数6	容量	0.75kW以下	•	S-003998	85.3	-	エネルギー消費効率	標準規程による評価	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014	回転電気機械-第2-1部：単一速度三相かご形誘導電動機の損失及び効率の算定方法または低圧三相かご形誘導電動機-低圧トッランナーモータ	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014	回転電気機械-第2-1部：単一速度三相かご形誘導電動機の損失及び効率の算定方法または低圧三相かご形誘導電動機-低圧トッランナーモータ	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠。ただし、負荷を100%とする。
						0.75kW超1.1kW以下	-	S-003999	-										
						1.1kW超1.5kW以下	-	S-004000	-										
						1.5kW超2.2kW以下	•	S-004001	90.4										
						2.2kW超3.0kW以下	-	S-004002	-										

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件				
												単 位	名 称		準拠する規程	規程の名称	計算式	準拠する規程	規程の名称	説 明	
									• S-004003	90.6											
									- S-004004	-											
									• S-004005	92.2											
									• S-004006	92.4											
									• S-004007	93.2											
									• S-004008	93.4											
									• S-004009	93.7											
									• S-004010	94.3											
									• S-004011	94.8											
									• S-004012	94.9											
									○ S-004013	95.3											
L-000702	産業・業 務（業種 共通）	動力他	モータ	永久磁石同期 モータ	回転子に永久磁石を使用した同期モータのうち、サーボモータを 含まないもの。鉄道車両・自動車・産業機械等、幅広く用いられ る。	容量	0.75kW以下	• S-004014	92.3	エネルギー 消費効率	標準規格 による評 価	JISC4034-2- 1:2011	回転電気機 械 第一巻之 1 部 第一 速度三相か ご形誘導電 動機の損失 及び効率の 算定方法	JISC4034-2-1:2011に準拠	JISC4034-2- 1:2011	回転電気機 械 第一巻之 1 部 第一 速度三相か ご形誘導電 動機の損失 及び効率の 算定方法	JISC4034-2-1:2011に準拠				
							0.75kW超1.5kW以下	• S-004016	90.4												
							1.5kW超2.2kW以下	• S-004017	92.5												
							2.2kW超3.7kW以下	• S-004018	93.5												
							3.7kW超5.5kW以下	• S-004021	94.3												

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指 標												
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件							
												単 位	名 称		参照する規格	規格の名称	参照する規格	規格の名称	注 明					
							5.5kW超7.5kW以下	• S-004022		94.8														
							7.5kW超11kW以下	• S-004023		94.3														
							11kW超15kW以下	• S-004024		95														
							15kW超18.5kW以下	• S-004027		94.9														
							18.5kW超22kW以下	• S-004028		96.2														
							22kW超30kW以下	• S-004030		96.3														
							30kW超37kW以下	• S-004032		95.6														
							37kW超45kW以下	• S-004033		95.9														
							45kW超55kW以下	• S-004031		96.1														
							55kW超75kW以下	• S-004029		97.4														
							75kW超90kW以下	○ S-004026		96.2														
							90kW超110kW以下	○ S-004025		96.6														
							110kW超132kW以下	○ S-004020		97														
							132kW超160kW以下	○ S-004019		97.2														
							160kW超	- S-004015		-														
L-000719	産業・業 務（業種 共通）	動力他	変圧器	油入変圧器	電磁誘導を利用し、用途に応じて交流電圧を昇降させる装置。低損失磁性体材料を使用する低損失構造とする等、損失を低減する工夫がなされている。クラフト紙・プレスボード等の絶縁物と絶縁油にて構成されている。	油入変圧器、三相、50Hz	定格容量	20kVA以下	• S-003897	125	-	全損失	標準規格 による評 価	JISC4304:20 13	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠	JISC4304:20 13	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠					
								20kVA超30kVA以下	• S-003899	138														

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件					
												単位	名称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説明			
						30kVA超50kVA以下	• S-003901	197															
						50kVA超75kVA以下	• S-003903	230															
						75kVA超100kVA以下	• S-003905	276															
						100kVA超150kVA以下	• S-003908	370															
						150kVA超200kVA以下	• S-003909	444															
						200kVA超300kVA以下	• S-003911	584															
						300kVA超500kVA以下	• S-003913	892															
						500kVA超750kVA以下	• S-003916	1520															
						750kVA超1000kVA以下	• S-003919	1965															
						1000kVA超1500kVA以下	• S-003921	2750															
						1500kVA超2000kVA以下	• S-003923	3700															
					油入変圧器、三相、60Hz	定格容量	20kVA以下	• S-003924	120		全損失	標準規格 による評 価	JISC4304:20 13	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠		JISC4304:20 13	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠				
						20kVA超30kVA以下	• S-003927	133															
						30kVA超50kVA以下	• S-003928	192															
						50kVA超75kVA以下	• S-003930	220															
						75kVA超100kVA以下	• S-003933	268															
						100kVA超150kVA以下	• S-003935	366															
						150kVA超200kVA以下	• S-003937	440															

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)			L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件	
													単位	名称		参照する規程	規程の名称	計算式	参照する規程
						200kVA以下	300kVA以下	• S-003939	549										
						300kVA超500kVA以下		• S-003941	820										
						500kVA超750kVA以下		• S-003944	1450										
						750kVA超1000kVA以下		• S-003947	1890										
						1000kVA超1500kVA以下		• S-003949	2600										
						1500kVA超2000kVA以下		• S-003951	3365										
					油入変圧器、単相、50Hz	定格容量	10kVA以下	10kVA超20kVA以下	○ S-003953	57		全損失	標準規格 による評価	JISC4304:2013	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠	JISC4304:2013	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠
							20kVA超30kVA以下	○ S-003955	76										
							30kVA超50kVA以下	○ S-003957	102										
							50kVA超75kVA以下	• S-003959	147										
							75kVA超100kVA以下	• S-003961	162										
							100kVA超150kVA以下	• S-003964	210										
							150kVA超200kVA以下	• S-003966	291										
							200kVA超300kVA以下	• S-003969	360										
							300kVA超500kVA以下	• S-003971	470										
								• S-003972	780										

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件			
												単位	名称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	試験条件	説明
						油入変圧器、単相、60Hz	定格容量	10kVA以下	•	S-003974	51	-	全損失	標準規格 による評 価	JISC4304:20 13	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠	JISC4304:20 13	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠	
								10kVA超20kVA以下	•	S-003976	68										
								20kVA超30kVA以下	•	S-003978	95										
								30kVA超50kVA以下	•	S-003981	145										
								50kVA超75kVA以下	•	S-003983	165										
								75kVA超100kVA以下	•	S-003988	207										
								100kVA超150kVA以下	•	S-003991	286										
								150kVA超200kVA以下	•	S-003992	354										
								200kVA超300kVA以下	•	S-003995	466										
								300kVA超500kVA以下	•	S-003997	775										
L-000720	産業・業 務(業種 共通)	動力他	変圧器	モールド変圧器	電磁誘導を利用し、用途に応じて交流電圧を昇降させる装置。低 損失磁性体材料を使用する低損失構造とする等、損失を低減する 工夫がなされている。耐熱絶縁電線のコイルを構成し、エポキシ 樹脂でモールドされている。	モールド変圧器、三相、 50Hz	定格容量	20kVA以下	○	S-004035	167	-	全損失	標準規格 による評 価	JISC4306:20 13	配電用 6 kV モールド変 圧器	JISC4306:2013に準拠	JISC4306:20 13	配電用 6 kV モールド変 圧器	JISC4306:2013に準拠	
								20kVA超30kVA以下	○	S-004036	201										
								30kVA超50kVA以下	○	S-004037	311										
								50kVA超75kVA以下	○	S-004039	244										
								75kVA超100kVA以下	•	S-004041	309										
								100kVA超150kVA以下	•	S-004043	411										

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標												
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件							
												単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明				
						150kVA超200kVA以下	○	S-004045	460															
						200kVA超300kVA以下	●	S-004047	581															
						300kVA超500kVA以下	●	S-004049	899															
						500kVA超750kVA以下	●	S-004050	1675															
						750kVA超1000kVA以下	●	S-004053	2094															
						1000kVA超1500kVA以下	●	S-004055	3300															
						1500kVA超2000kVA以下	●	S-004057	4088															
					モールド変圧器、三相、 60Hz	定格容量	20kVA以下	○	S-004058	157	-	全損失	標準規格 による評 価	JISC4306:20 13	配電用 6 kV モールド変 圧器	JISC4306:2013に準拠	JISC4306:20 13	配電用 6 kV モールド変 圧器	JISC4306:2013に準拠					
						20kVA超30kVA以下	○	S-004060	191															
						30kVA超50kVA以下	○	S-004062	301															
						50kVA超75kVA以下	●	S-004064	244															
						75kVA超100kVA以下	●	S-004065	293															
						100kVA超150kVA以下	●	S-004066	401															
						150kVA超200kVA以下	●	S-004067	460															
						200kVA超300kVA以下	●	S-004070	592															
						300kVA超500kVA以下	●	S-004071	852															

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件					
												単 位	名 称		参照する規格	規格の名称	計算式	参照する規格	規格の名称	説 明		
						500kVA超750kVA以下	●	S-004073	1715													
						750kVA超1000kVA以下	●	S-004075	2028													
						1000kVA超1500kVA以下	●	S-004076	3200													
						1500kVA超2000kVA以下	●	S-004078	4125													
					モールド変圧器、単相、50Hz	定格容量	10kVA以下	○	S-004080	78		-	全損失	標準規格による評価	JISC4306:2013	配電用 6 kV モールド変圧器	JISC4306:2013に準拠	JISC4306:2013	配電用 6 kV モールド変圧器	JISC4306:2013に準拠		
						10kVA超20kVA以下	○	S-004081	115													
						20kVA超30kVA以下	○	S-004083	160													
						30kVA超50kVA以下	●	S-004085	155													
						50kVA超75kVA以下	●	S-004086	181													
						75kVA超100kVA以下	●	S-004088	223													
						100kVA超150kVA以下	●	S-004090	289													
						150kVA超200kVA以下	●	S-004091	369													
						200kVA超300kVA以下	●	S-004093	496													
						300kVA超500kVA以下	●	S-004095	774													
					モールド変圧器、単相、60Hz	定格容量	10kVA以下	○	S-004097	73		-	全損失	標準規格による評価	JISC4306:2013	配電用 6 kV モールド変圧器	JISC4306:2013に準拠	JISC4306:2013	配電用 6 kV モールド変圧器	JISC4306:2013に準拠		
						10kVA超20kVA以下	○	S-004099	110													

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件							
														単位	名称	基準する規程	規程の名称	計算式	基準する規程	規程の名称	説明		
						20kVA超30kVA以下	○	S-004101	150														
						30kVA超50kVA以下	●	S-004103	149														
						50kVA超75kVA以下	●	S-004105	183														
						75kVA超100kVA以下	●	S-004106	228														
						100kVA超150kVA以下	●	S-004108	285														
						150kVA超200kVA以下	●	S-004110	368														
						200kVA超300kVA以下	●	S-004111	491														
						300kVA超500kVA以下	●	S-004113	785														
L-000716	産業・業 務（業種 共通）	動力他	モータ利 用機器 （圧縮 機）	蒸気駆動圧縮機	従来の電動コンプレッサと異なり、動力源として電動モータではなく、スチームモータを搭載する。スチームモータは、蒸気を減圧する際に発生するエネルギーを駆動源とする圧縮機。従来の電動コンプレッサ（圧縮機）と比較し、減圧エネルギーを有効利用できるためCO2削減に優れる。ボイラ設備（ボイラ、軟水装置、給水タンク）の蒸気配管減圧弁に並列して設置し、本商品を減圧弁の代替として利用する。	容量、消費蒸気量		37kW、79kg/h	●	S-004115	6.95 *	-	消費蒸気原 単位	標準条件 による評 価	-	-	E=B/(A-C)、E：消費蒸気原単位 [-]、A：消費 蒸気量 [kW]、B：吐出空気量 [m3/min]、C： 回収熱量 [kW]	JISB8341- 2008	容積形圧縮 機	JISB8341-2008に準拠。ただし、回収熱量につい ては温水入口温度と温水出口温度を次のとおり設 定することを条件とする。温水入口温度：15℃、 温水出口温度：50℃以上、また、消費蒸気量は メーカー指示値（性能表等）を参照する。			
						55kW、106kg/h	●	S-004116	1.93 *														
						75kW、178kg/h	●	S-004117	2.18 *														
						高圧蒸気仕様		75kW、247kg/h	●	S-004118	0.6 *	-	消費蒸気原 単位	標準条件 による評 価	-	-	E=B/(A-C)、E：消費蒸気原単位 [-]、A：消費 蒸気量 [kW]、B：吐出空気量 [m3/min]、C： 回収熱量 [kW]	JISB8341- 2008	容積形圧縮 機	JISB8341-2008に準拠。ただし、回収熱量につい ては温水入口温度と温水出口温度を次のとおり設 定することを条件とする。温水入口温度：15℃、 温水出口温度：50℃以上、また、消費蒸気量は メーカー指示値（性能表等）を参照する。			
L-000717	産業・業 務（業種 共通）	動力他	モータ利 用機器 （圧縮 機）	熱回収式ねじ容 積形圧縮機	従来は、廃棄されていた圧縮熱を温水として供給可能なねじ容積形圧縮機。コンプレッサの廃熱を温水として回収するために軟水装置から新水を通過させ、70℃の温水をボイラ給水へ戻すことでボイラの燃料消費量が低減可能。また、直接温水利用することも可能。	容量、熱回収量		37kW、25kW	●	S-004034	0.41 *	-	エネルギー 原単位	標準条件 による評 価	JISB8341- 2008	容積形圧縮 機	E=B/(A-C)、E：エネルギー原単位 [-]、A：軸 動力 [kW]、B：吐出空気量 [m3/min]、C：回 収熱量 [kW]	JISB8341- 2008	容積形圧縮 機	JISB8341-2008に準拠。ただし、回収熱量につい ては温水入口温度と温水出口温度を次のとおり設 定することを条件とする。温水入口温度：15℃、 温水出口温度：50℃以上			
						75kW、60kW	●	S-004038	0.88 *														

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ		計算方法		試験条件		説明	
												単位	名称	準拠する規格	規格の名称	準拠する規格	規格の名称	準拠する規格	規格の名称		
L-000737	産業・業務 (業種 共通)	断熱	窓	Low-E複層ガラス	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	新築用	-	-	-	o	S-004040	2.5	-	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:1998及びJISR3209:1998	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠	JISR3107:1998及びJISR3209:1998	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠。ただし、L2-Tech水準は、LE3+A6+FL3のガラス構成における数値を示す。
L-000738	産業・業務 (業種 共通)	断熱	窓	三層Low-E複層ガラス	三層で構成される複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	新築用	-	-	-	o	S-004042	0.8	-	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:1998及びJISR3209:1998	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠	JISR3107:1998及びJISR3209:1998	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠。ただし、L2-Tech水準は、LE3+Ar11+FL3+Ar11+LE3のガラス構成における数値を示す。
L-000739	産業・業務 (業種 共通)	断熱	窓	真空Low-E複層ガラス	真空ガラスとLow-Eガラスを組み合わせた複層ガラスにすることで、放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	新築用	-	-	-	o	S-004044	0.74	-	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:1998及びJISR3209:1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱貫流率の算定方法及び複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)に準拠	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)に準拠	JISR3107:1998及びJISR3209:1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱貫流率の算定方法及び複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)に準拠	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)に準拠	JISR3107:1998及びJISR3209:1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱貫流率の算定方法及び複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)に準拠。ただし、L2-Tech水準は、LE3+Ar9+FL3+VO.2+LE3のガラス構成における数値を示す。	
L-000740	産業・業務 (業種 共通)	断熱	窓	アタッチメント付きLow-E複層ガラス	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。アタッチメントにより、ガラス部分のみを既存サッシに取り付けられるため、大がかりな工事が必要としない。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	リフォーム用	-	-	-	o	S-004046	2.6	-	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:1998及びJISR3209:1998	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠	JISR3107:1998及びJISR3209:1998	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠。ただし、L2-Tech水準は、LE3+Ar4+FL3(アタッチメント付き)のガラス構成における数値を示す。
L-000771	産業・業務 (業種 共通)	断熱	窓	真空ガラス	2枚のガラスの間に真空層を設けることで、熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	リフォーム用	-	-	-	o	S-004048	1	-	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:1998及びJISR3209:1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱貫流率の算定方法及び複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)に準拠	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)に準拠	JISR3107:1998及びJISR3209:1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱貫流率の算定方法及び複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)に準拠	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)に準拠	JISR3107:1998及びJISR3209:1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱貫流率の算定方法及び複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)に準拠。ただし、L2-Tech水準は、LE3+VO.2+FL3のガラス構成における数値を示す。	
L-000772	産業・業務 (業種 共通)	断熱	窓	現増施工型後付けLow-E複層ガラス	既存の窓ガラスの上からLow-Eガラスを貼ることでLow-E複層ガラスとして放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	リフォーム用	-	-	-	o	S-004051	1.6	-	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:1998及びJISR3209:1998	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠	JISR3107:1998及びJISR3209:1998	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠。ただし、L2-Tech水準は、FL6+A12+LE5のガラス構成における数値を示す。
L-000743	産業・業務 (業種 共通)	断熱	窓	薄型Low-E複層ガラス	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。アタッチメントを使用せずにガラス部分のみを既存サッシに取り付けることができる。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	リフォーム用	-	-	-	o	S-004052	2.5	-	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:1998及びJISR3209:1998	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠	JISR3107:1998及びJISR3209:1998	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠。ただし、L2-Tech水準を示すガラス構成をLE3+Kr2.5+FL3とする。
L-000774	産業・業務 (業種 共通)	断熱	断熱材	断熱材(押出法ポリスチレンフォーム)	スチレン樹脂・発泡剤・難燃剤等を押出機中で混和・溶融し、大気中に連続的に押し出して発泡させ、成型後、板状製品に切断加工することで製造する。	-	-	-	-	●	S-004054	0.022	-	熱伝導率	標準規格による評価	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014	発泡プラスチック保温材または建築用断熱材	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014に準拠	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014	発泡プラスチック保温材または建築用断熱材	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014に準拠

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標													
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ		計算方法		試験条件		説明						
													単位	名称	参照する規格	規格の名称	計算式	参照する規格		規格の名称	試験条件				
L-000775	産業・業務 (業種 共通)	断熱	断熱材	断熱材(グラスウール)	原材料を1400℃程度の高温で溶解、スピナーと呼ばれる繊維化装置に孔を開けることにより遠心力で繊維化し、結束剤を添加し綿状にすることで製造する。	天井用	-	-	-	S-004056	0.034	-	熱伝導率	標準規格による評価	JISA9521:2014	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014に準拠	-	-		
						壁用	-	-	-	S-004059	0.034	-	熱伝導率	標準規格による評価	JISA9521:2014	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014に準拠	-	-
L-000625	産業・業務 (業種 共通)	空調	断熱材	真空断熱材	家庭用冷蔵庫の断熱材として使用されている真空断熱材を使用した断熱材。住宅だけではなく非住宅のリフォーム(内貼断熱工法)にも向く。	-	-	-	S-004061	0.002	-	熱伝導率	標準規格による評価	JISA1412:2016	熱絶縁材の熱抵抗及び熱伝導率の測定方法	JISA1412:2016に準拠	JISA1412:2016	熱絶縁材の熱抵抗及び熱伝導率の測定方法	JISA1412:2016に準拠	JISA1412:2016に準拠	-	-			
L-000616	産業・業務 (業種 共通)	乾燥	乾燥装置	蒸気リサイクル濃縮乾燥装置	濃縮乾燥プロセスにおいて、被処理物から蒸発した蒸気は従来大気に捨てられていたが、この蒸気を圧縮機で昇昇圧し、被処理物の加熱源として再利用することにより、投入する化石燃料起因の蒸気量を大幅低減し、CO2排出量を削減に繋げる装置。	純水：沸点100℃(大気圧下)	蒸発能力	150L/h	○	S-004530	1.79	-	成績係数(COP)	実績値による評価	-	-	sysCOP=CstxM/(CstxS _η +CexE) Cst: 水蒸気の100℃における全熱エンタルピーと25℃における顕熱エンタルピーの差(=2571kJ/kg) M: 被処理物から蒸発させた蒸気量[kg] S: ポイラー蒸気量[kg] η: 熱損失(蒸気熱量/燃料熱量) Cex: 換算係数 3.6MJ/kWh E: 電力消費量[kWh]	-	-	-	-	-	-	・本装置は水蒸気と電力を入力として被処理物を蒸留して濃縮・乾燥する装置であり、下記の試験で得たエネルギーのインプット(熱量換算)でアウトプット(蒸発蒸気の熱量)を除いて得た値(システムCOP)。 ・最終処分場性能指標に基づき、模擬浸出水の濃縮、乾燥を1m3/日以上、60日以上行った際のデータに基づいて評価。 ・電源の周波数は50Hzとする。 ・ポイラーはA重油炊きとする。	
						750L/h	○	S-004531	1.79	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
L-000776	産業・業務 (業種 共通)	動力他	洗濯機	業務用ヒートポンプ式衣類洗濯乾燥機	洗濯機と乾燥機からなる。乾燥機部に排熱回収ヒートポンプシステムを搭載し、エバポレータにて衣類乾燥後の湿った空気から集めた熱エネルギーを圧縮機で高温にする。高温の空気をガスクーラで110℃前後の(または「最大115℃の」) 温風熱として放出することで空気を乾かす。従来のガス式と比較して、効率的に熱回収が可能な排熱回収ヒートポンプシステムを採用することで、効率よく乾燥できる。導入先として、福祉施設、病院、等、幅広い施設が挙げられる。	-	乾燥能力 (JIMS規格)	9kg以上	○	S-004063	9.4	-	消費電力量	標準条件による評価	JIS C 9606 及び JIS C 9608	電気洗濯機、回転ドラム式電気衣類乾燥機	JIS C 9606 及び JIS C 9608 に準拠。ただし、洗濯乾燥1回あたりの電力消費量は、試験(4回以上)によって得られた値の平均値とする。	JIS C 9606 及び JIS C 9608	電気洗濯機、回転ドラム式電気衣類乾燥機	JIS C 9606 及び JIS C 9608 に準拠。ただし、処理物、処理条件は以下の通りとする。<処理物> 被洗濯物: JIMS規格による標準洗濯乾燥容量の綿100%スタタール<処理条件> 定格電圧: 三相交流200V 被洗濯物あたり水量: 5.0L/kg以上 被洗濯物あたり洗濯時間: 洗濯、すすぎ、脱水工程で各0.5min/kg以下 被洗濯物あたり乾燥時間: 4.0min/kg以下 回転速度: 設定できる最速の設定(乾燥工程はメーカー推奨の回転速度) 乾燥度(洗濯乾燥後): 97%以上 試験回数: 4回以上	-	-			
L-000660	産業・業務 (業種 共通)	エネルギーマネジメント	エネルギーマネジメントシステム	BEMS(制御サービス、空調・熱源・中央方式)	オフィスビルにおけるエネルギー管理システム、及び同システムを用いたサービスのうち、セントラル空調を対象とした制御サービス。	空気熱源仕様	-	-	-	S-004068	別紙「水準1」の通り	-	エネルギー消費効率	具備機能による評価	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
						水熱源仕様	-	-	-	S-004069	別紙「水準2」の通り	-	エネルギー消費効率	具備機能による評価	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
L-000666	産業・業務 (業種 共通)	動力他	その他	サーバ用電子計算機	ネットワーク上でサービス等を提供する24時間稼働することを前提として設計された電子計算機であって、専らネットワークを介してアクセスされる。サーバ監視電子監視機に搭載されているCPUは専用CISC、RISC、IA64、IA32の4つに分類され、IA64、IA32といった汎用CPUはエネルギー消費効率が高い。	H※区分は省エネルギー法による	-	-	-	S-004072	-	-	エネルギー消費効率	標準規格による評価	省エネルギー法	省エネルギー法で定める計算式	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件	-	-		
						I※区分は省エネルギー法による	-	-	-	S-004074	0.13	-	エネルギー消費効率	標準規格による評価	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件	-	-
						J※区分は省エネルギー法による	-	-	-	S-004077	0.21	-	エネルギー消費効率	標準規格による評価	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件	-	-
						K※区分は省エネルギー法による	-	-	-	S-004079	-	-	エネルギー消費効率	標準規格による評価	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件	-	-
						L※区分は省エネルギー法による	-	-	-	S-004082	0.265	-	エネルギー消費効率	標準規格による評価	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件
L-000704	産業(業種固有)	建設	オフロード特殊自動車(建設機械・内燃機関型)	油圧ショベル(内燃機関型)	建設現場で使用される重機の一つ。ショベルカーとも呼ばれており、アームの先端に取り付けられたバケットによって掘削等の作業を行う機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。低燃費型エンジンの導入や、情報化施工による効率的な作業の実施により低炭素化を図ることで、CO2排出量の削減が可能となる。	標準バケット山積容量	0.25 m3以上 0.36 m3未満	-	S-004084	3.8	-	燃費	標準規格による評価	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010	土工機械-エネルギー消費量試験方法-油圧ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準拠	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010	土工機械-エネルギー消費量試験方法-油圧ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準拠	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準拠	-	-			
						0.36 m3以上 0.47 m3未満	-	S-004087	6.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標													
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				-	S-004089	6.6	測定単位		評価方法の タイプ	参照する規程		規程の名称		計算方法		試験条件	
															単位	名称		基準	名称	計算式	基準	名称	説明		
L-000705	産業(業 種固有)	建設	オフロード特殊自動車(建設機械・内燃機関型)	ブルドーザ(内燃機関型)	土砂の掘削、押土、盛土、整地作業等に用いられる機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。ディーゼルエンジンの性能向上や、アイドリングの自動停止機能等の装備の他、情報化施工にも対応しており、低炭素化が可能となっている。	定格出力	19kW以上75kW未満	-	S-004102	-	-	燃費	標準規格による評価	JCMASH021:2010	土工機械—燃料消費量試験方法	JCMASH021:2010に準拠	JCMASH021:2010	土工機械—燃料消費量試験方法	JCMASH021:2010に準拠						
							75kW以上170kW未満	-	S-004104	-	-														
							170kW以上300kW未満	-	S-004107	-	-														
L-000706	産業(業 種固有)	建設	オフロード特殊自動車(建設機械・内燃機関型)	ホイールローダ(内燃機関型)	建設現場で使用される重機の一つ。前方に設置されたバケットで土石をすくいあげ、トラックに積み込む機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。低燃費型のエンジンの導入や、情報化施工による効率的な作業の実施により低炭素化を図ることで、CO2排出量の削減が可能となる。	定格出力	40kW以上110kW未満、110kW以上230kW未満	-	S-004109	-	-	燃費	標準規格による評価	JCMASH022:2015またはJCMASH022:2010	土工機械—エネルギー消費量試験方法—ホイールローダまたは土工機械—燃料消費量試験方法—ホイールローダ	JCMASH022:2015またはJCMASH022:2010に準拠	JCMASH022:2010	土工機械—エネルギー消費量試験方法—ホイールローダ	JCMASH022:2015またはJCMASH022:2010に準拠						
							40kW以上110kW未満、110kW以上230kW未満	-	S-004112	24.2															
L-000708	産業(業 種固有)	建設	オフロード特殊自動車(建設機械・ハイブリッド型)	油圧ショベル(ハイブリッド型)	建設現場で使用される重機の一つ。ショベルカーとも呼ばれており、アームの先端に取り付けられたバケットによって掘削等の作業を行う機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。ハイブリッド型は、動力としてエンジンと電気モータを組み合わせた油圧ショベル、旋回減速時のエネルギーを回収して電気エネルギーとして蓄電し、加速時の補助エネルギーとして利用することで、エンジンで消費される軽油消費量を低減し、CO2排出量の削減が可能となる。	標準バケット山積容量	0.25m3以上0.36m3未満	-	S-004114	-	-	燃費	標準規格による評価	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010	土工機械—エネルギー消費量試験方法—油圧ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準拠	JCMASH020:2010	土工機械—エネルギー消費量試験方法—油圧ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準拠						
							0.70m3以上0.90m3未満	-	S-004119	-															
L-000711	産業(業 種固有)	建設	オフロード特殊自動車(建設機械・電気型)	油圧ショベル(電動型)	建設現場で使用される重機の一つ。ショベルカーとも呼ばれており、アームの先端に取り付けられたバケットによって掘削等の作業を行う機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。電動型は、動力として電気モータを使用する油圧ショベル。従来型の油圧ショベルで燃料として使用されていた軽油を電力で代替することにより、CO2排出量の削減が可能となる。	標準バケット山積容量	0.25m3以上0.36m3未満	-	S-004120	-	-	電力消費量	標準規格による評価	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010	土工機械—エネルギー消費量試験方法—油圧ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準拠	JCMASH020:2010	土工機械—エネルギー消費量試験方法—油圧ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準拠						
							0.70m3以上0.90m3未満	-	S-004122	50.8															

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標													
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件									
														単位	名称	標準する規程	規程の名称	標準する規程	規程の名称	標準する規程	規程の名称				
L-000712	産業(業 種固有)	建設	オフロード特殊自動車(建設機械・電気型)	ブルドーザ(電動型)	土砂の掘削、押土、盛土、整地作業等に用いられる機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。電動型は、ディーゼルエンジンによって発電機を駆動させ、電動モータにより稼働するブルドーザ。電力駆動を採り入れることで低燃費化を実現している。	-	定格出力	19kW以上75kW未満	-	S-004123	-	-	燃費	標準規格による評価	JCMASH021:2010	土工機械-燃料消費量試験方法	JCMASH021:2010に準拠	土工機械-燃料消費量試験方法	JCMASH021:2010に準拠	説明					
								75kW以上170kW未満	-	S-004124	-														
								170kW以上300kW未満	-	S-004127	-														
L-000890	産業(業 種固有)	食品製造業	洗浄乾燥機	遠心脱水型コンテナ(容器)洗浄乾燥機	洗浄水加熱用循環加熱ヒートポンプ、リンス水加熱用空気熱源ヒートポンプ、遠心脱水乾燥からなる。循環加熱ヒートポンプによって保温された洗浄槽で洗浄し、空気熱源ヒートポンプで加熱された湯でリンスをし、遠心脱水機で乾燥をする設備。熱源機でつくった熱風で乾燥する熱風方式と遠心脱水機で乾燥する遠心脱水方式がある。従来型と比較してヒートポンプの採用により効率的に洗浄ができ、遠心脱水機の採用により少ない水、消費エネルギーで乾燥ができる。食品・飲料工場や自動車工場等、幅広い用途へ導入が可能である。	-	処理速度	75~150サイクル/h	○	S-004129	0.049	-	コンテナ1台あたりの電力消費量	標準条件による評価	-	-	-	-	-	-	P=(A+B+C+D+E+F+G+H)/I、P:コンテナ1台あたりの電力消費量[kWh]、A:主給送コンベアの電力消費量[kWh]、B:搬入コンベアの電力消費量[kWh]、C:洗浄ポンプの電力消費量[kWh]、D:リンスポンプの電力消費量[kWh]、E:洗浄槽戻りの電力消費量[kWh]、F:遠心脱水機駆動[kWh]、G:排気ファン[kWh]、H:ヒートポンプの電力消費量[kWh]、I:コンテナ総数[台]	-	-	-	<処理物>コンテナ:「食品クレート標準共有ガイドライン」で規定されている食品クレート標準Ⅰ型、またはⅡ型採用<処理条件>高温水ヒートポンプ(空気熱源・循環式)(洗浄物)温水出口温度:65℃以上70℃以下、乾球温度:16℃、湿球温度:12℃、温水出入口温度差:5℃高温水ヒートポンプ(空気熱源・一過式)(リンス物):JRA4060:2014に準拠音水準(排水後):1%未満(ワーク質量に対する割合)汚れ度(洗浄前/洗浄後)APT値:3000RLU以上/1000RLU未満
L-000891	産業(業 種固有)	化学工業	蒸留塔	内部熱交換最適化蒸留システム	濃縮部(高圧塔)と回収部(低圧塔)が物理的に分かれており、その間に圧縮機が設置されている蒸留塔。濃縮部の圧力をわずかに上げることで内部温度を上昇させた後、熱を自然循環によって回収部に移動させ蒸留を行う。外部冷却により廃棄せざるを得なかった熱を自己再利用するため、リボイラーに供給する熱エネルギーを大幅に削減可能。	-	蒸留塔が高圧部(濃縮部)と低圧部(回収部)とで物理的に分離しており一体型でないもの	-	○	S-004133	別紙「水準4」の通り	-	エネルギー消費効率	具備機能による評価	-	-	-	-	-	-	-				
L-000892	産業(業 種固有)	繊維工業	乾燥機	熱回収式工業用繊維物乾燥機	ネットコンベア内の熱風ノズルにより熱風を吹付けけることによって、繊維物の染色・水洗後の乾燥・防縮・重合加工を行う設備。乾燥機内で繊維物を乾燥して発生した水蒸気は排気ファンにより排出され最適な状態に保たれる。熱風の熱源としては、ガス直接燃焼による加熱方式と、蒸気、または熱媒体油による熱交換器を用いた間接加熱方式がある。	1室3段	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW未満	●	S-004128	3.13	-	単位重量当たりの熱量	シミュレーションによる評価	-	-	-	-	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操業状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。<処理布>、素材:ポリエステル100%繊維物、幅幅:1540mmW、目付:200g/m2、<処理条件>処理温度:140℃、水分率(入口/出口):70~75%/2%以下				
								2000mmW以上2300mmW未満	●	S-004130	3.22	-									時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操業状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。<処理布>、素材:ポリエステル100%繊維物、幅幅:1540mmW、目付:200g/m2、<処理条件>処理温度:140℃、水分率(入口/出口):70~75%/2%以下				
								2300mmW以上2500mmW以下	●	S-004131	3.4	-									時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操業状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。<処理布>、素材:ポリエステル100%繊維物、幅幅:1540mmW、目付:200g/m2、<処理条件>処理温度:140℃、水分率(入口/出口):70~75%/2%以下				
						1室5段	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW未満	●	S-004125	3.06	-	単位重量当たりの熱量	シミュレーションによる評価	-	-	-	-	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操業状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。<処理布>、素材:ポリエステル100%繊維物、幅幅:1540mmW、目付:200g/m2、<処理条件>処理温度:140℃、水分率(入口/出口):70~75%/2%以下				
								2000mmW以上2300mmW未満	●	S-004126	3.15	-									時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操業状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。<処理布>、素材:ポリエステル100%繊維物、幅幅:1540mmW、目付:200g/m2、<処理条件>処理温度:140℃、水分率(入口/出口):70~75%/2%以下				
								2300mmW以上2500mmW以下	●	S-004121	3.33	-									時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操業状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。<処理布>、素材:ポリエステル100%繊維物、幅幅:1540mmW、目付:200g/m2、<処理条件>処理温度:140℃、水分率(入口/出口):70~75%/2%以下				

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス		認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)				クラス能力(単位)	測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件			
												単位	名称		単調する規程	規程の名称	単調する規程	規程の名称	説明	
L-000893	産業(業 種固有)	繊維工業	熱処理機	熱回収式工業用 繊維物熱処理機	繊維物の乾燥後に、繊維物の形態を整え、寸法を安定化するために熱固定を行う設備。熱固定を行う際には、熱風ノズルにより繊維物に熱風を吹付ける。繊維物を加熱することによって発生した熱処理機内のガスは排気ファンにより排出され最適状態に保たれる。熱風の熱源としては、ガス直接燃焼による加熱方式と、熱媒体油による熱交換器を用いた間接加熱方式がある。	2室3段	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW未満	• S-004134	2.85	-	単位重量当たりの熱量	シミュレーションによる評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \cdot m$ 、Q:処理布の単位重量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面含む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操業状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。<処理布>: 素材: ポリエステル100%繊維物、布幅: 1540mmW、目付: 200g/m2、<処理条件>: 処理温度: 140℃、水分率(入口/出口): 70~75%/2%以下			
								2000mmW以上2300mmW未満	• S-004135	2.91										
								2300mmW以上2500mmW以下	• S-004136	3.01										
						2室5段	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW未満	• S-004138	2.81	-	単位重量当たりの熱量	シミュレーションによる評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \cdot m$ 、Q:処理布の単位重量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面含む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操業状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。<処理布>: 素材: ポリエステル100%繊維物、布幅: 1540mmW、目付: 200g/m2、<処理条件>: 処理温度: 140℃、水分率(入口/出口): 70~75%/2%以下			
								2000mmW以上2300mmW未満	• S-004139	2.86										
								2300mmW以上2500mmW以下	• S-004140	2.94										
						3室2段	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW未満	• S-004141	2.81	-	単位重量当たりの熱量	シミュレーションによる評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \cdot m$ 、Q:処理布の単位重量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面含む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操業状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。<処理布>: 素材: ポリエステル100%繊維物、布幅: 1540mmW、目付: 200g/m2、<処理条件>: 処理温度: 140℃、水分率(入口/出口): 70~75%/2%以下			
								2000mmW以上2300mmW未満	• S-004143	2.86										
								2300mmW以上2500mmW以下	• S-004144	2.94										
						4室2段	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW未満	• S-004145	-	-	単位重量当たりの熱量	シミュレーションによる評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \cdot m$ 、Q:処理布の単位重量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面含む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操業状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。<処理布>: 素材: ポリエステル100%繊維物、布幅: 1540mmW、目付: 200g/m2、<処理条件>: 処理温度: 140℃、水分率(入口/出口): 70~75%/2%以下			
								2000mmW以上2300mmW未満	• S-004146	-	-									
								2300mmW以上2500mmW以下	• S-004147	-	-									
L-000893	産業(業 種固有)	繊維工業	熱処理機	熱回収式工業用 繊維物熱処理機	繊維物の乾燥後に、繊維物の形態を整え、寸法を安定化するために熱固定を行う設備。熱固定を行う際には、熱風ノズルにより繊維物に熱風を吹付ける。繊維物を加熱することによって発生した熱処理機内のガスは排気ファンにより排出され最適状態に保たれる。熱風の熱源としては、ガス直接燃焼による加熱方式と、熱媒体油による熱交換器を用いた間接加熱方式がある。	3室	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW未満	• S-004148	2.1	-	単位重量当たりの熱量	シミュレーションによる評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \cdot m$ 、Q:処理布の単位重量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面含む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操業状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。<処理布>: 素材: ポリエステル100%繊維物、布幅: 1540mmW、目付: 200g/m2、<処理条件>: 処理温度: 140℃、水分率(入口/出口): 70~75%/2%以下			

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス		認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)				クラス能力(単位)	測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件					
												単位	名称		参照する規程	規程の名称	計算式	参照する規程	規程の名称	説明		
						2000mmW以上2300mmW未満	• S-004149	2.12														
						2300mmW以上2500mmW以下	• S-004150	2.14														
						1800mmW以上2000mmW未満	• S-004151	2.05			単位重量当 たりの熱量	シミュ レーショ ンによる 評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \cdot m$ 、Q:処理布の単位重 量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面含 む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱 量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱 量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱 量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱 量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重 量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て						時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操 業状態において、処理布、処理条件を次のとおり 設定することを条件とする。<処理布>素材:ポ リエステル100%織物、布幅:1540mmW、目付: 200g/m2、<処理条件>処理温度:140℃、水分 率(入口/出口):70~75%/2%以下	
						2000mmW以上2300mmW未満	• S-004152	2.05														
						2300mmW以上2500mmW以下	• S-004475	2.08														
						1800mmW以上2000mmW未満	• S-004154	2.01			単位重量当 たりの熱量	シミュ レーショ ンによる 評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \cdot m$ 、Q:処理布の単位重 量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面含 む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱 量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱 量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱 量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱 量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重 量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て						時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操 業状態において、処理布、処理条件を次のとおり 設定することを条件とする。<処理布>素材:ポ リエステル100%織物、布幅:1540mmW、目付: 200g/m2、<処理条件>処理温度:140℃、水分 率(入口/出口):70~75%/2%以下	
						2000mmW以上2300mmW未満	• S-004156	2.01														
						2300mmW以上2500mmW以下	• S-004157	2.03														
						1800mmW以上2000mmW未満	• S-004158	1.98			単位重量当 たりの熱量	シミュ レーショ ンによる 評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \cdot m$ 、Q:処理布の単位重 量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面含 む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱 量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱 量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱 量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱 量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重 量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て						時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操 業状態において、処理布、処理条件を次のとおり 設定することを条件とする。<処理布>素材:ポ リエステル100%織物、布幅:1540mmW、目付: 200g/m2、<処理条件>処理温度:140℃、水分 率(入口/出口):70~75%/2%以下	
						2000mmW以上2300mmW未満	• S-004159	1.99														
						2300mmW以上2500mmW以下	• S-004160	2														
						1800mmW以上2000mmW未満	• S-004162	1.96			単位重量当 たりの熱量	シミュ レーショ ンによる 評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \cdot m$ 、Q:処理布の単位重 量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面含 む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱 量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱 量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱 量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱 量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重 量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て						時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操 業状態において、処理布、処理条件を次のとおり 設定することを条件とする。<処理布>素材:ポ リエステル100%織物、布幅:1540mmW、目付: 200g/m2、<処理条件>処理温度:140℃、水分 率(入口/出口):70~75%/2%以下	

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標													
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件									
														単 位	名 称	参照する規程	規程の名称	参照する規程	規程の名称	注 明					
						2000mmW以上2300mmW未満	• S-004163	1.96																	
						2300mmW以上2500mmW以下	• S-004164	1.98																	
					8室	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW未満	• S-004166	1.95	-	単位重量当たりの熱量	シミュレーションによる評価	-	-	Q=(qA+qB+qC+qD+qE)・m、Q:処理布の単位重量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温板 (床面含む) からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温熱量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱量 [MJ/h]、m:単位時間当たり処理した生地重量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操業状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。<処理布>素材:ポリエステル100%織物、布幅:1540mmW、目付:200g/m2、<処理条件>処理温度:140°C、水分率(入口/出口):70~75%/2%以下							
						2000mmW以上2300mmW未満	• S-004167	1.95																	
						2300mmW以上2500mmW以下	• S-004168	1.96																	
L-000894	運輸	自動車	自動車 (内燃機関型)	ガソリン・ディーゼル車 (乗用車)	(ガソリン車)ガソリンエンジンを搭載した自動車。国内における乗用車の大半がガソリン車である。(ディーゼル車)ディーゼルエンジンを搭載した自動車。	ガソリン車、軽自動車	-	軽自動車	-	S-004170	-	-	燃費	標準規格による評価	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠					
						ガソリン車、小型自動車	-	SUV	-	S-004171	-	-	燃費	標準規格による評価	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠					
						コンパクトカー	-	S-004172	-																
						セダン	-	S-004174	-																
						ミニバン	-	S-004175	-																
						ワゴン	-	S-004176	-																
						ガソリン車、普通自動車	-	SUV	-	S-004178	-	-	燃費	標準規格による評価	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠					
						スポーツカー	-	S-004179	-																
						セダン	-	S-004180	-																
						ミニバン	-	S-004181	-																

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標												
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件							
												単位	名称		参照する規程	規程の名称	参照する規程	規程の名称	説明					
										S-004182	-													
										S-004184	-	燃費	標準規格 による評 価	JISD1012:20 05に基づく JC08モード	自動車-燃料 消費率試験 方法に基づ くJC08モー ド	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠	JISD1012:20 05に基づく JC08モード	自動車-燃料 消費率試験 方法に基づ くJC08モー ド	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠					
										S-004186	-	燃費	標準規格 による評 価	JISD1012:20 05に基づく JC08モード	自動車-燃料 消費率試験 方法に基づ くJC08モー ド	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠	JISD1012:20 05に基づく JC08モード	自動車-燃料 消費率試験 方法に基づ くJC08モー ド	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠					
										S-004187	-													
										S-004188	-													
										S-004189	-													
L-000630	運輸	自動車	自動車 (内燃機 閉型)	ディーゼル・天 然ガス車(商用 車・重量車)	(ディーゼル車)ディーゼルエンジンを搭載した自動車。(天然ガス 車)現在、国内で使用されている天然ガス自動車の多くは、ディー ゼル車やガソリン車をベースとし、改造することによって天然ガ ス車として走行している。一方、メーカーにおいては圧縮天然ガ ス(CNG)エンジンの開発も進められている。	貨物自動車、トラクタ	-	区分1※区分は省エネ ギ一法による	-	S-004191	-	燃費	標準規格 による評 価	-	国土交通省 審査に準ず る(都市内 走行モード と都市間走 行モードそ れぞれによ る走行を車 種等によっ て異なる割 合で合算し た燃費値)	国土交通省 審査で定める計算式	-	国土交通省 審査に準ず る(都市内 走行モード と都市間走 行モードそ れぞれによ る走行を車 種等によっ て異なる割 合で合算し た燃費値)	国土交通省 審査で定める試験条件					
								区分2※区分は省エネ ギ一法による	-	S-004192	-													
						貨物自動車、トラクタ以外	-	区分1※区分は省エネ ギ一法による	-	S-004194	-	燃費	標準規格 による評 価	-	国土交通省 審査に準ず る(都市内 走行モード と都市間走 行モードそ れぞれによ る走行を車 種等によっ て異なる割 合で合算し た燃費値)	国土交通省 審査で定める計算式	-	国土交通省 審査に準ず る(都市内 走行モード と都市間走 行モードそ れぞれによ る走行を車 種等によっ て異なる割 合で合算し た燃費値)	国土交通省 審査で定める試験条件					
								区分2※区分は省エネ ギ一法による	-	S-004196	-													
								区分3※区分は省エネ ギ一法による	-	S-004197	-													
								区分4※区分は省エネ ギ一法による	-	S-004198	-													
								区分5※区分は省エネ ギ一法による	-	S-004199	-													
								区分6※区分は省エネ ギ一法による	-	S-004200	-													
								区分7※区分は省エネ ギ一法による	-	S-004201	-													
								区分8※区分は省エネ ギ一法による	-	S-004203	-													

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標										
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	基準とする規格		計算方法		基準とする規格		試験条件	
												単 位	名 称		単 位	名 称	計算式	単 位	名 称	説 明		
						区分9※区分は省エネルギー法による	-	S-004204	-													
						区分10※区分は省エネルギー法による	-	S-004205	-													
						区分11※区分は省エネルギー法による	-	S-004206	-													
					乗用自動車、一般バス	区分1※区分は省エネルギー法による	-	S-004207	-		燃費	標準規格 による評価	-	国土交通省 審査に準ず る(都市内 走行モード と都市間走 行モード)	国土交通省審査で定める計算式	-	国土交通省 審査に準ず る(都市内 走行モード と都市間走 行モード)	国土交通省審査で定める試験条件				
						区分2※区分は省エネルギー法による	-	S-004209	-													
						区分3※区分は省エネルギー法による	-	S-004210	-													
						区分4※区分は省エネルギー法による	-	S-004211	-													
						区分5※区分は省エネルギー法による	-	S-004212	-													
						区分6※区分は省エネルギー法による	-	S-004213	-													
						区分7※区分は省エネルギー法による	-	S-004215	-													
					乗用自動車、路線バス	区分1※区分は省エネルギー法による	-	S-004217	-		燃費	標準規格 による評価	-	国土交通省 審査に準ず る(都市内 走行モード と都市間走 行モード)	国土交通省審査で定める計算式	-	国土交通省 審査に準ず る(都市内 走行モード と都市間走 行モード)	国土交通省審査で定める試験条件				
						区分2※区分は省エネルギー法による	-	S-004218	-													
						区分3※区分は省エネルギー法による	-	S-004219	-													
						区分4※区分は省エネルギー法による	-	S-004220	-													
						区分5※区分は省エネルギー法による	-	S-004221	-													
L-000632	運輸	自動車	自動車 (ハイブリッド 型)	ハイブリッド自 動車(乗用車)	動力として内燃機関と電気モータを組み合わせた自動車。一時的 にエネルギーをバッテリーやキャパシタに貯蔵し、必要に応じ電 気モータを介して動力とする。効率的な低回転エンジン作動領域にハ イブリッド技術を使うことにより高効率運転が可能となる。	小型自動車	-		コンパクトカー	-	S-004223	-	燃費	標準規格 による評価	JISD1012:20 05に基づく JC08モード	自動車-燃料 消費率試験 方法に基づ くJC08モー ド	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠	JISD1012:20 05に基づく JC08モード	自動車-燃料 消費率試験 方法に基づ くJC08モー ド	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠		
						セダン	-	S-004224	-													
						ミニバン	-	S-004225	-													

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	標準する規程		規程の名称		試験条件		
														単位	名称	標準する規程	規程の名称	標準する規程	規程の名称	試験条件
						一般地仕様、標準世帯、保温あり、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	●	S-004246	4	-	年間給湯保温効率	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
						一般地仕様、標準世帯、保温あり、多缶	貯湯容量	320L以上550L未満	●	S-004248	3	-	年間給湯保温効率	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
						一般地仕様、標準世帯、保温なし、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	●	S-004250	3.3	-	年間給湯効率	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
						寒冷地仕様、標準世帯、保温あり、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	●	S-004252	3.3	-	寒冷地年間給湯保温効率	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
						寒冷地仕様、標準世帯、保温なし、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	●	S-004253	2.9	-	寒冷地年間給湯効率	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
L-000644	家庭	給湯	給湯器 (ヒートポンプ)	多機能ヒートポンプ給湯機	自然冷媒(CO2)を用い、電動ヒートポンプサイクルにより65℃以上の高温沸きあげ可能な高効率の給湯機器システム。ヒートポンプユニットと給湯(貯湯)ユニット、床暖房端末で構成されている。1台のヒートポンプによって給湯、および床暖房が可能であるため、高効率化が可能。	一般地仕様、標準世帯、保温あり、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	○	S-004254	3.9	-	年間給湯保温効率(床暖房部分除く)	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
						寒冷地仕様、標準世帯、保温あり、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	○	S-004256	3	-	寒冷地年間給湯保温効率(床暖房部分除く)	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
L-000645	家庭	給湯	給湯器 (ガス式)	ガス温水機器 (エコジョーズ)	ガスを燃料としたバーナによって加熱した高温の空気により配管内の水を温める機器。	給湯専用機	-	-	●	S-004260	95	-	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISS2109:2010R	家庭用ガス温水機器	JISS2109:2010Rに準拠	JISS2093:2010	家庭用ガス燃焼機器の試験方法	JISS2093:2010に準拠
						暖房給湯兼用機	-	-	●	S-004261	93	-	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISS2112:2011及びJISS2109:2010R	家庭用ガス温水熱源機及び家庭用ガス温水機器	JISS2112:2011及びJISS2109:2010Rに準拠	JISS2093:2010	家庭用ガス燃焼機器の試験方法	JISS2093:2010に準拠
						暖房専用機	-	-	●	S-004263	87	-	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISS2112:2011	家庭用ガス温水熱源機	JISS2112:2011に準拠	JISS2093:2010	家庭用ガス燃焼機器の試験方法	JISS2093:2010に準拠
						風呂給湯兼用機	-	-	●	S-004264	95.1	-	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISS2109:2010R	家庭用ガス温水機器	JISS2109:2010Rに準拠	JISS2093:2010	家庭用ガス燃焼機器の試験方法	JISS2093:2010に準拠
L-000646	家庭	給湯	コージェネレーション	家庭用燃料電池 (エネファーム・PEFC)	燃料電池は燃料から直接電気エネルギーを取り出すことができ、化石燃料を燃焼させる従来の発電システムに比べて、高い発電効率、優れた環境特性、排熱利用による高い総合効率、量産による低コスト化の可能性等の特長を持つ。発電の原理は、電解質を挟んだ二つの電極に酸素と水素を供給して電気と熱を発生させるというものである。PEFC(固体高分子形燃料電池)は、電解質に固体高分子を用い、動作温度は80~100℃、白金が触媒として使われており、都市ガス、LPG(液化石油ガス)を燃料としている。排熱効率が高く、SS(Daily Start and Stop)が容易である。ここでは、主に家庭用として用いられる製品を取り扱う(現行販売製品の電気の定格出力は1kW以下)。	-	-	-	●	S-004266	95	-	総合効率	標準規格による評価	JISC8823:2008	小形固体高分子形燃料電池システムの安全性及び性能試験方法	JISC8823:2008に準拠	JISC8823:2008	小形固体高分子形燃料電池システムの安全性及び性能試験方法	JISC8823:2008に準拠
						-	-	-	●	S-004268	39	-	発電効率	標準規格による評価	JISC8823:2008	小形固体高分子形燃料電池システムの安全性及び性能試験方法	JISC8823:2008に準拠	JISC8823:2008	小形固体高分子形燃料電池システムの安全性及び性能試験方法	JISC8823:2008に準拠

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標													
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算法			試験条件								
														単位	名称	参照する規格	規格の名称	計算法	参照する規格	規格の名称	試験条件	説明			
L-000647	家庭	給湯	コーゼン ネレー ション	家庭用燃料電池 (エネファーム・SOFC)	SOFC(固体酸化物形燃料電池)は、電解質にセラミックを用い、動作温度は700~750℃である。発電効率がよく24時間運転が多い。ここでは、主に家庭用として用いらるる製品を取り扱う(現行販売製品の電気の定格出力は1kW以下)。	-	-	-	総合効率	標準規格 による評 価	JISC8841- 3.2011	小形固体酸 化物形燃料 電池システム-第3 部:性能試 験方法及び 環境試験方 法	JISC8841-3.2011に準拠	JISC8841- 3.2011	小形固体酸 化物形燃料 電池システム-第3 部:性能試 験方法及び 環境試験方 法	JISC8841-3.2011に準拠									
						-	-	-	発電効率	標準規格 による評 価	JISC8841- 3.2011	小形固体酸 化物形燃料 電池システム-第3 部:性能試 験方法及び 環境試験方 法	JISC8841-3.2011に準拠	JISC8841- 3.2011	小形固体酸 化物形燃料 電池システム-第3 部:性能試 験方法及び 環境試験方 法	JISC8841-3.2011に準拠									
L-000648	家庭	厨房	冷凍冷蔵 機器	電気冷蔵庫	冷媒を用いて圧縮-凝縮-膨張-蒸発の冷凍サイクルを繰り返すことにより庫内を冷却する冷蔵庫。インバータ制御の高効率コンプレッサーと熱伝導が小さい真空断熱材を使用することにより消費電力量を削減することが可能である。(大型冷蔵庫の一部では既に採用されている)冷媒と断熱材にフロンを使用していない冷蔵庫のことを、ノンフロン冷蔵庫と呼び、現在出荷されている家庭用冷蔵庫のほとんどはノンフロン(冷媒) シクロペンタン(断熱材発泡剤)を使用したノンフロン冷蔵庫である。冷蔵庫の冷却方法には直冷式と間冷式があり、一般に直冷式のほうが効率がよい。しかし、日本は湿度が高く、冷却器表面に霜がついて冷却能力が落ちるため、間冷式が主流である。	定格内容積	140L以下	-	S-004271	115	-	年間消費電 力量	標準規格 による評 価	JISC9801- 3.2015	家庭用電気 冷蔵庫及び 電気冷凍庫 の特性及び 試験方法- 第3部:消 費電力量及 び内容積の 算出	JISC9801-3.2015に準拠	JISC9801- 3.2015	家庭用電気 冷蔵庫及び 電気冷凍庫 の特性及び 試験方法- 第3部:消 費電力量及 び内容積の 算出	JISC9801-3.2015に準拠						
							140L超200L以下	-	S-004272	284															
							200L超250L以下	-	S-004273	319															
							250L超300L以下	-	S-004274	350															
							300L超350L以下	-	S-004275	259															
							350L超400L以下	-	S-004276	360															
	400L超450L以下	-	S-004277	263																					

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス		認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)				クラス能力(単位)	測定単位		評価方法の タイプ	試験する規格		規格の名称		計算方法		試験条件	
												単位	名称		標準	規格	計算式	標準	規格	説明		
							450L超500L以下	-	S-004278	250												
							500L超	-	S-004279	269												
L-000649	家庭	照明	照明器具	LED照明器具 (家庭用)	蛍光灯や白熱灯と比較して高効率で長寿命な白色LED(発光ダイオード)を光源に使用した照明器具が普及している。LED照明は、主に直付け(シーリング)カバー付型、ダウンライト型、電球型があり、他にスポットライト型、ブラケット型などもある。LED素子が器具に取り付けられ、ランプ交換は無いものが大半である。光の広がり(ビームの開き)を広くしたものの、発光色を切り替えるもの等が登場している。一般的には、「温白色、電球色」よりも「昼光色、昼白色、白色」の方がエネルギー効率 (lm/W) は高くなる。	シーリングライト型	適用量数	~4.5畳	-	S-004282	-	-	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠		
							~6畳	○	S-004283	155.4												
							~8畳	●	S-004285	160.4												
							~10畳	○	S-004286	156												
							~12畳	●	S-004287	160.3												
							~14畳	●	S-004288	155.1												
							ダウンライト型、温白色、電球色、配光角30°以下	-	S-004290	-			-	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	
							ダウンライト型、温白色、電球色、配光角30°超60°以下	-	S-004292	93.3			-	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	
							ダウンライト型、温白色、電球色、配光角60°超	-	S-004294	100			-	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	
							ダウンライト型、昼光色、昼白色、白色、配光角30°以下	-	S-004295	85.5			-	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		準拠する規格	規格の名称	試験条件	説明		
														単位	名称					準拠する規格	規格の名称
										S-004297	106	-	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	
										S-004299	105	-	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	
										S-004300	125.1	-	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	
										S-004302	138.7	-									
										S-004303	133.4	-									
										S-004304	100	-									
										S-004305	137.4	-									
										S-004307	-	-									
										S-004308	93.4	-	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	
										S-004310	84.4	-	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	
L-000650	家庭	断熱	窓	Low-E複層ガラス(家庭用)	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことにより、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。					S-004312	2.5	-	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:1998及びJISR3209:1998	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠	JISR3107:1998及びJISR3209:1998	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠。ただし、L2-Tech水準は、LE3+A6+FL3のガラス構成における数値を示す。	
L-000651	家庭	断熱	窓	三層Low-E複層ガラス(家庭用)	三層で構成される複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことにより、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。					S-004313	0.8	-	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:1998及びJISR3209:1998	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠	JISR3107:1998及びJISR3209:1998	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:1998及びJISR3209:1998に準拠。ただし、L2-Tech水準は、LE3+Ar11+FL3+Ar11+LE3のガラス構成における数値を示す。	

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ		計算方法		試験条件		説 明		
												単 位	名 称	標準規格 による評 価	標準規格 による評 価	標準規格 による評 価	標準規格 による評 価	標準規格 による評 価	標準規格 による評 価			
L-000652	家庭	断熱	窓	真空Low-E複層 ガラス(家庭 用)	真空ガラスとLow-Eガラスを組み合わせた複層ガラスにすることで、放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。	新築用	-	-	o	S-004314	0.74	-	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISR3107- 1998及び JISR3209- 1998、た だし真空 ガラスに ついては、 複層ガ ラスの性 能の向上 に関する 熱損失防 止建築材 料製造事 業者等の 判断の基 準等(平成 26年11 月28日 経産省 告示第235 号)	複層ガラス の熱抵抗 及び複層 ガラスの 性能の向 上に関する 熱損失防 止建築材 料製造事 業者等の 判断の基 準等(平成 26年11 月28日 経産省 告示第235 号)	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経産省告示第235号)に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経産省告示第235号)	複層ガラスの熱抵抗及び複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経産省告示第235号)	複層ガラスの熱抵抗及び複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経産省告示第235号)	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経産省告示第235号)に準拠	ただし、L2-Tech水準は、LE3+A9+FL3+V0.2+LE3のガラス構成における数値を示す。
L-000653	家庭	断熱	窓	アタッチメント 付きLow-E複層 ガラス(家庭 用)	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。アタッチメントにより、ガラス部分のみを既存サッシに取り付けられるため、大がかりな工事が必要としない。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。	リフォーム用	-	-	o	S-004316	2.6	-	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISR3107-19 98及び JISR3209-19 98	複層ガラス の熱抵抗 及び複層 ガラスの 性能の向 上に関する 熱損失防 止建築材 料製造事 業者等の 判断の基 準等(平成 26年11 月28日 経産省 告示第235 号)	JISR3107-1998及びJISR3209-1998に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998	複層ガラスの熱抵抗及び複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経産省告示第235号)	複層ガラスの熱抵抗及び複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経産省告示第235号)	JISR3107-1998及びJISR3209-1998に準拠	ただし、L2-Tech水準は、LE3+A4+FL3(アタッチメント付き)のガラス構成における数値を示す。
L-000654	家庭	断熱	窓	真空ガラス(家 庭用)	2枚のガラスの間に真空層を設けることで、熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。	リフォーム用	-	-	o	S-004317	1	-	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISR3107-1998及び JISR3209-1998、 ただし真空 ガラスに ついては、 複層ガ ラスの性 能の向上 に関する 熱損失防 止建築材 料製造事 業者等の 判断の基 準等(平成 26年11 月28日 経産省 告示第235 号)	複層ガラス の熱抵抗 及び複層 ガラスの 性能の向 上に関する 熱損失防 止建築材 料製造事 業者等の 判断の基 準等(平成 26年11 月28日 経産省 告示第235 号)	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経産省告示第235号)に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経産省告示第235号)	複層ガラスの熱抵抗及び複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経産省告示第235号)	複層ガラスの熱抵抗及び複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経産省告示第235号)	JISR3107-1998及びJISR3209-1998、ただし真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経産省告示第235号)に準拠	ただし、L2-Tech水準は、LE3+V0.2+FL3のガラス構成における数値を示す。
L-000655	家庭	断熱	窓	現場施工型後 付けLow-E複層 ガラス(家庭 用)	既存の窓ガラスの上からLow-Eガラスを貼ることで放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	リフォーム用	-	-	o	S-004319	1.6	-	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISR3107-19 98及び JISR3209-19 98	複層ガラス の熱抵抗 及び複層 ガラスの 性能の向 上に関する 熱損失防 止建築材 料製造事 業者等の 判断の基 準等(平成 26年11 月28日 経産省 告示第235 号)	JISR3107-1998及びJISR3209-1998に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998	複層ガラスの熱抵抗及び複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経産省告示第235号)	複層ガラスの熱抵抗及び複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経産省告示第235号)	JISR3107-1998及びJISR3209-1998に準拠	ただし、L2-Tech水準は、FL6+A12+LE5のガラス構成における数値を示す。
L-000656	家庭	断熱	窓	薄型Low-E複層 ガラス(家庭 用)	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。アタッチメントを使用せずガラス部分のみを既存サッシに取り付けることができる。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。	リフォーム用	-	-	o	S-004323	2.5	-	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISR3107-19 98及び JISR3209-19 98	複層ガラス の熱抵抗 及び複層 ガラスの 性能の向 上に関する 熱損失防 止建築材 料製造事 業者等の 判断の基 準等(平成 26年11 月28日 経産省 告示第235 号)	JISR3107-1998及びJISR3209-1998に準拠	JISR3107-1998及びJISR3209-1998	複層ガラスの熱抵抗及び複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経産省告示第235号)	複層ガラスの熱抵抗及び複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経産省告示第235号)	JISR3107-1998及びJISR3209-1998に準拠	ただし、L2-Tech水準は、LE3+K12.5+FL3のガラス構成における数値を示す。
L-000657	家庭	空調	窓	Low-E複層ガ ラス・樹脂サ ッシ	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラスと、樹脂製のサッシを組み合わせた窓。	FIX	-	-	●	S-004324	1.3	-	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISA4710:20 15、 JISA2102- 1:2015及び JISA2102- 2:2011	建具の断熱 性能試験方 法、窓及び ドアの断熱 性能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの断 熱性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	建具の断熱性能試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	建具の断熱性能試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測 定 単 位	評 価 方 法 の 単 位 名 称	標準規格 による評 価	試験する規格	規格の名称	計 算 方 法		試験する規格	規格の名称	試験条件	注 明
																	単位	名称				
											1.46	-	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISA4710:20 15、 JISA2102- 1.2015及び JISA2102- 2.2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及びJISA2102- 2.2011に準拠	JISA4710:20 15、 JISA2102- 1.2015及び JISA2102- 2.2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及びJISA2102- 2.2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及びJISA2102- 2.2011に準拠	国立研究開発法人 建築研究所ホ ームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及 び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に 基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表 試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズ において認証を適用する。
											1.3	-	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISA4710:20 15、 JISA2102- 1.2015及び JISA2102- 2.2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及びJISA2102- 2.2011に準拠	JISA4710:20 15、 JISA2102- 1.2015及び JISA2102- 2.2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及びJISA2102- 2.2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及びJISA2102- 2.2011に準拠	国立研究開発法人 建築研究所ホ ームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及 び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に 基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表 試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズ において認証を適用する。
L-000658	家庭	空調	窓	Low-E複層ガラ ス・アルミ樹脂 複合サッシ	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティング することで放射による熱移動量を低減したガラスと、アルミ樹脂 複合サッシを組み合わせた窓。アルミ樹脂複合サッシは、アルミ 製（室外側）と樹脂製（室内側）のサッシを室内側の結露の発生 の軽減や断熱性の向上を目的に一体化したものである。	FIX					1.52	-	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISA4710:20 15、 JISA2102- 1.2015及び JISA2102- 2.2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及びJISA2102- 2.2011に準拠	JISA4710:20 15、 JISA2102- 1.2015及び JISA2102- 2.2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及びJISA2102- 2.2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及びJISA2102- 2.2011に準拠	国立研究開発法人 建築研究所ホ ームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及 び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に 基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表 試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズ において認証を適用する。
											1.7	-	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISA4710:20 15、 JISA2102- 1.2015及び JISA2102- 2.2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及びJISA2102- 2.2011に準拠	JISA4710:20 15、 JISA2102- 1.2015及び JISA2102- 2.2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及びJISA2102- 2.2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及びJISA2102- 2.2011に準拠	国立研究開発法人 建築研究所ホ ームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及 び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に 基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表 試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズ において認証を適用する。
											1.52	-	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISA4710:20 15、 JISA2102- 1.2015及び JISA2102- 2.2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及びJISA2102- 2.2011に準拠	JISA4710:20 15、 JISA2102- 1.2015及び JISA2102- 2.2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及びJISA2102- 2.2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及びJISA2102- 2.2011に準拠	国立研究開発法人 建築研究所ホ ームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及 び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に 基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表 試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズ において認証を適用する。
L-000659	家庭	空調	窓	三層Low-E複層 ガラス・樹脂 複合サッシ	三層で構成される複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属 膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラ スと、樹脂製のサッシを組み合わせた窓。	FIX					0.75	-	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISA4710:20 15、 JISA2102- 1.2015及び JISA2102- 2.2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及びJISA2102- 2.2011に準拠	JISA4710:20 15、 JISA2102- 1.2015及び JISA2102- 2.2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及びJISA2102- 2.2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及びJISA2102- 2.2011に準拠	国立研究開発法人 建築研究所ホ ームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及 び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に 基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表 試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズ において認証を適用する。

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準 情報№	L2-Tech 水準	指 標										
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測 定 単 位	評 価 方 法 の 種 類	標準規格 による評 価	標準する規格	規格の名称	計 算 方 法		標準する規格	規格の名称	試験条件	説 明
																	単 位	名 称				
										S-004333	1.06	-	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISA4710:2015、 JISA2102- 1.2015及び JISA2102- 2.2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及びJISA2102- 2.2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102- 1.2015及び JISA2102- 2.2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及びJISA2102- 2.2011に準拠	2.2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。	
										S-004335	0.79	-	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISA4710:2015、 JISA2102- 1.2015及び JISA2102- 2.2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及びJISA2102- 2.2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102- 1.2015及び JISA2102- 2.2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及びJISA2102- 2.2011に準拠	2.2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。	
L-000835	家庭	空調	窓	三層Low-E複層 ガラス・アルミ 樹脂複合サッシ	三層で構成される複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラスと、アルミ樹脂複合サッシを組み合わせた窓。アルミ樹脂複合サッシは、アルミ製（室外側）と樹脂製（室内側）のサッシを室内側の結露の発生を軽減や断熱性の向上を目的に一体化したものである。	FIX	-	-		S-004336	1.03	-	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISA4710:2015、 JISA2102- 1.2015及び JISA2102- 2.2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及びJISA2102- 2.2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102- 1.2015及び JISA2102- 2.2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及びJISA2102- 2.2011に準拠	2.2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。	
										S-004339	1.22	-	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISA4710:2015、 JISA2102- 1.2015及び JISA2102- 2.2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及びJISA2102- 2.2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102- 1.2015及び JISA2102- 2.2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及びJISA2102- 2.2011に準拠	2.2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。	
										S-004341	1.03	-	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISA4710:2015、 JISA2102- 1.2015及び JISA2102- 2.2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及びJISA2102- 2.2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102- 1.2015及び JISA2102- 2.2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及びJISA2102- 2.2011に準拠	2.2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。	
L-000836	家庭	空調	窓	五層Low-E複層 ガラス・樹脂 サッシ	樹脂（塩化ビニル等）等の熱伝導率が低いフレームと、多層の密閉中空層をもったガラスからなる。中空層には断熱ガス（アルゴンガス、クリプトンガス等）を充填することでガラスの熱伝導率の高さを補う構造。現在日本国内では、樹脂フレームを用いた開口部には断熱性能が低いものから順に、1枚のガラスを用いたもの、2枚のガラス（一つの密閉中空層）を用いたもの、3枚のガラス（二つの密閉中空層）を用いたもの、5枚のガラス（四つの密閉中空層）を用いたものが使用されており、2枚のガラスを用いたものが最も多く流通している。今後は省エネ基準義務化等が予定されていることから、さらなるガラスの多層化が予想される。従来品と比較して高い断熱性能を持つことから、特に寒冷地の戸建住宅への採用に相応しい。	FIX	-	-		S-004343	0.55	-	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISA4710:2015、 JISA2102- 1.2015及び JISA2102- 2.2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及びJISA2102- 2.2011に準拠	JISA4710:2015、 JISA2102- 1.2015及び JISA2102- 2.2011	建員の断熱 性試験方 法、窓及び ドアの熱性 能-熱貫流 率の計算- 第1部：一 般及び窓及 びドアの熱 性能-熱貫 流率の計算 -第2部： フレームの 数値計算方 法	JISA4710:2015、 JISA2102-1.2015及びJISA2102- 2.2011に準拠	2.2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。	

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標																										
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	標準する規格	規格の名称	計算方法		標準する規格	規格の名称	試験条件 説明																		
						単位	熱貫流率									標準式	計算式																					
							単位	名称													名称																	
L-000837	家庭	空調	窓	真空ガラス・樹 脂サッシ	2枚のガラスの間に真空層を設けることで、熱移動量を低減したガラスとアルミ樹脂複合サッシを組み合わせた窓。	FIX※右記の水準は、一般社団法人リビングアメニティ協会が提供する、窓の断熱性能プログラム「WindEye」を用いて算出	-	-	○	S-004348	1.09	-	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1.2015及びJISA2102-2.2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1.2015及びJISA2102-2.2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1.2015及びJISA2102-2.2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1.2015及びJISA2102-2.2011に準拠	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1.2015及びJISA2102-2.2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。																
L-000838	家庭	空調	窓	真空ガラス・アル ミ樹脂複合 サッシ	2枚のガラスの間に真空層を設けることで、熱移動量を低減したガラスとアルミ樹脂複合サッシを組み合わせた窓。アルミ樹脂複合サッシは、アルミ製（室外側）と樹脂製（室内側）のサッシを室内側の結露の発生や断熱性の向上を目的に一体化したものである。	FIX※右記の水準は、一般社団法人リビングアメニティ協会が提供する、窓の断熱性能プログラム「WindEye」を用いて算出	-	-	○	S-004353	1.32	-	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1.2015及びJISA2102-2.2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1.2015及びJISA2102-2.2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1.2015及びJISA2102-2.2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1.2015及びJISA2102-2.2011に準拠	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第1部：一般及び窓及びドアの断熱性能-熱貫流率の計算-第2部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1.2015及びJISA2102-2.2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。																

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法				試験条件			
														単位	名称	標準する規格	規格の名称	計算式	標準する規格	規格の名称	試験条件
L-000848	家庭	空調	空調機 (ヒート ポンプ)	ルームエアコン	冷媒による圧縮-凝縮-膨張-蒸発のヒートポンプサイクルを繰り返すことにより、室内を冷房あるいは暖房する空調設備。	-	冷房能力	2.2KW	•	S-004155	7.6	-	通年エネルギー消費効率 (APF)	標準規格 による評 価	JISC9612:20 05	ルームエア コンディ ショナ	JISC9612:2005に準拠	JISC9612:20 05	ルームエア コンディ ショナ	JISC9612:2005に準拠	
								2.5KW	•	S-004161	7.6										
								2.8KW	•	S-004165	7.5										
								3.6KW	•	S-004169	7.4										
								4.0KW	○	S-004173	7.9										
								4.5KW	○	S-004177	6.8										
								5.0KW	○	S-004183	6.2										
								5.6KW	○	S-004185	7.1										
								6.3KW	○	S-004190	6.9										
								7.1KW	○	S-004193	6.5										
L-000849	家庭	空調	空調機 (ヒート ポンプ)	ヒートポンプ冷 温水システム	空気熱源を利用するヒートポンプ式の冷温水冷暖房機。暖房時はコンプレッサで圧縮した気相冷媒を凝縮器で凝縮させることにより温熱を、冷房時は圧縮-凝縮-膨張後の液相冷媒を蒸発器で蒸発させることにより冷熱を得る。ヒートポンプ方式を採用しているため、冷温熱を高効率に得ることができる。従来は灯油を燃焼させ暖房するため、一般的なボイラーの効率が80%であるのに対し、ヒートポンプ方式を用いることで高い効率となる。導入先は主に家庭向けとなる。	-	加熱能力	4.0KW以下	-	S-004208	-	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温(入 水温度)、行き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球温 度を次のとおり設定することを条件とする。戻り 水温(入水温度): 25℃、行き水温(出湯温度): 40℃、乾球温度: 7℃、湿球温度: 6℃	
								4.0KW超6.0KW以下	-	S-004214	-										

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス				L2-Tech 水準 情報№	L2-Tech 水準	指標												
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)	認定 対象			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件						
												単位	名称		基準する規程	規程の名称	計算式	基準する規程	規程の名称	説明				
								6.0kW超7.0kW以下	-	S-004216	-													
								7kW超12kW以下	-	S-004222	-													
								12.0kW超	-	S-004227	-													
							往き水温(出湯温度)15℃	冷却能力	4.0kW以下	-	S-004233	-	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Q/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温(入 水温度)、往き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球温 度を以下のとおり設定することを条件とする。 往き水温(出湯温度):15℃ 乾球温度:35℃ 湿球 温度:24℃ 流量:6.4L/min			
								4.0kW超5.6kW以下	-	S-004235	-													
								5.6kW超7.2kW以下	-	S-004240	-													
								7.2kW超	-	S-004243	-													
							往き水温(出湯温度)7℃	冷却能力	4.0kW以下	•	S-004245	3	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Q/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消 費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温(入 水温度)、往き水温(出湯温度)、乾球温度を以下の とおり設定することを条件とする。戻り水温 (入水温度):12℃ 往き水温(出湯温度):7℃ 乾球温度:35℃			
								4.0kW超5.6kW以下	•	S-004247	2.84													
								5.6kW超7.2kW以下	•	S-004249	3													
								7.2kW超	-	S-004251	-													
L-000850	家庭	空調	空調機 (ヒート ポンプ)	ヒートポンプ式 温水床暖房	空気熱源ヒートポンプ式の温水暖房機。コンプレッサーで圧縮し た気相冷媒を冷媒/水熱交換器内で凝縮させることにより温熱を 得る。四方弁の切り替えにより冷熱を供給するタイプも存在す る。ヒートポンプ方式を採用しているため、温熱を高効率に得る ことができる。		加熱能力	5kW以下	•	S-004255	4.5 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Q/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温(入 水温度)、往き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球温 度を次のとおり設定することを条件とする。戻り 水温(入水温度):25℃、往き水温(出湯温度): 40℃、乾球温度:7℃、湿球温度:6℃				
								5kW超7kW以下	○	S-004257	4.32 *													
								7kW超10kW以下	•	S-004258	4.01 *													
								10kW超	•	S-004259	4.3 *													

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標										
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ		計算方法		試験条件		注 明		
												単 位	名 称	準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称				
L-000851	家庭	空調	空調機 (ヒート ポンプ)	ルームエアコン 付温水床暖房	空気熱源ヒートポンプに温水床暖房ユニットとルームエアコン ディンショナが付加された機器。暖房時は床暖房とエアコンの組み 合わせ運転を主に行う。負荷の大きな立ち上がり時はエアコン で急遽暖房を行い、床暖房の高温送水による効率の低下を抑制。 安定時には床暖房の送水温度を下げるのととも、エアコンも省エ ネ運転とするなどの制御により高効率化を図る。冷房時はエアコン の単独運転となる。	床暖房、エアコン同時運転	加熱能力	5.0KW	○	S-004262	4.5	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温(入 水温度)、行き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球温 度を次のとおり設定することを条件とする。戻り 水温(入水温度):30℃、行き水温(出湯温度): 35℃、乾球温度:7℃、湿球温度:6℃		
						床暖房単独運転	加熱能力	6.7KW	○	S-004265	4.32	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温(入 水温度)、行き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球温 度を以下のとおり設定することを条件とする。戻り 水温(入水温度):25℃、行き水温(出湯温度): 40℃、乾球温度:7℃、湿球温度:6℃
						床暖房単独運転	加熱能力	8.7KW	●	S-004267	4.01	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温(入 水温度)、行き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球温 度を以下のとおり設定することを条件とする。戻り 水温(入水温度):25℃、行き水温(出湯温度): 40℃、乾球温度:7℃、湿球温度:6℃		
L-000852	家庭	空調	空調機 (ヒート ポンプ)	マルチタイプ温 水床暖房	複数の部屋に設置された温水床暖房ユニットやルームエアコン ディンショナ等と空気熱源ヒートポンプを組み合わせて使用する機 器。1台の空気熱源ヒートポンプが複数の部屋の空調機器に接続で きるため、高効率化が可能。	1室運転時加熱能力	加熱能力	5.0KW	○	S-004280	3.9	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温(入 水温度)、行き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球温 度を次のとおり設定することを条件とする。戻り 水温(入水温度):25℃、行き水温(出湯温度): 40℃、乾球温度:7℃、湿球温度:6℃		
							加熱能力	7.0KW	○	S-004281	3.91	-	-	-	-	-	-	-	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温(入 水温度)、行き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球温 度を次のとおり設定することを条件とする。戻り 水温(入水温度):25℃、行き水温(出湯温度): 40℃、乾球温度:7℃、湿球温度:6℃	
L-000853	家庭	空調	空調機 (ヒート ポンプ・ 地中熱利 用)	地中熱ルームエ アコン	地中熱を利用し、冷媒による圧縮-凝縮-膨張-蒸発のヒートポンプ サイクルを繰り返し、室内を冷房あるいは暖房する空 気調和機。冬季は外気温度より高い温度の熱源を、夏季は外気温 度より低い温度の熱源を利用することで年間を通じて高効率な運 転が可能。	冷房能力	冷房能力	4.0KW	●	S-004427	4	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	JISC9612:2005に準拠	JISC9612:20 13	ルームエ アコン ディ ショナ	JISC9612:2005に準拠。ただし、地中戻り温度(探 熱温度)については20℃とする。		
L-000854	家庭	空調	空調機 (ヒート ポンプ・ 地中熱利 用)	地中熱ヒートポ ンプ冷温水シ ステム(ハイブ リッド式)	空気熱源と地中熱源の2種類の熱源の切り替えが可能でヒートポン プ式の冷温水冷暖房機。圧縮-凝縮-膨張-蒸発のヒートポンプサイ クルを利用して、冷暖房するシステム。暖房時はヒートポンプサイ クルを利用して、冷媒/水熱交換器内で凝縮させるこ とにより、冷熱を、冷房時は圧縮-凝縮-膨張後の液相冷媒を高発熱 で温相冷媒を冷媒/水熱交換器内で蒸発させることにより冷熱 を得る。ヒートポンプ方式を採用しているため、冷熱を高効率 に得ることができる。従来型は灯油を燃焼し暖房するため、一般 的なボイラーの効率が80%であるのに対し、ヒートポンプ方式を 用いることで高い効率となる。導入先は主に家庭向けとなる。	加熱能力	加熱能力	8.0KW	●	S-004429	4.3	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定 格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、地中戻り水 温(入水温度)、行き水温(出湯温度)、乾球温度、 湿球温度を次のとおり設定することを条件とす る。地中戻り温度(探熱温度):15℃、行き水温 (出湯温度):40℃、乾球温度:7℃、湿球温度: 6℃		
							加熱能力	11.0KW	●	S-004435	4.15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、地中戻り水 温(入水温度)、行き水温(出湯温度)、乾球温度、 湿球温度を次のとおり設定することを条件とす る。地中戻り温度(探熱温度):15℃、行き水温 (出湯温度):40℃、乾球温度:7℃、湿球温度: 6℃
L-000855	家庭	空調	空調機 (ベレッ トストー プ)	密閉式ベレッ トストーブ(家庭 用)	木質ベレットを燃料とする燃焼機器。木質ベレットを燃焼させた 熱を熱交換器により室内の空気に伝え、送風ファンにより部屋の 隅々まで温風を行き渡らせる。燃焼させた空気は煙突から排気さ せるため、室内の空気と交えることなく、清潔な環境を保つこと ができる。木質ベレットは、カーボンニュートラルであるため、 CO2の排出削減が可能。				●	S-004437	77	-	熱効率	標準条件 による評 価	JHIAN- 5601:2004	木質バイオ マス燃焼機 器の試験方 法通則	η=100-(qa+qb+qr)、η:熱効率[%]、qa:試 験燃料中の発熱量当たり排気ガス中の熱損失 (Qa)の比、熱による熱損失の割合(燃焼基 準) [%]、qb:試験燃料の貯留量当たり排気ガス 中の化学的熱損失(Qb)、の湿熱による熱損失 の割合(燃焼基準) [%]、qr:試験燃料の貯留量当 たり底部格子を通過し灰渣物中に残った可燃性構 成物質による熱損失(Qr)の残渣物中の可燃性構 成、物質による損失の割合(燃焼基準) [%]※発 熱量は高位発熱量とする	JHIAN- 5601:2004	木質バイオ マス燃焼機 器の試験方 法通則	JHIAN-5601:2004に準拠。、試験実施にあたって は、ISO17025に準拠した試験機関による性能評 価を行うこととする。		
L-000856	家庭	給湯	給湯器 (ヒート ポンプ・ 太陽熱利 用)	太陽熱集熱器対 応型エコキュ ート	自然冷媒(CO2)を用い、電動ヒートポンプサイクルにより65℃ 以上の高温沸きあげが可能で高効率の給湯システムに太陽熱集熱 器を組み合わせたシステム。ヒートポンプユニットと給湯(貯 湯)ユニット、集熱器で構成されている。日中は、太陽熱を利用 するため、高効率化が可能。	一般仕様、標準世帯、保 温あり、1台	貯湯容量	320L以上550L未満	○	S-004296	3	-	年間給湯保 温効率(太 陽熱部分除 く)	標準規格 による評 価	JRA4050:200 7R	家庭用ヒー トポンプ給 湯機	JRA4050:2007Rに準拠	JRA4050:200 7R	家庭用ヒー トポンプ給 湯機	JRA4050:2007Rに準拠		
							貯湯容量	320L以上550L未満	-	S-004298	-	-	-	JIS C 9220:2011	家庭用ヒー トポンプ給 湯機	JISC9220:2011に準拠	JIS C 9220:2011	家庭用ヒー トポンプ給 湯機	JISC9220:2011に準拠。ただし、以下のとおり設定 することを条件とする。・着霜期高温条件は、 外気温(乾球温度/湿球温度)20℃/1℃、水温 5℃、沸き上げ温度90℃とする。・冬期給湯保 温モード条件は、外気温(乾球温度/湿球温度) 7℃/6℃、水温9℃、沸き上げ温度68℃とする。 ・着霜期給湯保温モード条件は、外気温(乾球温 度/湿球温度)2℃/1℃、水温5℃、沸き上げ温 度68℃とする。・夜間消費電力量比率は、80% とする。			

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス		認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)				クラス能力(単位)	測定単位		評価方法の タイプ	試験する規格		試験方法		試験条件		
												単位	名称		標準する規格	規格の名称	標準する規格	規格の名称	試験条件	説明	
						一般地仕様、標準世帯、保 温あり、多岐	貯湯容量	320L以上550L未満	o	S-004301	3	-	-	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠		
								320L以上550L未満	-	S-004306	-			JIS C 9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JIS C 9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	ただし、以下のとおり設定することとする。 ・着霜給湯モード条件は、外気温(乾球温度/湿球温度) 2℃/1℃、水温5℃、沸き上げ温度90℃とする。 ・冬期給湯保温モード条件は、外気温(乾球温度/湿球温度) 7℃/6℃、水温9℃、沸き上げ温度68℃とする。 ・着霜給湯保温モード条件は、外気温(乾球温度/湿球温度) 2℃/1℃、水温5℃、沸き上げ温度68℃とする。 ・夜間消費電力量比率は、80%とする。	
L-000857	家庭	給湯	給湯器 (ヒートポンプ・ガス式)	ハイブリッド給湯機(家庭用)	ヒートポンプ給湯機とガス給湯器に貯湯タンクを組み合わせた家庭用給湯システム。ヒートポンプ給湯機が記録・学習した湯の使用状況に基づいて、ヒートポンプ給湯機を最も高効率となる沸き上げ温度で稼働させ、湯の使用状況に応じてガス給湯器がバックアップする。これによって過剰貯湯や放熱ロスを低減し、CO2排出削減を実現できる。風呂給湯兼用機、給湯暖房兼用機等がある。	給湯専用機(給湯：ヒートポンプ、ガス)	-	-	-	S-004441	-	-	年間給湯効率	標準規格による評価	JGKAS A705-2016	電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯機	JGKAS A705-2016に準拠	JGKAS A705-2016	電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯機	JGKAS A705-2016に準拠	
							給湯暖房兼用機(給湯、暖房：ヒートポンプ、ガス)	-	-	S-004444	-	-	年間給湯効率	標準規格による評価	JGKAS A705-2016	電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯機	JGKAS A705-2016に準拠	JGKAS A705-2016	電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯機	JGKAS A705-2016に準拠	
							給湯暖房兼用機(給湯：ヒートポンプ、ガス、暖房：ガス)	-	-	S-004446	141	-	年間給湯効率	標準規格による評価	JGKAS A705-2016	電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯機	JGKAS A705-2016に準拠	JGKAS A705-2016	電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯機	JGKAS A705-2016に準拠	
							風呂給湯兼用機(給湯：ヒートポンプ、ガス)	-	-	S-004448	141	-	年間給湯効率	標準規格による評価	JGKAS A705-2016	電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯機	JGKAS A705-2016に準拠	JGKAS A705-2016	電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯機	JGKAS A705-2016に準拠	
L-000858	家庭	給湯	給湯器(石油式)	石油温水機器(エコフィール)	石油温水機器は灯油を燃料としたバーナによって加熱した高温の空気により配管内の水を温める機器である。	給湯用のもの(風呂給湯含む)	-	-	●	S-004452	95	%	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISS3031:2009	石油燃焼機器の試験方法通則	JISS3031:2009に準拠	JISS3031:2009	石油燃焼機器の試験方法通則	JISS3031:2009に準拠	
						暖房用のもの	-	-	o	S-004455	93	%	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISS3031:2009	石油燃焼機器の試験方法通則	JISS3031:2009に準拠	JISS3031:2009	石油燃焼機器の試験方法通則	JISS3031:2009に準拠	
L-000860	家庭	給湯	給湯器(太陽熱利用)	真空管形集熱器(強制循環型太陽熱給湯器用)(家庭用)	太陽の光エネルギーを熱エネルギーに変え、水などの熱媒に伝える役割の装置。真空管形は集熱部が真空層を有する二重ガラスで構成され、真空層が空気対流による熱損失を防ぐことができる。外気温との温度差が大きい場合でも集めた熱が外へ逃げにくく、高い効率を維持できる。		-	-	●	S-004457	12694	kJ/m2・日	単位面積1日あたりの集熱量	標準規格による評価	JISA4112:2011	太陽集熱器	JISA4112:2011に準拠	JISA4112:2011	太陽集熱器	JISA4112:2011に準拠	
L-000861	家庭	給湯	給湯器(太陽熱利用)	平板形集熱器(強制循環型太陽熱給湯器用)(家庭用)	太陽の光エネルギーを熱エネルギーに変え、水などの熱媒に伝える役割の装置。平板形は集熱面が平板状になっており、表面は透明な強化ガラス板で覆われている。下部には熱が逃げないよう、断熱材が施されている。		-	-	o	S-004461	13954	kJ/m2・日	単位面積1日あたりの集熱量	標準規格による評価	JISA4112:2011	太陽集熱器	JISA4112:2011に準拠	JISA4112:2011	太陽集熱器	JISA4112:2011に準拠	

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件				
														単位	名称	標準規格 による評価	規格の名称	標準規格 による評価	規格の名称	説明
L-000862	家庭	給湯	給湯器 (太陽熱 利用)	蓄熱槽(強制循 環型太陽熱給湯 器用)(家庭 用)	蓄熱槽は、集熱器で集められた熱を熱交換してお湯を蓄える装 置。	-	-	-	●	S-004465	1.54	W/K	熱損失係数	標準規格 による評 価	JISA4113:20 13	太陽蓄熱槽	$KA = (V \times Cp \times p (\theta_s - \theta_e) + (T \times \Delta \theta) \Delta \theta = (\theta_s + \theta_e) \times 2) - (\theta_1 + \theta_2 + \dots + \theta_n) \times n)$ KA: 熱損失係数[W/K] V: 蓄熱槽容量[m ³] θ: 蓄熱媒体温度[°C] T: 試験開始から試験終了までの時間[s] Cp: 蓄熱媒体の定圧比熱[J/(kg・K)] p: 蓄熱媒体の密度[kg/m ³] θn: 周囲温度[°C] n: 1時間ごとに測定した周囲温度の測定回数	JISA4113:20 13	太陽蓄熱槽	JISA4113:2013に準拠
						-	-	-	○	S-004467	93.2	%	有効出湯効 率	標準規格 による評 価	JISA4113:20 13、BLT SO:2015、ま たはSS- TS002	太陽蓄熱 槽、優良住 宅部品性能 試験方法書 太陽熱利用 システム、 または有効 出湯効率試 験	JISA4113:20 13、BLT SO:2015、ま たはSS- TS002	太陽蓄熱 槽、優良住 宅部品性能 試験方法書 太陽熱利用 システム、 または有効 出湯効率試 験	JISA4113:2013、BLT SO:2015、またはSS-TS002に準拠	
L-000863	家庭	動力他	テレビ	液晶テレビ	液晶テレビとは表示装置に液晶を用いた薄型のテレビ受像機をい う。従来はバックライトにCCFL(Cold Cathode Fluorescent Lamp:冷 陰極管)を用いていたが、近年は発光効率の良いLED(発光ダイオー ド)が主流となっている。	-	サイズ	液晶 18V、19V 型	-	S-004337	32	kWh/年	年間消費電 力量	標準規格 による評 価	-	省エネ ギー法	省エネルギー法で定める計算式	-	省エネ ギー法	省エネルギー法で定める試験条件
						-		液晶 22V 型	-	S-004338	34									
						-		液晶 23V、24V 型	-	S-004340	30									
						-		液晶 26V 型	-	S-004342	-									
						-		液晶 29V 型	-	S-004344	-									
						-		液晶 32V 型	-	S-004349	34									
						-		液晶 39V、40V 型	-	S-004428	46									
						-		液晶 42V 型	-	S-004430	77									
						-		液晶 46V 型	-	S-004351	-									
						-		液晶 47V 型	-	S-004357	103							ブラン ク(入 力な し)	省エネ ギー法	省エネルギー法で定める試験条件
						-		液晶 50V、52V 型	-	S-004359	72									
						-		液晶 55V 型	-	S-004361	81									

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標													
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法				試験条件						
												単位	名称		標準規格	規格の名称	計算式	標準規格	規格の名称	試験条件	説明				
							液晶 58V 型以上	-	-	S-004362	107														
L-000864	家庭	動力他	電気便座	電気便座	電気便座は内蔵された電気ヒータにより座面を加温する機能等を持つ便座であり、主に暖房用の便座のみを有する暖房便座と暖房便座に温水洗浄装置を組み込んだ温水洗浄便座がある。さらに、温水洗浄便座の洗浄に使う温水については貯湯タンクをもつ貯湯式と貯湯タンクのない瞬間式がある。※使用時に瞬間的に温水をつくる方式。貯湯式のようにお湯を保温しないので消費電力量を削減できる。また、便座の暖房機能(保温)については学習機能やタイマーによる低炭素技術が導入されており、さらにセンサーが人の動きを感知し、瞬間的に便座を温める。瞬間暖房便座機能が付随しているものもある。				-	S-004436	58	kWh/年	年間消費電力量	標準規格による評価	JISC8841-3:2011及びJISC8842:2013	省エネルギー法	省エネルギー法で定める計算式		省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件					
L-000780	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	燃料電池	固体酸化物形燃料電池(SOFC)設備	電解質を挟んだ二つの電極に酸素と水を供給して電気と熱を発生させる。燃料極、空気極という2枚の電極が、電解質を挟んでいるものをセルといい、セル単体を積み重ねたものをセルスタックという。セルを直列に接続することで、高い電圧と大きな電力が得られる。	出力	200kW以下		○	S-004438	66.7	%	発電効率	標準条件による評価	JISC8841-3:2011及びJISC8842:2013	小形固体酸化物燃料電池システム-第3部-性能試験方法及び環境試験方法及び固体酸化物燃料電池単セル及びスタックの発電性能試験方法	$\eta = (W_{out} - W_{in}) / Q_{f} \times 100$ 、 η_{e} 発電効率[%]、 W_{out} : 送電電力量[kWh]、 W_{in} : 受電電力量[kWh]、 Q_{f} : 積算燃料消費熱量(低位発熱量) [kWh]	JISC8841-3:2011及びJISC8842:2013	小形固体酸化物燃料電池システム-第3部-性能試験方法及び環境試験方法及び固体酸化物燃料電池単セル及びスタックの発電性能試験方法	JISC8841-3:2011及びJISC8842:2013に準拠					
							200kW超250kW以下		○	S-004439	65.4	%													
L-000786	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	太陽光発電	太陽電池(シリコン系・単結晶)	太陽電池は、光の持つエネルギーを、直接的に電力に変換する装置である。太陽電池内部に入射した光のエネルギーは、電子によって直接的に吸収され、PN接合の界面にあらかじめ設けられた電界に導かれ、電力として太陽電池の外部へ出力される。単結晶系は、高純度の単結晶のシリコン基板を使用した太陽電池。実用化されている太陽電池の中で最も変換効率が高く、耐久性・信頼性にも優れている。				●	S-004440	22.63	%	セル実効変換効率	標準規格による評価	JISC8960:2012	太陽光発電用語	JISC8960:2012に準拠	JISC8914:2005	結晶系太陽電池モジュール出力測定方法	JISC8914:2005に準拠					
									○	S-004442	21.2	%	モジュール変換効率	標準規格による評価	JISC8914:2005	結晶系太陽電池モジュール出力測定方法	JISC8914:2005に準拠	JISC8914:2005	結晶系太陽電池モジュール出力測定方法	JISC8914:2005に準拠					
L-000787	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	太陽光発電	太陽電池(シリコン系・多結晶)	太陽電池は、光の持つエネルギーを、直接的に電力に変換する装置である。太陽電池内部に入射した光のエネルギーは、電子によって直接的に吸収され、PN接合の界面にあらかじめ設けられた電界に導かれ、電力として太陽電池の外部へ出力される。結晶の粒径が数mm程度の多結晶シリコンを利用した太陽電池。変換効率の面では単結晶と比較して低いが、単結晶より製造工程が簡便であるため、効率とコストのバランスが良く、普及が進んでいる。				○	S-004443	16.4	%	モジュール変換効率	標準規格による評価	JISC8914:2005	結晶系太陽電池モジュール出力測定方法	JISC8914:2005に準拠	JISC8914:2005	結晶系太陽電池モジュール出力測定方法	JISC8914:2005に準拠					
L-000788	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	太陽光発電	太陽電池(化合物系)	太陽電池は、光の持つエネルギーを、直接的に電力に変換する装置である。太陽電池内部に入射した光のエネルギーは、電子によって直接的に吸収され、PN接合の界面にあらかじめ設けられた電界に導かれ、電力として太陽電池の外部へ出力される。本項目では、主成分に銅(Cu)、インジウム(In)、ガリウム(Ga)、セレン(Se)を用いた化合物であるCIGS系について記載する。薄膜で省材料などの長所をもち、わずか2~3μmの厚さであっても光を十分吸収するため、薄膜太陽電池としては高い変換効率が見られる。				●	S-004445	14.2	%	モジュール変換効率	標準規格による評価	JISC8960:2012	太陽光発電用語	JISC8960:2012に準拠	JISC8939:2013	薄膜太陽電池モジュール	JISC8939:2013に準拠					
L-000789	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	太陽光発電	太陽電池(薄膜シリコン)	太陽電池は、光の持つエネルギーを、直接的に電力に変換する装置である。太陽電池内部に入射した光のエネルギーは、電子によって直接的に吸収され、PN接合の界面にあらかじめ設けられた電界に導かれ、電力として太陽電池の外部へ出力される。薄膜系は、ガラス、金属箔、フィルムなどの上に2~3ミクロンの太陽電池の層を形成させるものである。				○	S-004447	9.6	%	モジュール変換効率	標準規格による評価	JISC8960:2012	太陽光発電用語	JISC8960:2012に準拠	JISC8935:2005	アモルファス太陽電池モジュール出力測定方法	JISC8935:2005に準拠					
L-000790	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	太陽光発電	トランスレス方式パワーコンディショナ(太陽光発電用)	太陽光発電用パワーコンディショナは、直流電力を調整するコンバータ、直流電力を交流電力に変換するインバータ、事故時等に系統を保護する系統連系保護装置で構成される。トランスレス方式は、パワーコンディショナ内の直流電圧調整をコンバータのみで行う方式であり、高周波変圧器絶縁方式に比較し、高効率となるものの電力会社系統との連系には、別途変圧器が必要となる。	出力	10kW未満		○	S-004449	98	%	定格負荷効率	標準規格による評価	JISC8961:2008	太陽光発電用パワーコンディショナの効率測定方法	$\eta_{R-P0} = P_{out} / P_{in} \times 100$ 、 η_{R} : 定格負荷効率[%]、 P_{0} : 定格負荷容量におけるパワーコンディショナの出力[kW]、 P_{in} : 定格負荷容量におけるパワーコンディショナの入力[kW]	JISC8961:2008	太陽光発電用パワーコンディショナの効率測定方法	JISC8961:2008に準拠					

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法				試験条件				
												単位	名称		参照する規程	規程の名称	計算式	参照する規程	規程の名称	説明			
						10kW以上	○	S-004450		98.4													
L-000791	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	太陽光発電	高周波変圧器絶縁方式パワーコンディショナ(太陽光発電用)	太陽光発電用パワーコンディショナは、直流電力を交流電力に変換するインバータ、事故時等に系統を保護する系統連系保護装置で構成される。直流電力を交流電力に変換する際に損失が生じることから、変換効率(定格負荷効率)の高いパワーコンディショナの選定が重要となる。高周波変圧器絶縁方式は、パワーコンディショナ内の直流電圧調整をコンバータと変圧器の組み合わせで行う方式であり、トランスレス方式に比較し、電力変換効率は低下するが、パワーコンディショナから出力された電力はそのまま電力会社系統と連系可能となる。	-	-	-	○	S-004451	96.5	%	定格負荷効率	標準規格による評価	JISC8961:2008	太陽光発電用パワーコンディショナの効率測定方法	$\eta R = P_0 / P_{in} \times 100$ 、 ηR : 定格負荷効率[%]、 P_0 : 定格負荷容量におけるパワーコンディショナの出力[kW]、 P_{in} : 定格負荷容量におけるパワーコンディショナの入力[kW]	JISC8961:2008	太陽光発電用パワーコンディショナの効率測定方法	JISC8961:2008に準拠			
L-000798	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	水力発電	フロベラ水車(小水力発電用)	水を取り込むケーシングから案内羽根を経て下向きの水流に変化させ、羽根車の軸方向に流れてこれを回転させる。落差と流量変化によって羽根の角度を自動的に調節できる可動羽根のものはカプラン水車として区別され、フロベラ水車は常に一定の角度の固定羽根のものを指す。	-	出力	200kW未満	○	S-004373	80	%	水車効率	標準規格による評価	JEC4002:1992	水車およびポンプ水車の効率試験方法	$\eta = (1,000 \times P) \div (g \times \rho \times Q \times H)$ 、 η : 水車効率[%]、 P : 水車出力[kW]、 g : 重力加速度[m/s ²]、 ρ : 水の密度[kg/m ³]、 Q : 流量[m ³ /s]、 H : 有効落差[m]	JEC4002:1992	水車およびポンプ水車の効率試験方法	JEC4002:1992に準拠			
L-000799	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	水力発電	フランスス水車(小水力発電用)	水を取り込むケーシングの中に羽根車(ランナー)を設置し、そこを流れる水の圧力により回転させる水車である。最も一般的な水車で、数10m~数100mの落差に広く使われている。	-	出力	200kW未満	○	S-004454	85	%	水車効率	標準規格による評価	JEC4002:1992	水車およびポンプ水車の効率試験方法	$\eta = (1,000 \times P) \div (g \times \rho \times Q \times H)$ 、 η : 水車効率[%]、 P : 水車出力[kW]、 g : 重力加速度[m/s ²]、 ρ : 水の密度[kg/m ³]、 Q : 流量[m ³ /s]、 H : 有効落差[m]	JEC4002:1992	水車およびポンプ水車の効率試験方法	JEC4002:1992に準拠			
L-000803	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	地熱発電	温水熱源小型バイナリー発電設備	バイナリー発電は、水よりも沸点の低い二次媒体を使うため、より低温の地熱流体での発電に適しており、地熱流体で温められた二次媒体の蒸気でタービン回して発電する。生産井から地熱流体を取り出し、地熱流体で二次媒体を温め、蒸気化し、二次媒体の蒸気でタービンを回転させ発電する。二次媒体を温めた後の地熱流体は、還元井から地下に戻し、発電し終わった二次媒体は、凝縮管で媒体に戻し、循環ポンプで再度、蒸発器に送る。熱源として温水を利用する。	100℃未満、200V/220V	出力	3.0kW未満	-	S-004456	-	%	送電端発電効率	標準条件による評価	環境省により独自に設定された方法	-	$\eta = P/Q \times 100$ 、 η : 送電端発電効率[%]、 P : 送電端出力[kW]、 Q : 入熱量(低位発熱量)[kW]送電端出力=(発電端出力) - (作動媒体ポンプ、インバータ、絶縁トランス)ほかユニット内消費電力)	環境省により独自に設定された方法	送電端発電効率の算出にあたっては、温水入口温度、冷却水入口温度を次のとおり設定することを条件とする。温水入口温度: 95℃以下、冷却水入口温度: 20℃以上				
						3.0kW以上6.5kW未満	-	S-004458		-													
						6.5kW以上45kW未満	●	S-004459		5.7	*												
						45kW以上100kW未満	●	S-004460		6.2	*												
						100kW以上200kW未満	○	S-004462		6.8	*												
						200kW以上300kW未満	-	S-004463		-													

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件				
														単位	名称	標準条件 による評価	環境による 独自に設 定された方 法	環境による 独自に設 定された方 法	環境による 独自に設 定された方 法	説明
						100°C未満、400V/440V	出力	3.0kW未満	-	S-004464	-	%	送電端発電 効率	標準条件 による評 価	環境によ り独自に設 定された方 法	-	$\eta = P/Q \times 100$, η : 送電端発電効率[%], P : 送電 端出力[kW], Q : 入熱量(低位発熱量)[kW]送電端 出力= (発電端出力) - (作動媒体ポンプ、イン バータ、(絶縁トランス)、ほかユニット内消費 電力)	環境によ り独自に設 定された方 法	送電端発電効率の算出にあたっては、温水入口温 度、冷却水入口温度を次のとおり設定すること を条件とする。温水入口温度: 95°C以下、冷却水入 口温度: 20°C以上	
								3.0kW以上6.5kW未満	-	S-004466	-									
								6.5kW以上45kW未満	●	S-004404	6 *									
								45kW以上100kW未満	●	S-004413	6.2 *									
								100kW以上200kW未満	●	S-004416	6.8 *									
								200kW以上300kW未満	-	S-004417	-									
						100°C以上120°C未満、 200V/220V	出力	3.0kW未満	-	S-004419	-	%	送電端発電 効率	標準条件 による評 価	環境によ り独自に設 定された方 法	-	$\eta = P/Q \times 100$, η : 送電端発電効率[%], P : 送電 端出力[kW], Q : 入熱量(低位発熱量)[kW]送電端 出力= (発電端出力) - (作動媒体ポンプ、イン バータ、(絶縁トランス)、ほかユニット内消費 電力)	環境によ り独自に設 定された方 法	送電端発電効率の算出にあたっては、温水入口温 度、冷却水入口温度を次のとおり設定すること を条件とする。温水入口温度: 95°C以下、冷却水入 口温度: 20°C以上	
								3.0kW以上6.5kW未満	-	S-004420	-									
								6.5kW以上45kW未満	-	S-004421	-									
								45kW以上100kW未満	-	S-004422	-									
								100kW以上200kW未満	-	S-004423	-									
								200kW以上300kW未満	-	S-004424	-									

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				-	S-004409	-	測定単位	評価方法の タイプ	標準条件 による評価	環境省によ り独自に設 定された方 法	環境省によ り独自に設 定された方 法	計算方法		試験条件	説明
																				単位	名称		
						100°C以上120°C未満、 400V/440V	出力	3.0kW未満	-	S-004409	-	%	送電端発電 効率	標準条件 による評価	環境省によ り独自に設 定された方 法	環境省によ り独自に設 定された方 法	$\eta = P/Q \times 100$ 、 η : 送電端発電効率[%]、P: 送電 端出力[kW]、Q: 入熱量(低位発熱量)[kW]送電端 出力= (発電端出力) - (作動媒体ポンプ、イン バータ、(絶縁トランス)、ほかユニット内消費 電力)	環境省によ り独自に設 定された方 法	送電端発電効率の算出にあたっては、温水入口温 度、冷却水入口温度を次のとおり設定すること を条件とする。温水入口温度: 115°C以下、冷却水 入口温度: 20°C以上				
								3.0kW以上6.5kW未満	-	S-004410	-												
								6.5kW以上45kW未満	-	S-004412	-												
								45kW以上100kW未満	-	S-004414	-												
								100kW以上200kW未満	-	S-004415	-												
								200kW以上300kW未満	-	S-004411	-												
						120°C以上250°C未満、 200V/220V	出力	3.0kW未満	-	S-004367	-	%	送電端発電 効率	標準条件 による評価	環境省によ り独自に設 定された方 法	環境省によ り独自に設 定された方 法	$\eta = P/Q \times 100$ 、 η : 送電端発電効率[%]、P: 送電 端出力[kW]、Q: 入熱量(低位発熱量)[kW]送電端 出力= (発電端出力) - (作動媒体ポンプ、イン バータ、(絶縁トランス)、ほかユニット内消費 電力)	環境省によ り独自に設 定された方 法	送電端発電効率の算出にあたっては、温水入口温 度、冷却水入口温度を次のとおり設定すること を条件とする。温水入口温度: 245°C以下、冷却水 入口温度: 20°C以上				
								3.0kW以上6.5kW未満	-	S-004368	-												
								6.5kW以上45kW未満	-	S-004369	-												
								45kW以上100kW未満	-	S-004370	-												
								100kW以上200kW未満	-	S-004371	-												
								200kW以上300kW未満	-	S-004372	-												

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				認定 対象	L2-Tech 水準	測定単位		評価方法の タイプ	評価する規程	計算方法		評価する規程	試験条件	
														単位	名称			計算式	規格の名称		規格の名称	説明
						120℃以上250℃未満、 400V/440V	出力	3.0kW未満	-	S-004374	-	%	送電端発電 効率	標準条件 による評 価	環境省によ り独自に設 定された方 法	-	$\eta = P/Q \times 100$ 、 η : 送電端発電効率[%]、P: 送電 端出力[kW]、Q: 入熱量(低位発熱量)[kW]送電端 出力=(発電端出力) - (作動媒体ポンプ、イン バータ、(絶縁トランス)、ほかユニット内消費 電力)	環境省によ り独自に設 定された方 法	送電端発電効率の算出にあたっては、温水入口温 度、冷却水入口温度を次のとおり設定すること を条件とする。温水入口温度: 245℃以下、冷却水 入口温度: 20℃以上			
								3.0kW以上6.5kW未満	-	S-004375	-											
								6.5kW以上45kW未満	-	S-004376	-											
								45kW以上100kW未満	-	S-004377	-											
								100kW以上200kW未満	-	S-004378	-											
								200kW以上300kW未満	-	S-004379	-											
L-000804	エネル ギー転換	事業用発 電(再工 木)	地熱発電	蒸気熱源小型バ イナリー発電設 備	バイナリー発電は、水よりも沸点の低い二次媒体を使うため、より 低温の地熱流体での発電に適しており、地熱流体で温められた 二次媒体の蒸気でタービン回して発電する。生産井から地熱流 体を取り出し、地熱流体で二次媒体を温め、蒸気化し、二次媒体 の蒸気でタービンを回転させ発電する。二次媒体を温めた後の地 熱流体は、還元井から地下に戻し、発電し終わった二次媒体は、 凝縮器で液体に戻し、循環ポンプで再度、蒸発器に送る。熱源と して蒸気を利用する。	200V/220V	出力	3.0kW未満	-	S-004380	-	%	送電端発電 効率	標準条件 による評 価	環境省によ り独自に設 定された方 法	-	$\eta = P/Q \times 100$ 、 η : 送電端発電効率[%]、P: 送電 端出力[kW]、Q: 入熱量(低位発熱量)[kW]送電端 出力=(発電端出力) - (作動媒体ポンプ、イン バータ、(絶縁トランス)、ほかユニット内消費 電力)	環境省によ り独自に設 定された方 法	蒸気送電端発電効率の算出にあたっては、入口蒸 気温度、出口ドレン温度、冷却水入口温度を次の とおり設定することを条件とする。入口蒸気温 度: 130℃以下、出口ドレン温度: 36℃以上、冷 却水入口温度: 20℃以上			
								3.0kW以上6.5kW未満	-	S-004381	-											
								6.5kW以上45kW未満	-	S-004382	-											
								45kW以上100kW未満	-	S-004383	-											
								100kW以上200kW未満	-	S-004384	-											
								200kW以上300kW未満	-	S-004385	-											

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	計算方法		試験条件						
														単位	名称	参照する規格	規格の名称	参照する規格	規格の名称	説明		
						400V/440V	出力	3.0kW未満	-	S-004386	-	%	送電端発電 効率	標準条件 による評 価	環境条件によ り独自に設 定された方 法	規格の名称	計算式	参照する規格	規格の名称	試験条件	説明	
								3.0kW以上6.5kW未満	-	S-004387	-											
								6.5kW以上45kW未満	-	S-004388	-											
								45kW以上100kW未満	-	S-004389	-											
								100kW以上200kW未満	●	S-004390	8.6 *											
								200kW以上300kW未満	-	S-004391	-											
L-000807	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	バイオメタン発電	ガスエンジン発電設備(メタン発酵発電用)	バイオメタンガスを燃料にシリンダー内部で燃料の爆発(膨張)を発生させ、その圧力でピストンを往復動させ、その往復動を回転エネルギーに変える発電装置。ストイキオメトリ燃焼(理論空気で混合したガスが完全燃焼する方式)、リーンバーンと呼ばれる希薄燃焼の二つの方式があり、最近では予混合圧縮自着火燃焼といわれる高圧縮による自然着火でシリンダー内全体をメラメラと燃える点火プラグを用いないものが環境面や高効率化で注目を集めている。	50Hz	出力	100kW未満	●	S-004392	84 *	%	総合効率	標準規格 による評 価	JIS8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	$\eta_{t.out} = \eta_{out} + \eta_{th}$ (発電端)、 $\eta_{t.out}$: 発電端総合効率[%]、 η_{out} : 発電効率[%]、 η_{th} : 熱出力効率[%]	JIS8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JIS8122:2009に準拠、メタン濃度は60%を試験条件とする。		
								100kW以上1000kW未満	○	S-004393	41.8 *											
								100kW未満	○	S-004394	32	%	発電効率	標準規格 による評 価	JIS8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	$\eta_{out} = (3.6 \times P_{out}) \div (H \times F) \times 100$ η_{out} : 発電効率[%] P_{out} : 発電出力(発電端) [kW] H : 燃料の低位発熱量[MJ/m ³ N] F : 燃料消費量[m ³ N/h]	JIS8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JIS8122:2009に準拠、メタン濃度は60%を試験条件とする。		
								100kW以上1000kW未満	○	S-004395	38.8											
						60Hz	出力	100kW未満	●	S-004396	84 *	%	総合効率	標準規格 による評 価	JIS8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	$\eta_{t.out} = \eta_{out} + \eta_{th}$ (発電端)、 $\eta_{t.out}$: 発電端総合効率[%]、 η_{out} : 発電効率[%]、 η_{th} : 熱出力効率[%]	JIS8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JIS8122:2009に準拠、メタン濃度は60%を試験条件とする。		
								100kW以上1000kW未満	-	S-004397	-											

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)			認定 対象	測定単位		評価方法の タイプ	参照する規格	規格の名称	計算方法		試験条件	
												単位	名称				計算式	参照する規格	規格の名称	説明
						100kW未満	○	S-004398	32	%	発電効率	標準規格 による評 価	JIS8122:200 9	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	$\eta_{t.out} = \eta_{out} + \eta_h$ (発電端)、 $\eta_{t.out}$: 発電端総合効 率[%]、 η_{out} : 発電効率[%]、 η_h : 熱出力効率[%]	JIS8122:200 9	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JIS8122:2009に準拠、メタン濃度は60%を試験条 件とする。		
					100kW以上1000kW未満	-	S-004399	-												
L-000808	エネル ギー転換	地域熱供 給	熱輸送	潜熱蓄熱輸送設 備	潜熱蓄熱材 (PCM:Phase Change Material) をコンテナに充填し、 PCMの融解熱として高密度に熱エネルギーを蓄えて、車輛により 広範囲に熱を供給する技術。	蓄熱容量、排熱源温度	○	S-004400	11.2 *	[eq]	エネルギー 効率	標準条件 による評 価	環境省より 独自に設 定された方 法	環境省により 独自に設 定された方 法	$\eta_{eq} = \frac{Q_{out}}{Q_{in}}$ 、投入エネルギー 量[Qin]=熱回収に要するエネルギー量 (Ostorage)、+熱輸送に要するエネルギー量 (Otransfer)、+熱供給に要するエネルギー量 (Osupply)、熱供給量(Qout) = 需要先に供 給した正味の熱供給量	環境省より 独自に設 定された方 法	環境省により 独自に設 定された方 法	エネルギー効率の算出にあたっては、供給距離、 車両燃費、供給温度を次のとおり設定すること を条件とする。供給距離：10km、車両燃費：蓄熱 容量850kWh以上 2.5km/l、蓄熱容量850kWh未満 4.0km/l		
					蓄熱容量850kWh以上、排 熱源温度130℃以上	○	S-004401	8.8 *												
					蓄熱容量850kWh未満、排 熱源温度130℃未満	○	S-004402	6.8 *												
					蓄熱容量850kWh未満、排 熱源温度130℃未満	○	S-004403	4.8 *												
L-000829	廃棄物・ リサイクル	リサイク ル	リン回収 設備	リン回収設備 HAP法(し尿・ 浄化槽汚泥用)	リン酸を含む汚水の生物処理水に対して、晶析槽においてカルシ ウム材を添加し、pH調整することによりHAP(ヒドロキシアパタ イト、Ca10(PO4)6(OH)2)の結晶を析出させる方法。回収したリンは 副産りん酸肥料として再利用可能。		○	S-004405	80 *	%	PO4-P除去 率	標準条件 による評 価	環境省手引 き	リン回収・ 利活用の手 引き	(晶析槽入口PO4-P濃度-晶析槽出口PO4-P濃度) /晶析槽入口PO4-P濃度	環境省大臣 官房廃棄 物・リサイ クル対策部 廃棄物対策 課	リン回収・ 利活用の手 引き	処理量の内訳 し尿：浄化槽汚泥= 4 : 6、し尿 T-P濃度：270mg/L、し尿PO4-P濃度：189mg/L、 浄化槽汚泥T-P濃度：150mg/L、浄化槽汚泥PO4-P 濃度：60mg/L、混合T-P濃度：198mg/L、混合 PO4-P濃度：112mg/L		
L-000830	廃棄物・ リサイクル	リサイク ル	リン回収 設備	リン回収設備 MAP法(し尿・ 浄化槽汚泥用)	リン酸を含む汚水に対して、晶析槽においてマグネシウム材を添 加し、pH調整することによりMAP(リン酸マグネシウムアンモニ ウム、(MgNH4PO4)の結晶を析出させる方法。回収したリンは化 成肥料として再利用可能。		○	S-004406	75 *	%	PO4-P除去 率	標準条件 による評 価	環境省手引 き	リン回収・ 利活用の手 引き	(晶析槽入口PO4-P濃度-晶析槽出口PO4-P濃度) /晶析槽入口PO4-P濃度	環境省大臣 官房廃棄 物・リサイ クル対策部 廃棄物対策 課	リン回収・ 利活用の手 引き	処理量の内訳 し尿：浄化槽汚泥= 4 : 6、し尿 T-P濃度：270mg/L、し尿PO4-P濃度：189mg/L、 浄化槽汚泥T-P濃度：150mg/L、浄化槽汚泥PO4-P 濃度：60mg/L、混合T-P濃度：198mg/L、混合 PO4-P濃度：112mg/L		
L-000831	廃棄物・ リサイクル	リサイク ル	リン回収 設備	リン回収設備 MAP法(下水汚 泥用)	脱水ろ液からリン回収する従来事例に対し、よりリン含有量の高 い下水汚泥からMAP(リン酸マグネシウムアンモニウム)として 回収する「MAP法」が平成24/25年度国交省B-DASH採択事業で開 発された。回収したリンは配合肥料(化成肥料)として再利用可 能。		○	S-004407	90 *	%	PO4-P除去 率	標準条件 による評 価	国土交通省 ガイドライ ン	資料No.805 B-DASHプロ ジェクト NO.6 2014年 8月汚泥汚泥 からのリン 除去・回収 技術導入ガ イドライン (案)	(消化汚泥PO4-P濃度-リン処理PO4-P濃度)/消 化汚泥PO4-P濃度	国土交通省 国土技術政 策総合研究 所	資料No.805 B-DASHプロ ジェクト NO.6 2014年 8月汚泥汚泥 からのリン 除去・回収 技術導入ガ イドライン (案)	消化汚泥濃度 (TS)：1.7%、消化汚泥T-P濃度： 600mg/L、消化汚泥PO4-P濃度：200mg/L		
L-000833	廃棄物・ リサイクル	リサイク ル	選別機	近赤外線樹脂選 別機	プラスチックに近赤外線を照射すると材質により吸収される波長 が異なることを利用し、特定の材質の選別を行う。コンベア先端 のエアノズルで吹き落とす選別する。PVC,PVDC除去(サーマル リサイクル)やPP,PS,ABS選別(マテリアルリサイクル)に使用 される。		○	S-004408	3	種類	選別樹脂種 別数	標準条件 による評 価	環境省交付 規定	H27年度二 酸化炭素排 出抑制対策 事業等補助 金(省CO2 型リサイク ル高度化設 備導入促進 事業)交付 規定	選別樹脂種類数に残渣は含まない	環境省より 独自に設 定	選別率：99%、(ベルトコンベア幅100mmあた りの樹脂の投入量が50kg/h以内の場合)			

別紙

No.	設備・機器等	クラス		L2-Tech水準	備考
		条件	能力		
水準1	BEMS（制御サービス・空調・熱源・中央方式）	空気熱源仕様	-	<p>下記の①～⑤の条件を満たすBEMSサービスであること。</p> <p>①冷水負荷熱量、冷水出口温度、外気温度、熱源機エネルギー消費量、冷水ポンプエネルギー消費量を計測できる機能を保有 ②上記①の計測粒度が1分単位以内であること ③冷水負荷熱量、冷水出口温度、外気温度、を説明変数として、合計のエネルギー消費量（熱源機エネルギー消費量、冷水ポンプエネルギー消費量の合計）が最小となるような冷水出口温度を（過去の実績データに基づいて）自動で算出できる機能を保有 ④上記の算出結果に基づいて冷水出口温度を自動制御できる機能を保有 ⑤導入可能な施設が、限定されない</p>	<p>複数の設備・機器等及び事業者にまたがりサービスが提供されるケースが存在するため、「BEMSサービス」を認証単位とした。その上で、審査・認証の実現可能性の観点から「具備機能による評価」を行うこととした。</p> <p>事例調査の結果、BEMSサービスには、情報提供サービス及び制御サービスが存在するが、中でも提供件数の最も多い中央方式の空調機を対象とした制御サービスを認証対象として設定した。</p> <p>文献調査及び企業・有識者へのヒアリングに基づき、サービスにおいて求められる機能要件は、下記の通りとし、本リストでは下記の「要件0」及び「要件1」に基づいて水準を設定している。</p> <p>要件0（必須）：導入可能な施設が限定されない 要件1：セントラル空調システム全体のエネルギー消費量が最小となる負荷熱量を自動で算出し、それに基づいて自動的にシステムを制御可能</p>
水準2	BEMS（制御サービス・空調・熱源・中央方式）	水熱源仕様	-	<p>下記の①～⑤の条件を満たすBEMSサービスであること。</p> <p>①冷水負荷熱量、冷水出口温度、冷却水入口温度、外気温度、熱源機エネルギー消費量、熱源補機エネルギー消費量、冷水ポンプエネルギー消費量、冷却水ポンプエネルギー消費量を計測できる機能を保有 ②上記①の計測粒度が1分単位以内であること ③冷水負荷熱量、冷水出口温度、冷却水入口温度、外気温度を説明変数として、合計のエネルギー消費量（熱源機エネルギー消費量、熱源補機エネルギー消費量、冷水ポンプエネルギー消費量、冷却水ポンプエネルギー消費量の合計）が最小となるような冷水出口温度を（過去の実績データに基づいて）自動で算出できる機能を保有 ④上記③の算出結果に基づいて冷水出口温度を自動制御できる機能を保有 ⑤導入可能な施設が、限定されない</p>	<p>複数の設備・機器等及び事業者にまたがりサービスが提供されるケースが存在するため、「BEMSサービス」を認証単位とした。その上で、審査・認証の実現可能性の観点から「具備機能による評価」を行うこととした。</p> <p>事例調査の結果、BEMSサービスには、情報提供サービス及び制御サービスが存在するが、中でも提供件数の最も多い中央方式の空調機を対象とした制御サービスを認証対象として設定した。</p> <p>文献調査及び企業・有識者へのヒアリングに基づき、サービスにおいて求められる機能要件は、下記の通りとし、本リストでは下記の「要件0」及び「要件1」に基づいて水準を設定している。</p> <p>要件0（必須）：導入可能な施設が限定されない 要件1：セントラル空調システム全体のエネルギー消費量が最小となる負荷熱量を自動で算出し、それに基づいて自動的にシステムを制御可能</p>
水準3	HEMS（情報提供サービス・家電全般）	-	-	<p>下記の①～⑤の条件を満たすHEMSサービスであること。</p> <p>①対象住宅全体の電力消費量を、30分単位以内で計測できる機能を保有 ②上記①において計測したエネルギー消費量と、他住宅で計測したエネルギー消費量を比較し、対象住宅全体のエネルギー消費量のランキング情報を表示できる機能を保有 ③上記②のランキング情報を、対象住宅におけるユーザー属性別※に表示できる機能を保有 ※地域別、間取別、家族構成別の3種いずれも ④導入可能な住宅が、単一の住宅メーカーが供給する住宅に限定されない ⑤導入の際にインターネット接続サービスへの加入が必要な場合、集合住宅向け全戸一括契約型へのサービス加入を前提としない</p>	<p>複数の設備・機器等及び事業者にまたがりサービスが提供されるケースが存在するため、「HEMSサービス」を認証単位とした。その上で、審査・認証の実現可能性の観点から「具備機能による評価」を行うこととした。</p> <p>事例調査の結果、HEMSサービスには、情報提供サービス及び制御サービスが存在するが、中でも提供件数の最も多い家電全般を対象とした情報提供サービスを認証対象として設定した。</p> <p>文献調査及び企業・有識者へのヒアリングに基づき、サービスにおいて求められる機能要件は、下記のいずれかとし、本リストでは「要件0」および「要件3」を対象とし水準を設定している。</p> <p>要件0（必須）：導入可能な住宅が限定的されていない 要件1：現状のエネルギー消費量に応じて省エネアドバイス、および目標の省エネ量が提供可能 要件2：現状の光熱水道費に応じて節約アドバイス、および目標の節約額を提供可能 要件3：エネルギー消費量が類似している世帯との比較情報の提供が可能 要件4：過去のサービス利用履歴の情報に基づいて、より興味・関心の強い情報の提供が可能 要件5：現状のエネルギー消費量が自身の平均的な消費量と比較して多くなったタイミングで、消費量が多いことを閲覧頻度が多い媒体へPush配信可能</p>
水準4	内部熱交換最適化蒸留システム	蒸留塔が高圧部（濃縮部）と低圧部（回収部）とで物理的に分離しており一体型でないもの	-	<p>下記の①および②の条件を満たす蒸留システムであること。</p> <p>①高圧部と低圧部とで熱交換できる機能を保有 ②蒸留塔内部の熱分布を調整し熱交換率を最適化できる機能を保有</p>	<p>本設備・機器等は、個別受注設計生産されるため標準条件（試験条件、計算方法）を設定し、定量評価する方法はそぐわないと判断し、審査・認証の実現可能性の観点から「具備機能による評価」を行うこととした。</p> <p>文献調査及び企業・有識者へのヒアリングに基づき、本設備・機器等として求められる機能要件をL2-Tech水準とした。</p>